
龍ヶ崎市
地域福祉に関するアンケート調査

【結果報告書】

令和3年10月
龍ヶ崎市

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	3
2 調査対象者.....	3
3 調査方法と調査期間.....	3
4 回収結果.....	3
5 設問項目.....	3
6 注意点.....	3
II 調査の結果	5
1 あなたご自身のことについて.....	7
2 あなたと「地域との関わり」について.....	12
3 「地域に関わる活動」について.....	44
4 「地域福祉施策」について.....	58
III 調査のまとめ	85
1 回答者の属性について.....	87
2 あなたと「地域との関わり」について.....	87
3 「地域に関わる活動」について.....	88
4 「地域福祉施策」について.....	89
IV 資料編（使用した調査票）	91

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、平成 28 年度に策定した「龍ヶ崎市第 2 期地域福祉計画」が間もなく計画期間の終期を迎えることから、これまでの取組を検証し、成果を把握するとともに、次期計画を策定するにあたっての基礎資料とすることを目的に実施するものです。

2 調査対象者

- 市内在住の 18 歳以上 2,000 人

3 調査方法と調査期間

- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査期間：令和 3 年 6 月 11 日（金）～令和 3 年 7 月 20 日（火）

4 回収結果

配布数	回収数	回収率
2,000 件	677 件	33.9%

5 設問項目

本調査における主な設問は、以下の 4 項目となります。

- ①あなたご自身のことについて
- ②あなたと「地域との関わり」について
- ③「地域に関わる活動」について
- ④「地域福祉施策」について

6 注意点

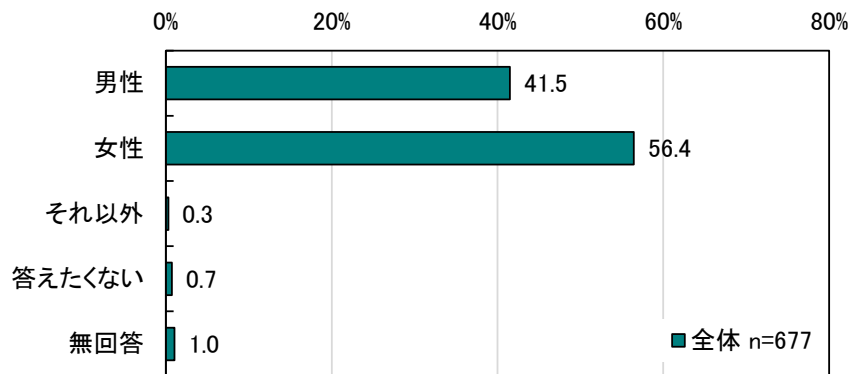
- 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表しています。
- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を母数として、小数点第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位までを示しているため、その合計値が 100%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答比率の合計が 100%を超える場合があります。
- 平成 19 年に実施した地域福祉に関するアンケート調査（以下、「前回調査」といいます。）でも取り上げた設問（問 8、問 10、問 16、問 19～問 22、問 24）については、比較分析も行っています。

II 調査の結果

1 あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ○)

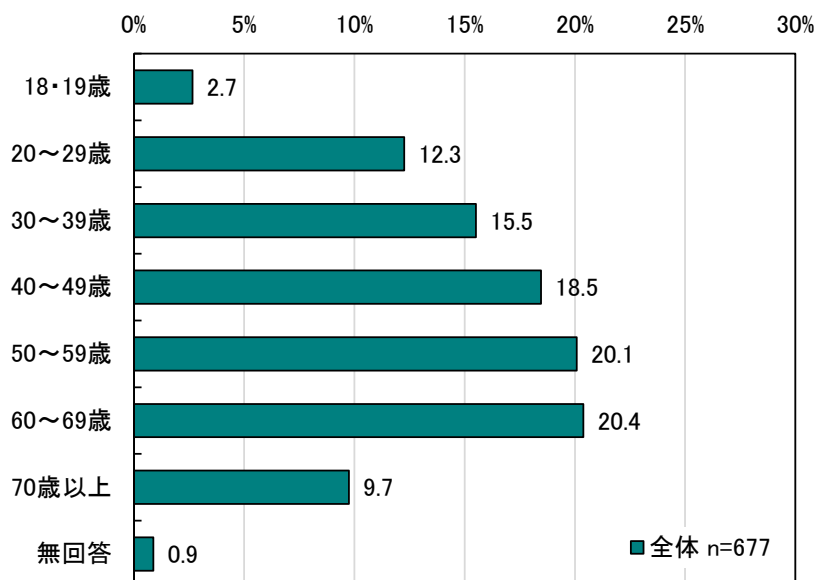
性別については、「男性」が41.5%、「女性」が56.4%、「それ以外」が0.3%、「答えたくない」が0.7%となっています。



問2 あなたの年齢をお答えください。(ひとつだけ○)

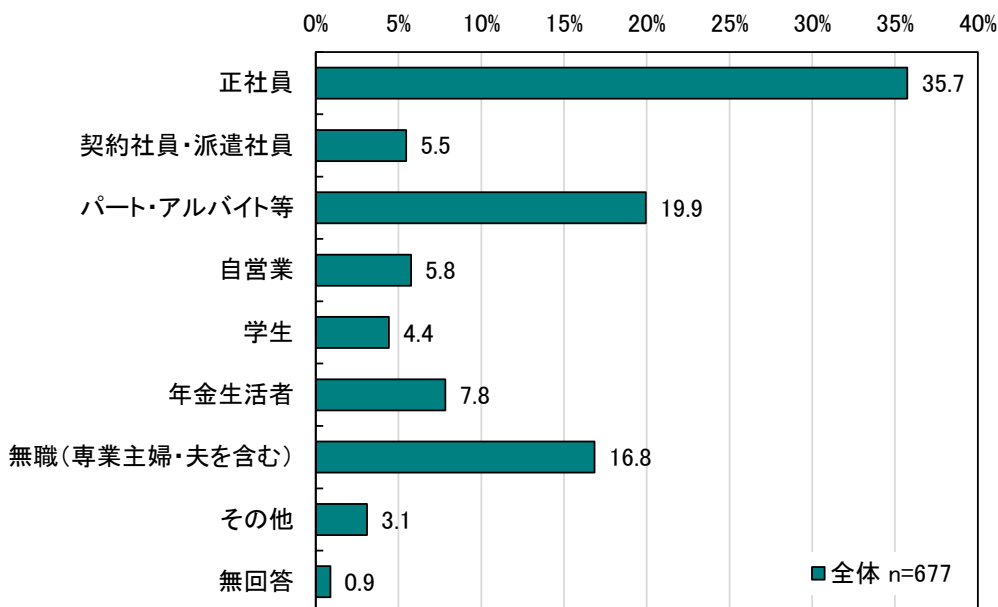
※令和3年6月1日現在でお答えください。

年齢については、「60～69歳」が20.4%で最も高く、次いで「50～59歳」が20.1%、「40～49歳」が18.5%となっています。



問3 あなたの就労状況（職業）は次のどれに当てはまりますか。（ひとつだけ○）

就労状況については、「正社員」が35.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等」が19.9%、「無職（専業主婦・夫を含む）」が16.8%となっています。

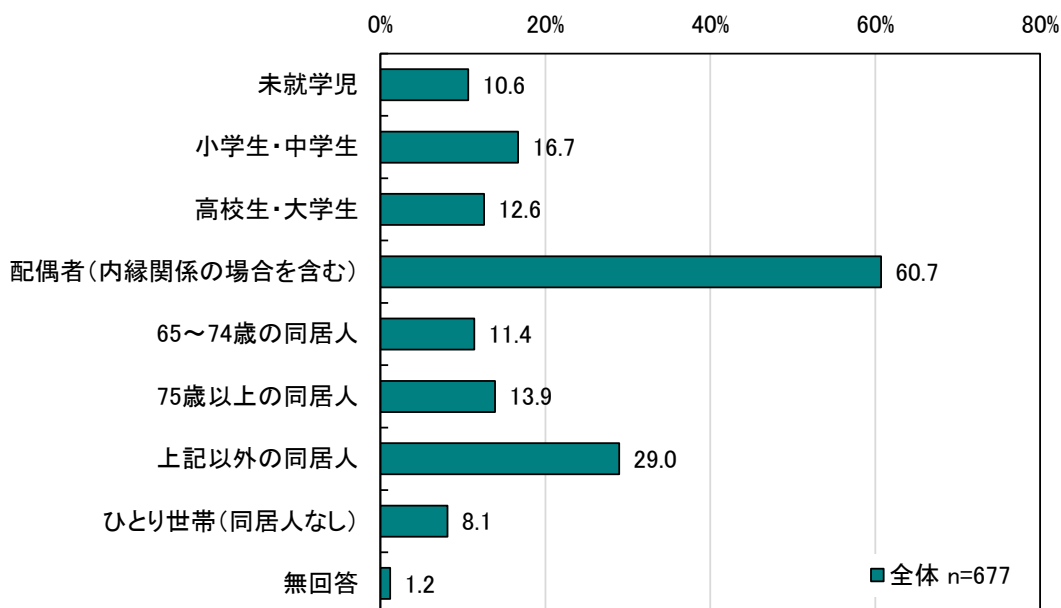


■ その他の回答

- ・会社役員
- ・公務員
- ・大学教員
- ・フリーランス
- ・非常勤職員
- ・会計年度職員
- ・高校の用務員
- ・就労継続支援B型
- ・農業
- ・教諭
- ・通所
- ・答えたくない

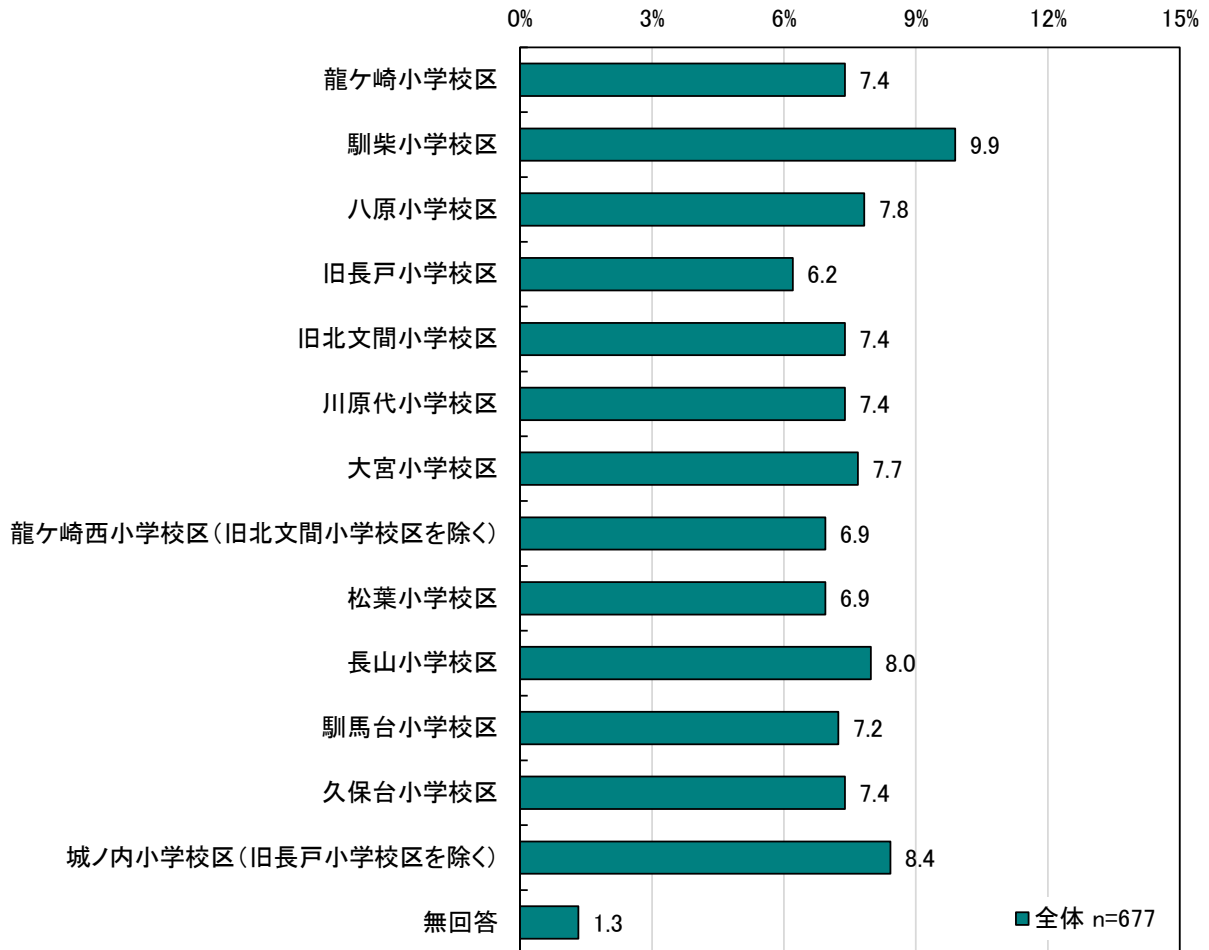
問4 あなたの家族構成（同居人）について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

家族構成については、「配偶者（内縁関係の場合を含む）」が60.7%で最も高く、次いで「上記以外の同居人」が29.0%、「小学生・中学生」が16.7%となっています。



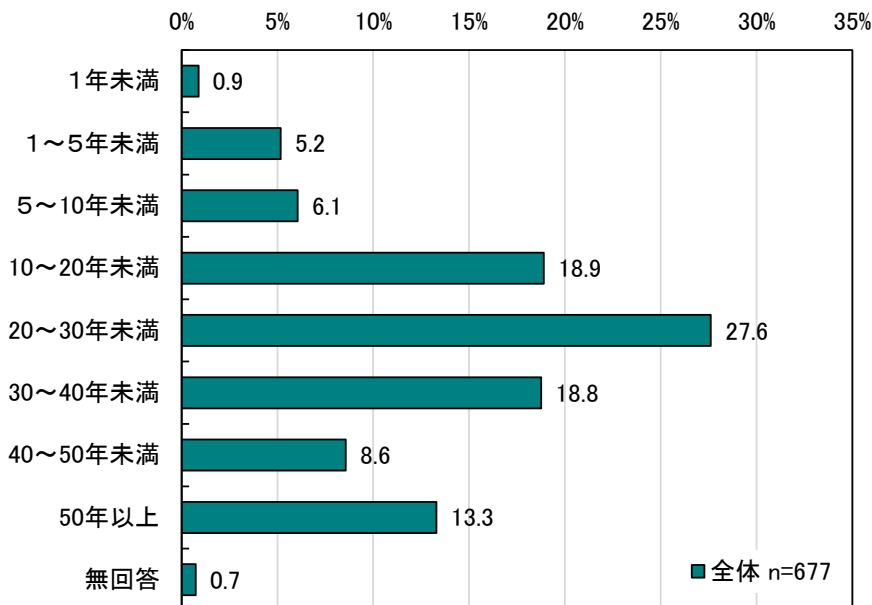
問5 あなたがお住まいの地区（小学校区）はどこですか。（ひとつだけ○）

居住地区については、「馴柴小学校区」が9.9%で最も高く、次いで「城ノ内小学校区（旧長戸小学校区を除く）」が8.4%、「長山小学校区」が8.0%となっています。



問6 龍ヶ崎市に、あなたは何年住んでいますか。(ひとつだけ○)

居住年数については、「20～30年未満」が27.6%で最も高く、次いで「10～20年未満」が18.9%、「30～40年未満」が18.8%となっています。



■ 地区別

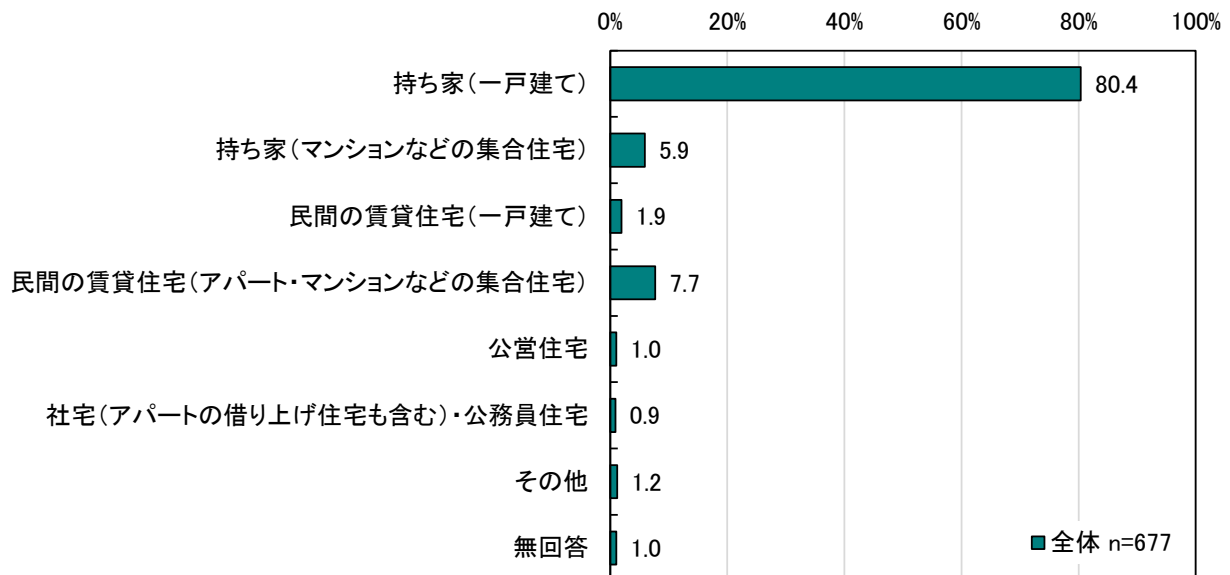
地区別にみると、10年未満の居住年数は、『城ノ内小学校区』が22.8%で最も高く、次いで『八原小学校区』が16.9%、『川原代小学校区』が16.0%となっています。

一方で、30年以上の居住年数は、『大宮小学校区』が69.3%で最も高く、次いで『旧長戸小学校区』が64.4%、『旧北文間小学校区』が60.0%となっています。

		1年未満	1～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40～50年未満	50年以上	無回答
単位: %										
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	6.0	4.0	12.0	30.0	16.0	10.0	20.0	0.0
	馴柴小学校区 n=67	1.5	6.0	7.5	20.9	29.9	10.4	10.4	13.4	0.0
	八原小学校区 n=53	0.0	7.5	9.4	30.2	28.3	13.2	5.7	5.7	0.0
	旧長戸小学校区 n=42	0.0	4.8	2.4	9.5	19.0	16.7	16.7	31.0	0.0
	旧北文間小学校区 n=50	0.0	2.0	6.0	8.0	24.0	28.0	10.0	22.0	0.0
	川原代小学校区 n=50	2.0	4.0	10.0	10.0	26.0	16.0	10.0	22.0	0.0
	大宮小学校区 n=52	0.0	3.8	1.9	15.4	9.6	21.2	15.4	32.7	0.0
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	0.0	6.4	0.0	14.9	31.9	27.7	8.5	10.6	0.0
	松葉小学校区 n=47	0.0	8.5	2.1	23.4	23.4	38.3	4.3	0.0	0.0
	長山小学校区 n=54	1.9	3.7	7.4	27.8	27.8	24.1	7.4	0.0	0.0
	馴馬台小学校区 n=49	0.0	6.1	8.2	10.2	40.8	20.4	6.1	8.2	0.0
	久保台小学校区 n=50	0.0	2.0	4.0	40.0	40.0	10.0	2.0	2.0	0.0
	城ノ内小学校区 n=57	3.5	5.3	14.0	21.1	31.6	7.0	7.0	10.5	0.0

問7 あなたのお住まいの形態は次のどれですか。(ひとつだけ○)

住まいの形態については、「持ち家（一戸建て）」が80.4%で最も高く、次いで「民間の賃貸住宅（アパート・マンションなどの集合住宅）」が7.7%、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が5.9%となっています。



■ その他の回答

- ・ 他人所有の戸建てに同居
- ・ 実家
- ・ 同居
- ・ グループホーム

■ 地区別

地区別にみると、「持ち家（一戸建て）」は、『旧北文間小学校区』が98.0%で最も高く、次いで『旧長戸小学校区』が95.2%、『大宮小学校区』が92.3%となっています。

また、「民間の賃貸住宅（アパート・マンションなどの集合住宅）」は、『龍ヶ崎西小学校区』が19.1%で最も高く、次いで『城ノ内小学校区』が17.5%となっています。

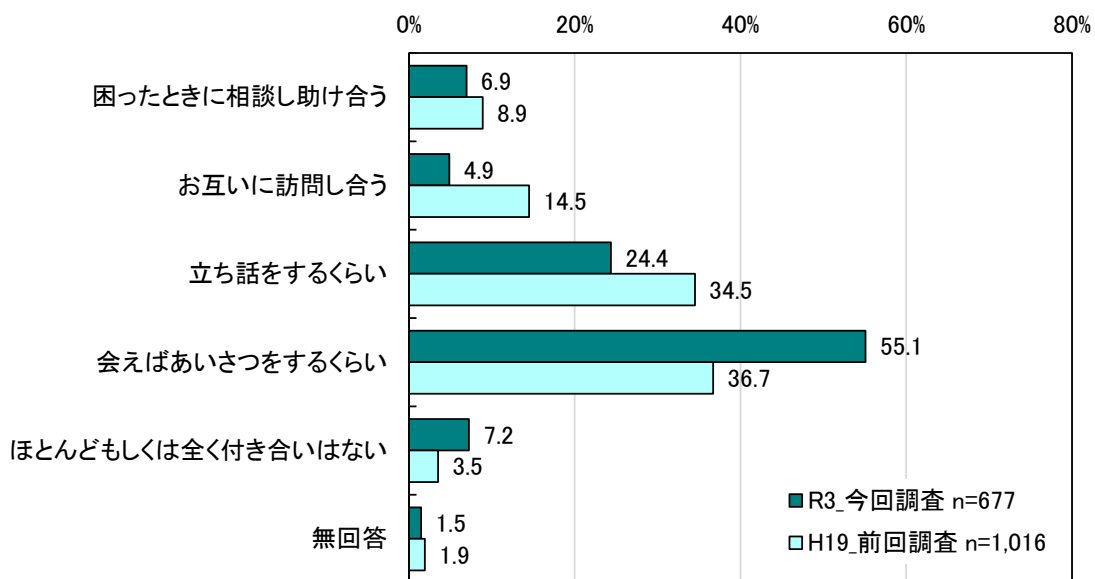
地区別	持ち家（一戸建て）	持ち家（マンションなどの集合住宅）	民間の賃貸住宅（一戸建て）	民間の賃貸住宅（アパート・マンションなどの集合住宅）	公営住宅	社宅（アパートの借り上げ住宅も含む）・公務員住宅	その他	無回答
単位：%								
龍ヶ崎小学校区 n=50	82.0	0.0	4.0	10.0	2.0	0.0	2.0	0.0
馴柴小学校区 n=67	67.2	16.4	1.5	11.9	0.0	1.5	1.5	0.0
八原小学校区 n=53	88.7	0.0	0.0	9.4	0.0	0.0	1.9	0.0
旧長戸小学校区 n=42	95.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	2.4	0.0
旧北文間小学校区 n=50	98.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川原代小学校区 n=50	84.0	0.0	6.0	8.0	0.0	0.0	0.0	2.0
大宮小学校区 n=52	92.3	1.9	1.9	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
龍ヶ崎西小学校区 n=47	76.6	0.0	2.1	19.1	0.0	0.0	2.1	0.0
松葉小学校区 n=47	66.0	12.8	4.3	4.3	6.4	4.3	0.0	2.1
長山小学校区 n=54	83.3	1.9	1.9	5.6	5.6	0.0	1.9	0.0
馴馬台小学校区 n=49	79.6	16.3	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
久保台小学校区 n=50	64.0	26.0	0.0	6.0	0.0	2.0	2.0	0.0
城ノ内小学校区 n=57	78.9	0.0	0.0	17.5	0.0	1.8	1.8	0.0

2 あなたと「地域との関わり」について

問8 あなたは、近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。(ひとつだけ○)

近所付き合いの状況については、今回調査では、「会えばあいさつをするくらい」が55.1%で最も高く、次いで「立ち話をするくらい」が24.4%、「ほとんどもしくは全く付き合いはない」が7.2%となっています。

前回調査と比較してみると、「会えばあいさつをするくらい」が18.4ポイント、「ほとんどもしくは全く付き合いはない」が3.7ポイント増加していることから、地域コミュニティの希薄化が進行していると考えられます。



■ 年齢別

年齢別にみると、「会えばあいさつをするくらい」、「ほとんどもしくは全く付き合いはない」は、年齢が低くなるほど割合が高くなる傾向がみられます。一方で、「困ったときに相談し助け合う」、「立ち話をするくらい」は、年齢が高くなるほど割合が高くなっています。

年齢別	困ったときに相談し助け合う	お互いに訪問し合う	立ち話をするくらい	会えばあいさつをするくらい	ほとんどもしくは全く付き合いはない	無回答
18・19歳 n=18	0.0	0.0	5.6	77.8	16.7	0.0
20～29歳 n=83	4.8	0.0	7.2	73.5	13.3	1.2
30～39歳 n=105	4.8	1.9	11.4	74.3	6.7	1.0
40～49歳 n=125	6.4	4.0	23.2	58.4	7.2	0.8
50～59歳 n=136	5.1	2.9	33.8	49.3	8.1	0.7
60～69歳 n=138	10.9	11.6	34.1	40.6	2.9	0.0
70歳以上 n=66	12.1	9.1	36.4	36.4	4.5	1.5

単位：%

■地区別

地区別にみると、「ほとんどもしくは全く付き合いはない」は、『久保台小学校区』が12.0%で最も高く、次いで『八原小学校区』が11.3%、『龍ヶ崎小学校区』が10.0%となっています。

単位：%		困ったときに相談し助け合う	お互いに訪問し合う	立ち話をするくらい	会えばあいさつをするくらい	ほとんどもしくは全く付き合いはない	無回答
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	4.0	4.0	20.0	62.0	10.0	0.0
	馴染小学校区 n=67	7.5	6.0	19.4	59.7	7.5	0.0
	八原小学校区 n=53	7.5	0.0	24.5	56.6	11.3	0.0
	旧長戸小学校区 n=42	14.3	7.1	26.2	50.0	2.4	0.0
	旧北文間小学校区 n=50	8.0	10.0	26.0	52.0	4.0	0.0
	川原代小学校区 n=50	8.0	4.0	28.0	52.0	6.0	2.0
	大宮小学校区 n=52	7.7	7.7	26.9	46.2	7.7	3.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	8.5	8.5	17.0	59.6	6.4	0.0
	松葉小学校区 n=47	10.6	0.0	19.1	59.6	8.5	2.1
	長山小学校区 n=54	3.7	3.7	33.3	51.9	7.4	0.0
	馴染台小学校区 n=49	6.1	6.1	28.6	57.1	2.0	0.0
	久保台小学校区 n=50	4.0	6.0	28.0	50.0	12.0	0.0
	城ノ内小学校区 n=57	3.5	1.8	22.8	61.4	8.8	1.8

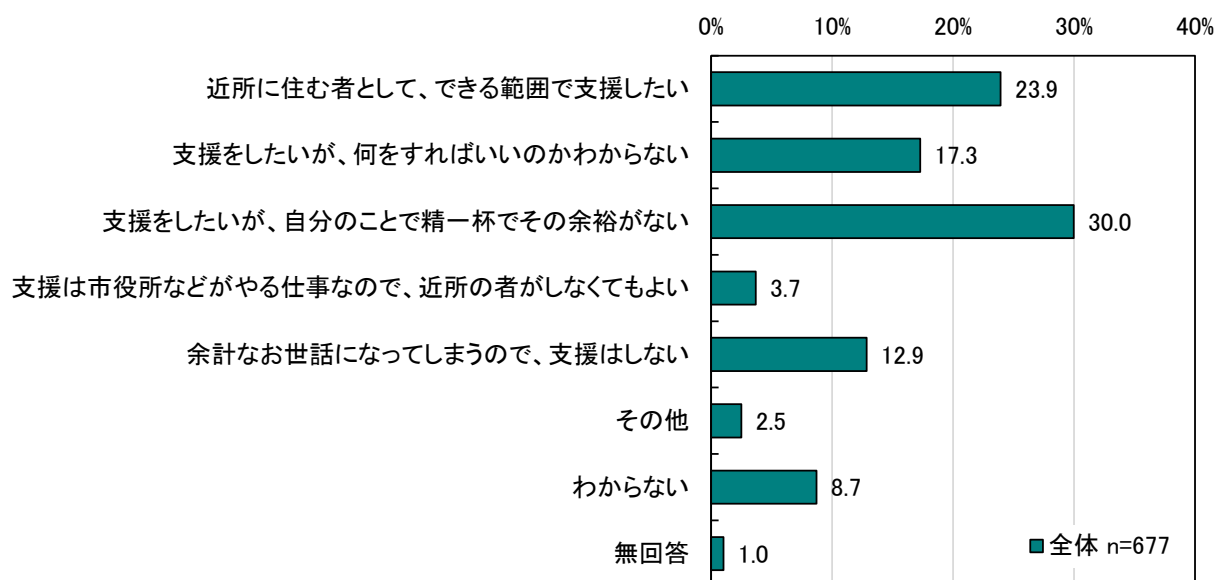
■居住年数別

居住年数別にみると、居住年数が長いほうが、「困ったときに相談し助け合う」、「お互いに訪問し合う」、「立ち話をするくらい」の割合は、高くなる傾向がみられます。

単位：%		困ったときに相談し助け合う	お互いに訪問し合う	立ち話をするくらい	会えばあいさつをするくらい	ほとんどもしくは全く付き合いはない	無回答
居住年数別	1年未満 n=6	0.0	0.0	16.7	50.0	33.3	0.0
	1～5年未満 n=35	0.0	0.0	11.4	74.3	14.3	0.0
	5～10年未満 n=41	2.4	2.4	9.8	78.0	4.9	2.4
	10～20年未満 n=128	4.7	2.3	19.5	60.9	11.7	0.8
	20～30年未満 n=187	8.6	1.6	25.1	56.1	8.0	0.5
	30～40年未満 n=127	4.7	7.9	26.0	53.5	6.3	1.6
	40～50年未満 n=58	10.3	10.3	37.9	39.7	1.7	0.0
	50年以上 n=90	13.3	11.1	32.2	42.2	1.1	0.0

問9 隣近所に住んでいる、何らかの支援を必要としている方（ひとり暮らしの高齢者・介護をしている家族、子育て中の家族等）への支援（日常生活上の手助け・お手伝い）について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（ひとつだけ○）

地域住民への支援に対する考え方については、「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」が30.0%で最も高く、次いで「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」が23.9%、「支援をしたいが、何をすればいいのかわからない」が17.3%となっています。



■その他の回答

- できる範囲でお手伝いしたいと思うが、余計なお世話と思われるのも嫌です。
- 自分の生活や仕事に支障のない範囲。
- プライバシーに配慮しつつ、必要に応じたお手伝いをしたい。
- 自分が生涯未婚で、今年50歳を迎え、両親も他界し、兄弟姉妹なし、子どもなし、身内にも一人で生きていってと言われるので、手助け、お手伝いなど、他人にかまっているより、自分自身を養うので精一杯。
- 自分にできることなんか何もないと思う。
- 依頼があればやるけど、自分からは言いづらい。
- 基本的に「支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい」の考えだが、軽微な支援をたまにならば良い。
- 私自身が障がい者。
- 頼まれればできる範囲でやる。ただし、あてにされるのは困る。
- 自分自身が支援を受けている立場なので、非常に感謝している。
- まずは自助、次に公助、共助の順で進むべきと考えます。
- 育児真っただ中なので、どんどん支援してほしい。
- コロナで△です。求められれば対応します。
- 近所の人との親しさや支援の必要具合によって。
- 自分の家族の考えもあるので、一人では決められない。
- 余計なお世話になる可能性もあるので、具体的な支援の必要があり、自分がお手伝いできるものに限って支援したいと考える。
- 興味がなく、また干渉したいと思わない。

■地区別

地区別にみると、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」は、『旧長戸小学校区』が42.9%で最も高く、次いで『旧北文間小学校区』が34.0%、『大宮小学校区』が28.8%となっています。

単位：%		近所に住む者として、できる範囲で支援したい	支援をしたが、何をすればいいかわからない	支援をしたが、自分のことで精一杯でその余裕がない	支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい	余計なお世話になってしまうので、支援はしない	その他	わからない	無回答
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	20.0	16.0	32.0	2.0	20.0	0.0	8.0	2.0
	馴染小学校区 n=67	25.4	17.9	35.8	4.5	4.5	1.5	10.4	0.0
	八原小学校区 n=53	13.2	18.9	41.5	3.8	11.3	3.8	7.5	0.0
	旧長戸小学校区 n=42	42.9	9.5	19.0	4.8	19.0	2.4	2.4	0.0
	旧北文間小学校区 n=50	34.0	8.0	30.0	0.0	6.0	8.0	12.0	2.0
	川原代小学校区 n=50	16.0	24.0	24.0	6.0	14.0	4.0	12.0	0.0
	大宮小学校区 n=52	28.8	1.9	42.3	5.8	9.6	3.8	7.7	0.0
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	23.4	17.0	27.7	4.3	19.1	0.0	8.5	0.0
	松葉小学校区 n=47	19.1	17.0	42.6	2.1	12.8	4.3	2.1	0.0
	長山小学校区 n=54	27.8	18.5	29.6	1.9	11.1	1.9	9.3	0.0
	馴馬台小学校区 n=49	22.4	26.5	28.6	4.1	8.2	0.0	10.2	0.0
	久保台小学校区 n=50	24.0	26.0	26.0	4.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	城ノ内小学校区 n=57	19.3	22.8	14.0	5.3	22.8	3.5	12.3	0.0

■愛着度別

地域への愛着度別にみると、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」は、『とても愛着がある』が37.7%、『ある程度愛着がある』が25.3%と高いのに対し、『あまり愛着がない』が10.6%、『まったく愛着がない』は回答がありませんでした。一方で、「余計なお世話になってしまうので、支援はしない」は、『とても愛着がある』が9.6%、『ある程度愛着がある』が10.8%と低いのに比べ、『あまり愛着がない』が24.7%、『まったく愛着がない』が20.0%でした。

以上のことから、地域への愛着度が高いほど、支援意欲が高いことがうかがえます。

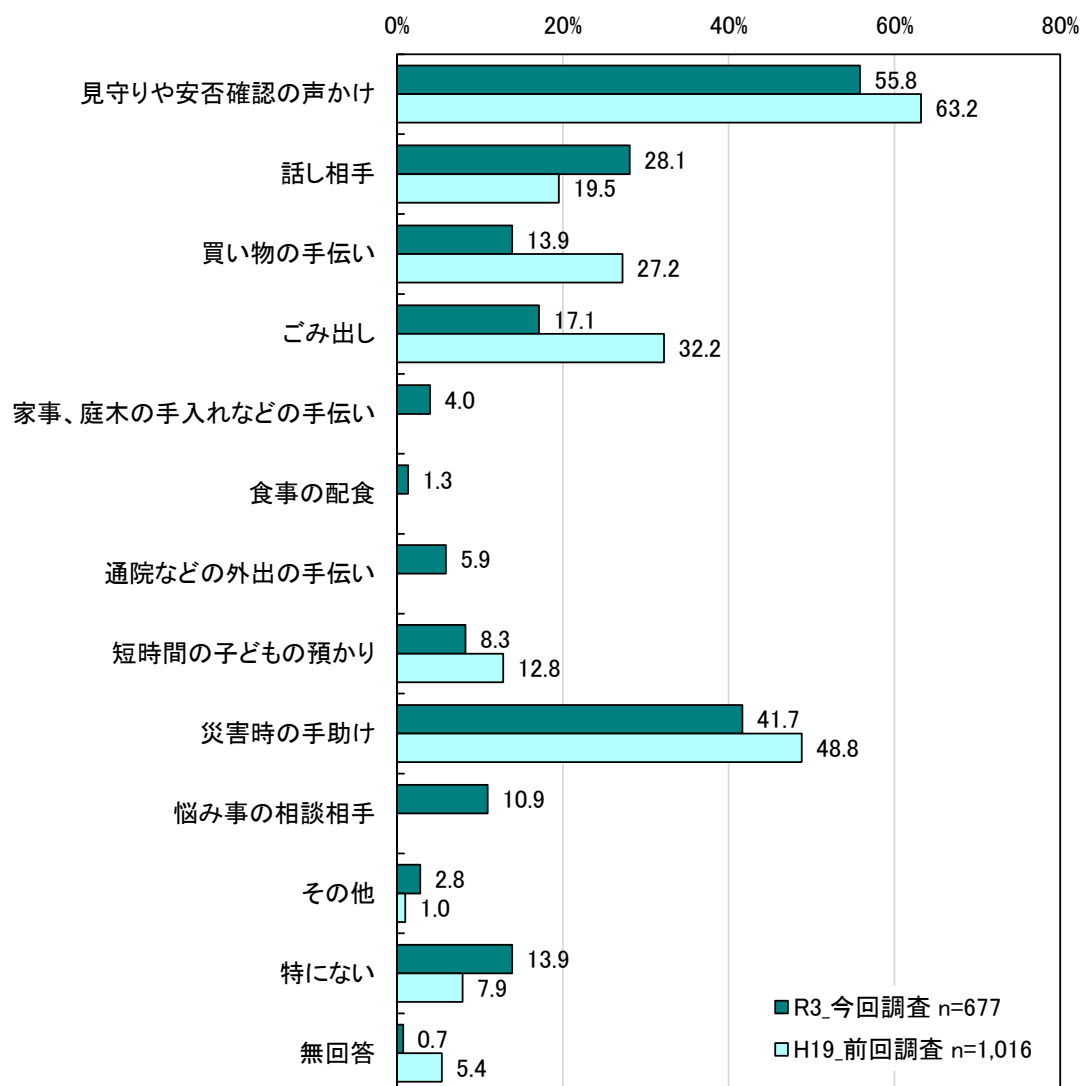
単位：%		近所に住む者として、できる範囲で支援したい	支援をしたが、何をすればいいかわからない	支援をしたが、自分のことで精一杯でその余裕がない	支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい	余計なお世話になってしまうので、支援はしない	その他	わからない	無回答
愛着度別	とても愛着がある n=114	37.7	18.4	22.8	2.6	9.6	1.8	6.1	0.9
	ある程度愛着がある n=407	25.3	18.2	30.2	2.7	10.8	2.2	9.3	1.2
	あまり愛着がない n=85	10.6	12.9	37.6	5.9	24.7	3.5	4.7	0.0
	まったく愛着がない n=25	0.0	12.0	32.0	12.0	20.0	12.0	12.0	0.0
	わからない n=44	13.6	18.2	31.8	6.8	13.6	0.0	13.6	2.3

※愛着度については、42 ページ記載、問 26 の集計結果を使ってクロス集計しています。

問 10 隣近所に、介護や、子育てで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。(あてはまるものすべてに○)

困っている家庭への手助けについては、今回調査では、「見守りや安否確認の声かけ」が 55.8%で最も高く、次いで「災害時の手助け」が 41.7%、「話し相手」が 28.1%となっています。

前回調査と比較してみると、手助けができる項目として「話し相手」は 8.6 ポイントの増加となっているものの、他の項目については減少となっています。また、「特にない」は 6.0 ポイントの増加となっていることから、隣近所の協力関係が低下してきているのではないかと考えられます。



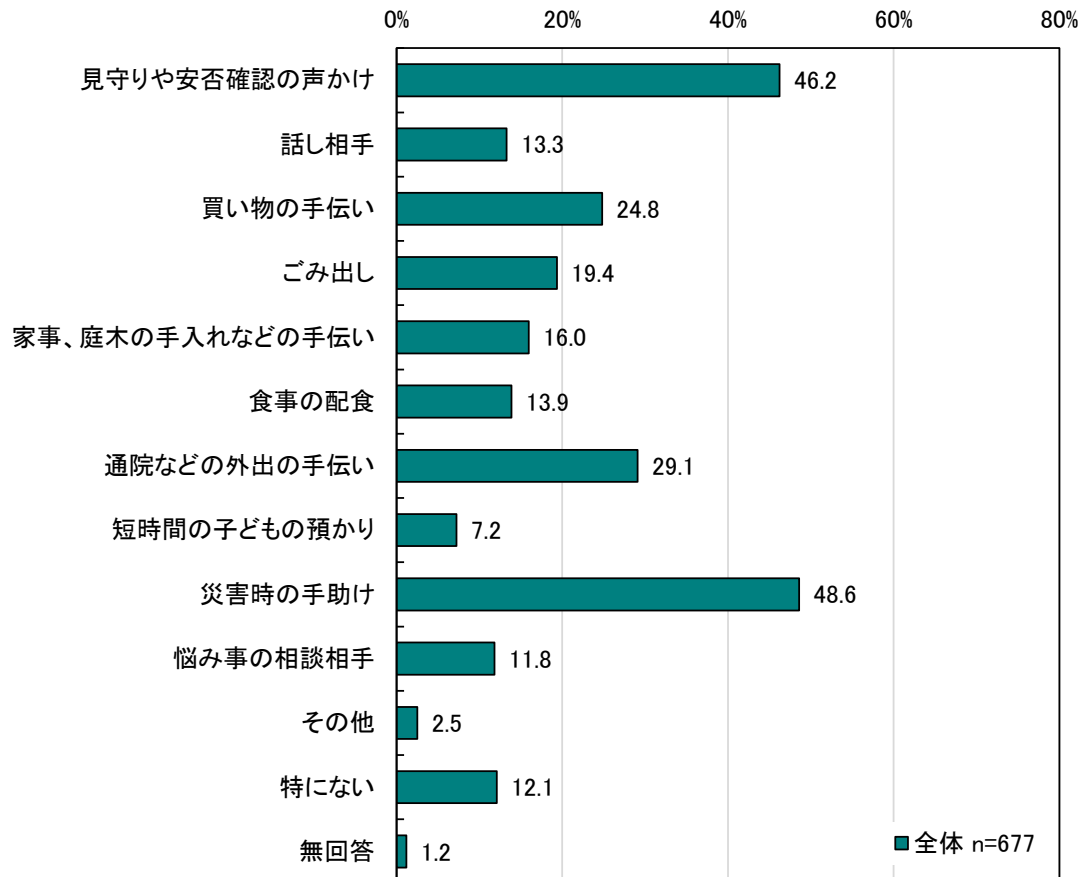
※「家事、庭木の手入れなどの手伝い」、「食事の配食」、「通院などの外出の手伝い」、「悩み事の相談相手」の選択肢は、今回調査より追加しています。

■ その他の回答

- ・休日であればお手伝いできます。
- ・障がい者なので手助けできない。
- ・自分の生活で精一杯で他の方の事まで考えられない。
- ・臨機応変。
- ・できない。
- ・できる事をしたい。
- ・金銭の譲渡。
- ・人によります。
- ・あまり関わりがない。
- ・わからない。
- ・困っている事を行政に報告し、支援を要請。
- ・社会福祉課へつなぐ。
- ・庭の草むしり程度。
- ・手助けをしたい気持ちはあるが今は余裕がなし、難しい。
- ・「できる」としても、「やる」ことはない。

**問 11 あなたは、日常生活が不自由になったとき、地域でどのような支援をしてほしいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)**

日常生活が不自由になったとき、地域でどのような支援をしてほしいかについては、「災害時の手助け」が48.6%で最も高く、次いで「見守りや安否確認の声かけ」が46.2%、「通院などの外出の手伝い」が29.1%となっています。

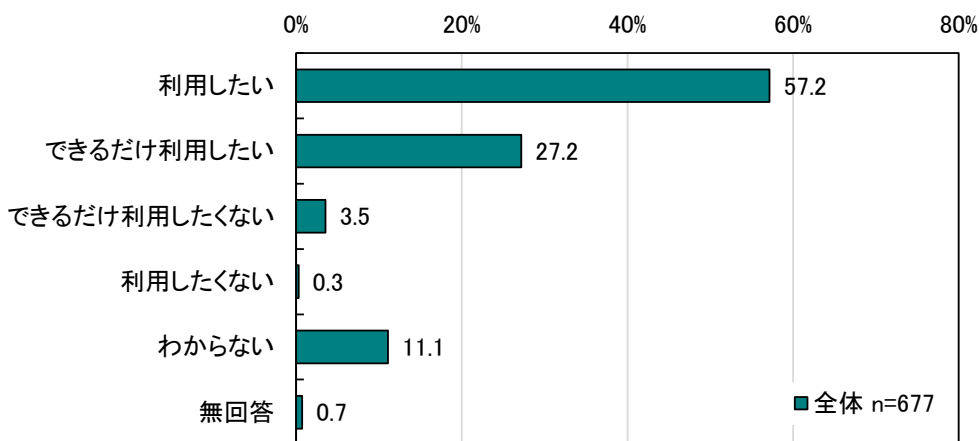


■ その他の回答

- ごみ当番が大変です。
- 期待していません。
- 想像つかない。
- 近所の人に助けてもらいたいとはあまり思わない。
- 地域の人には頼みづらい。
- 現時点で不明。
- 何が不自由になるのか異なると思うので選びにくい。選択肢「短時間の子どもの預かり」はない。
- その時の身体の状態によるのでわからない。
- 「その他」、「特にない」を除く、すべての選択肢があてはまると思う。
- 社会サービスの調整。
- その状況にならないとわからない。
- 学校の支援。
- 「不自由」の程度によっては、選択肢「買い物の手伝い」、「ごみ出し」、「食事の配食」、「通院などの外出の手伝い」、「災害時の手助け」は必要になる可能性がある。

問 12 あなたやあなたの家族に福祉サービスが必要になったとき、福祉サービスの利用について、あなたはどのようにしたいとお考えですか。（ひとつだけ○）

福祉サービスの利用意向については、「利用したい」が 57.2%で最も高く、次いで「できるだけ利用したい」が 27.2%、「わからない」が 11.1%となっています。



■ 性別

性別にみると、「利用したい」と「できるだけ利用したい」の合計値は、『男性』が 84.0%、『女性』が 86.2%と、女性が 2.2 ポイント上回るものの、性別による大きな差はみられません。

		利用したい	できるだけ利用したい	できるだけ利用したくない	利用したくない	わからない	無回答	利用したい合計値	利用したくない合計値
単位：%									
性別	男性 n=281	58.4	25.6	4.3	0.4	11.4	0.0	84.0	4.7
	女性 n=382	57.1	29.1	3.1	0.3	10.5	0.0	86.2	3.4
	それ以外 n=2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	答えたくない n=5	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0

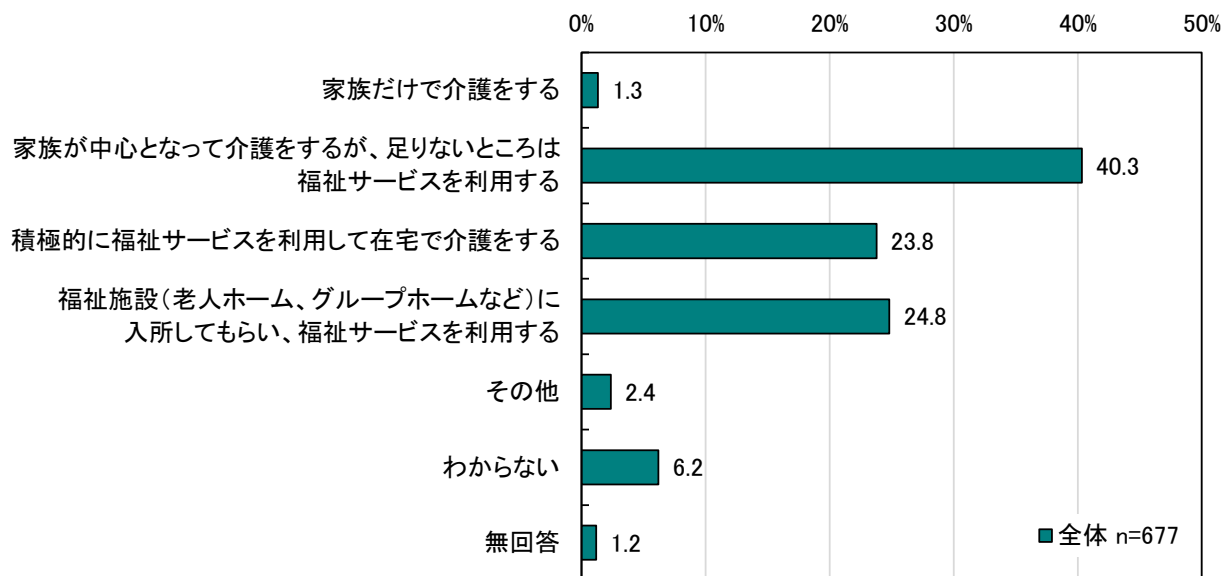
※利用したい合計値：「利用したい」+「できるだけ利用したい」

※利用したくない合計値：「できるだけ利用したくない」+「利用したくない」

問 13 もし、あなたの家族のどなたかに介護が必要になった場合、あなたはどのようにしたいとお考えですか。（ひとつだけ○）

家族の誰かに介護が必要になった場合の希望については、「家族が中心となって介護をするが、足りないところは福祉サービスを利用する」が40.3%で最も高く、次いで「福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所してもらい、福祉サービスを利用する」が24.8%、「積極的に福祉サービスを利用して在宅で介護をする」が23.8%となっています。

その他の回答では、「本人の希望を尊重する」というものや、子どもの年齢や病状等、介護レベルなどの状況を踏まえて判断する、というようなものがみられます。



■ その他の回答

- 子どもの年齢などその時による。
- 選択肢「積極的に福祉サービスを利用して在宅で介護をする」で、限界が来たら選択肢「福祉施設に入所してもらい、福祉サービスを利用する」になると思う。
- 介護は卒業した。今後自分が縁あって婚姻などして、「介護」が必要となったとしても、できるだけ関わりたくない。世話してもむなしさと後悔だけ残留する。
- 自分で自分の事ができなかつたら、それまでよ。
- 必要な介護の程度によって、「その他」、「わからない」を除く選択肢を使い分けたい。
- できるだけ本人の希望に添いたい。
- 介護のレベルによって考えたい。
- 介護の状況によってなのでわからない。
- 家族はいない。居たとしたら選択肢「家族が中心となって介護をするが、足りないところは福祉サービスを利用する」。
- 介護の程度により対応が異なると思う。
- その時にならないとわからない。身体の様子で決めます。
- 金額による。
- 本人の状態によって選択肢「家族が中心となって介護をする」が、足りないところは福祉サービスを利用する」か、選択肢「福祉施設に入所してもらい、福祉サービスを利用する」。
- 現在、福祉施設を利用している。
- 症状によって異なると思う。
- 本人の希望を聞く。

■性別

性別にみると、「家族だけで介護をする」と「家族が中心となって介護をするが、足りないところは福祉サービスを利用する」の合計値は、『男性』が49.1%、『女性』が37.4%と、男性が11.7ポイント上回っていることから、男性のほうが家族で介護をしたいと希望している方が多い傾向がみられます。

一方で、女性は、「積極的に福祉サービスを利用して在宅で介護をする」、「福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所してもらい、福祉サービスを利用する」の割合が男性より高いことから、福祉サービスの利用を中心に介護をしたいと希望している方が多い傾向がみられます。

単位: %		家族だけで介護をする	家族が中心となって介護をするが、足りないところは福祉サービスを利用する	積極的に福祉サービスを利用して在宅で介護をする	福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所してもらい、福祉サービスを利用する	その他	わからない	無回答
性別	男性 n=281	2.5	46.6	20.6	19.2	2.1	7.1	1.8
	女性 n=382	0.5	36.9	25.7	28.3	2.4	5.5	0.8
	それ以外 n=2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	答えたくない n=5	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0

■年齢別

年齢別にみると、年代によって、結婚、子育て、介護などの状況が変わるため、回答にも傾向があるかと推測しましたが、今回の調査結果からは、有意差は認められませんでした。

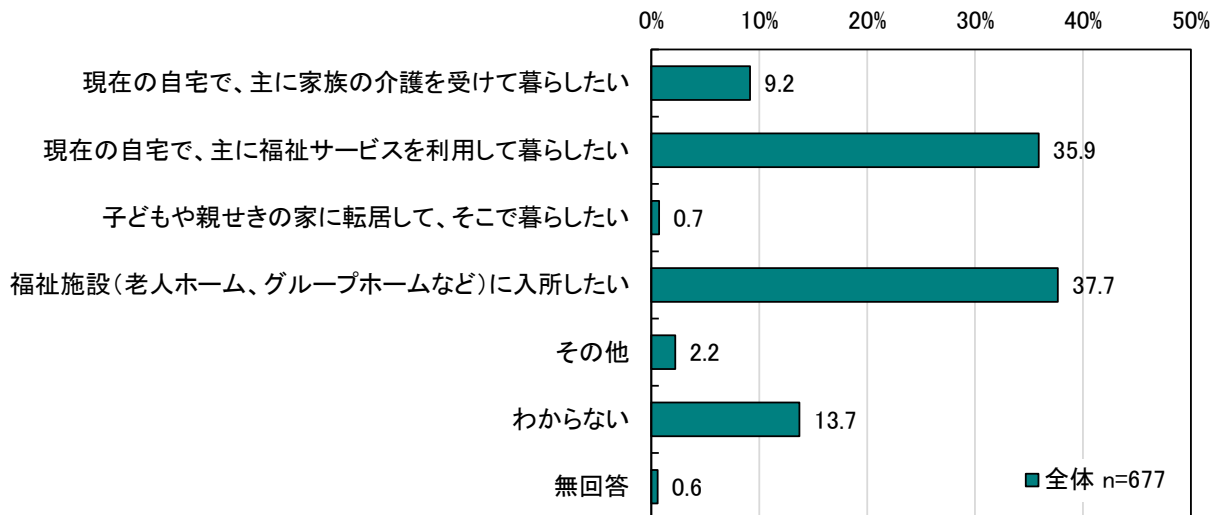
強いて言えば、「福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所してもらい、福祉サービスを利用する」の割合が、40歳代が他の年代に比べて割合が高いと言えます。40歳代は両親や祖父母など身近な家族が介護に関わりはじめることが多いためと考えられます。しかしながら、そこから年代が上った50歳以上では、再び割合が下がります。

単位: %		家族だけで介護をする	家族が中心となって介護をするが、足りないところは福祉サービスを利用する	積極的に福祉サービスを利用して在宅で介護をする	福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所してもらい、福祉サービスを利用する	その他	わからない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	44.4	16.7	16.7	0.0	16.7	5.6
	20～29歳 n=83	3.6	45.8	24.1	18.1	1.2	7.2	0.0
	30～39歳 n=105	1.9	41.0	24.8	22.9	2.9	6.7	0.0
	40～49歳 n=125	0.8	36.8	24.0	32.0	2.4	3.2	0.8
	50～59歳 n=136	0.7	39.0	24.3	25.0	2.9	7.4	0.7
	60～69歳 n=138	0.0	41.3	22.5	26.1	2.2	7.2	0.7
	70歳以上 n=66	3.0	40.9	25.8	18.2	3.0	3.0	6.1

問 14 あなたは、将来、介護が必要になったとき、どのように暮らしたいとお考えですか。
(ひとつだけ○)

あなた自身が将来、介護が必要になったときの希望については、「福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所したい」が37.7%で最も高く、次いで「現在の自宅で、主に福祉サービスを利用して暮らしたい」が35.9%、「わからない」が13.7%となっています。

その他の回答では、問13と同様、「子どもの状況で考えたい」、「症状、状態による」といった意見もある一方で、問13と異なり、「家族に迷惑をかけたくない」などの回答がみられました。



■ その他の回答

- ・その時にならないとわからないが、なるべく家族に迷惑がかからないようにしたい。
- ・他人「人間の世話になる」ということ自体甘えとエゴだと思います。
- ・生きたくないです。迷惑はこれ以上かけたくありません。
- ・先のことを考えお金を貯めたが、子どもに預けたらあげたと同じ。死ぬまで健康でいるしか方法はない。
- ・安らかに死にたい（他の人に迷惑はかけたくない）。
- ・あまり長生きしないようにする。病院へ行かない等。投薬中止等。
- ・その前に死にたい。
- ・1人で生きられなくなったら死にたい。
- ・子どもたちに負担はかけられないし、お金もない。
- ・お金があれば施設も考えます。
- ・子どもの状況で考えたい。
- ・症状、状態による判断となる為。
- ・もう少し経たなければわからない（今のところ健康なので）。
- ・極力、人の手を借りないで生活をする。

■ 性別

性別にみると、「現在の自宅で、主に家族の介護を受けて暮らしたい」は、『男性』が 14.9%、『女性』が 5.2%と、男性が 9.7 ポイント上回り、男性のほうが自宅で、かつ、家族の介護を受けながら暮らしたいと希望している方が多い傾向がみられます。

一方で、「福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所したい」は、『男性』が 31.0%、『女性』が 42.4%と、女性が 11.4 ポイント上回り、女性のほうが福祉施設で暮らしたいと希望している方が多い傾向がみられます。

単位：%		現在の自宅で、主に家族の介護を受けて暮らしたい	現在の自宅で、主に福祉サービスを利用して暮らしたい	子どもや親せきの家に転居して、そこで暮らしたい	福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所したい	その他	わからない	無回答
性別	男性 n=281	14.9	35.9	1.4	31.0	2.1	13.5	1.1
	女性 n=382	5.2	35.6	0.3	42.4	2.1	14.1	0.3
	それ以外 n=2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	答えたくない n=5	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0

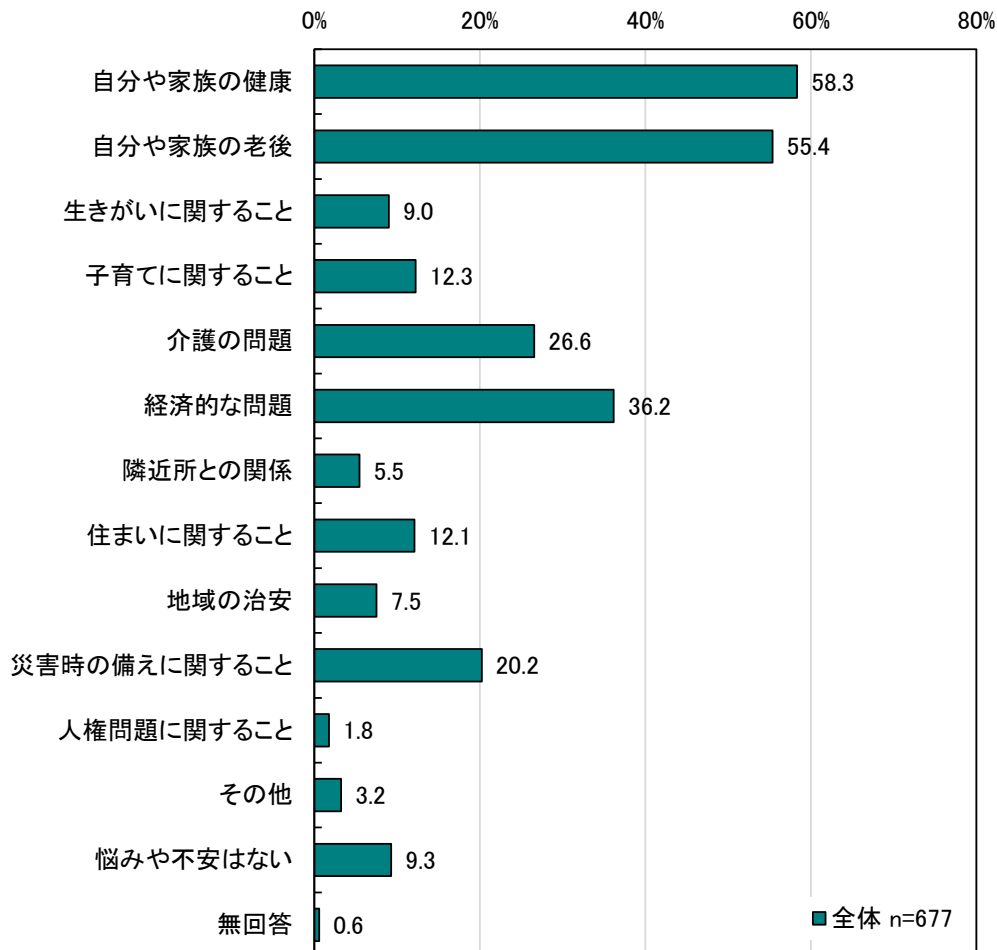
■ 年齢別

年齢別にみると、「現在の自宅で、主に福祉サービスを利用して暮らしたい」は、40 歳未満に比べ、40 歳以上は約 10 ポイント高い結果となっています（40 歳未満がそれぞれ約 30%なのに対し、40 歳以上がそれぞれ約 40%）。また、40 歳未満の各年代で「わからない」の割合が高くなっています。まだ介護が身近なことではないためか、想像するのが難しいのかもしれません。

単位：%		現在の自宅で、主に家族の介護を受けて暮らしたい	現在の自宅で、主に福祉サービスを利用して暮らしたい	子どもや親せきの家に転居して、そこで暮らしたい	福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所したい	その他	わからない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	5.6	16.7	5.6	16.7	11.1	44.4	0.0
	20～29歳 n=83	9.6	30.1	3.6	33.7	0.0	22.9	0.0
	30～39歳 n=105	5.7	25.7	0.0	42.9	2.9	22.9	0.0
	40～49歳 n=125	6.4	39.2	0.8	41.6	3.2	8.8	0.0
	50～59歳 n=136	9.6	37.5	0.0	38.2	0.7	12.5	1.5
	60～69歳 n=138	13.0	39.1	0.0	36.2	2.2	8.7	0.7
	70歳以上 n=66	12.1	47.0	0.0	33.3	3.0	3.0	1.5

問 15 あなた、あるいはあなたの家族は現在、日々の生活において、主にどのような悩みや不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

日々の生活における悩みや不安については、「自分や家族の健康」が58.3%で最も高く、次いで「自分や家族の老後」が55.4%、「経済的な問題」が36.2%となっています。



■ その他の回答

- 親の持ち家について。
- その日暮らしで毎日が精一杯。
- 空き家問題。
- 障がい、病気。
- すべてなるようになる。
- 家族の将来。
- 学校が大変。
- コロナに感染しないかという不安があります。
- 夫と子どもの関係。
- 別居している老親の健康。
- 自分の経営する会社の将来。
- 仕事に関する事。
- 姑の事。
- 仕事が忙しすぎる。
- 同性介助の施設を増やして欲しい。
- 孫の教育。
- 職場、風紀、自分の人生に関する事。
- 隣近所の方の迷惑行為。ルール違反。

■ 年齢別

年齢別にみると、年齢が上がるとともに、「自分や家族の健康」の割合が高くなる傾向がみられます。

「生きがいに関すること」の割合は、『20～29歳』、『30～39歳』で、他の年齢に比べて高くなっています。

「子育てに関すること」、「経済的な問題」の割合は、『30～39歳』、『40～49歳』で、他の年齢に比べて高くなっています。

年齢によって、抱える悩みや不安には、異なる傾向がみられます。

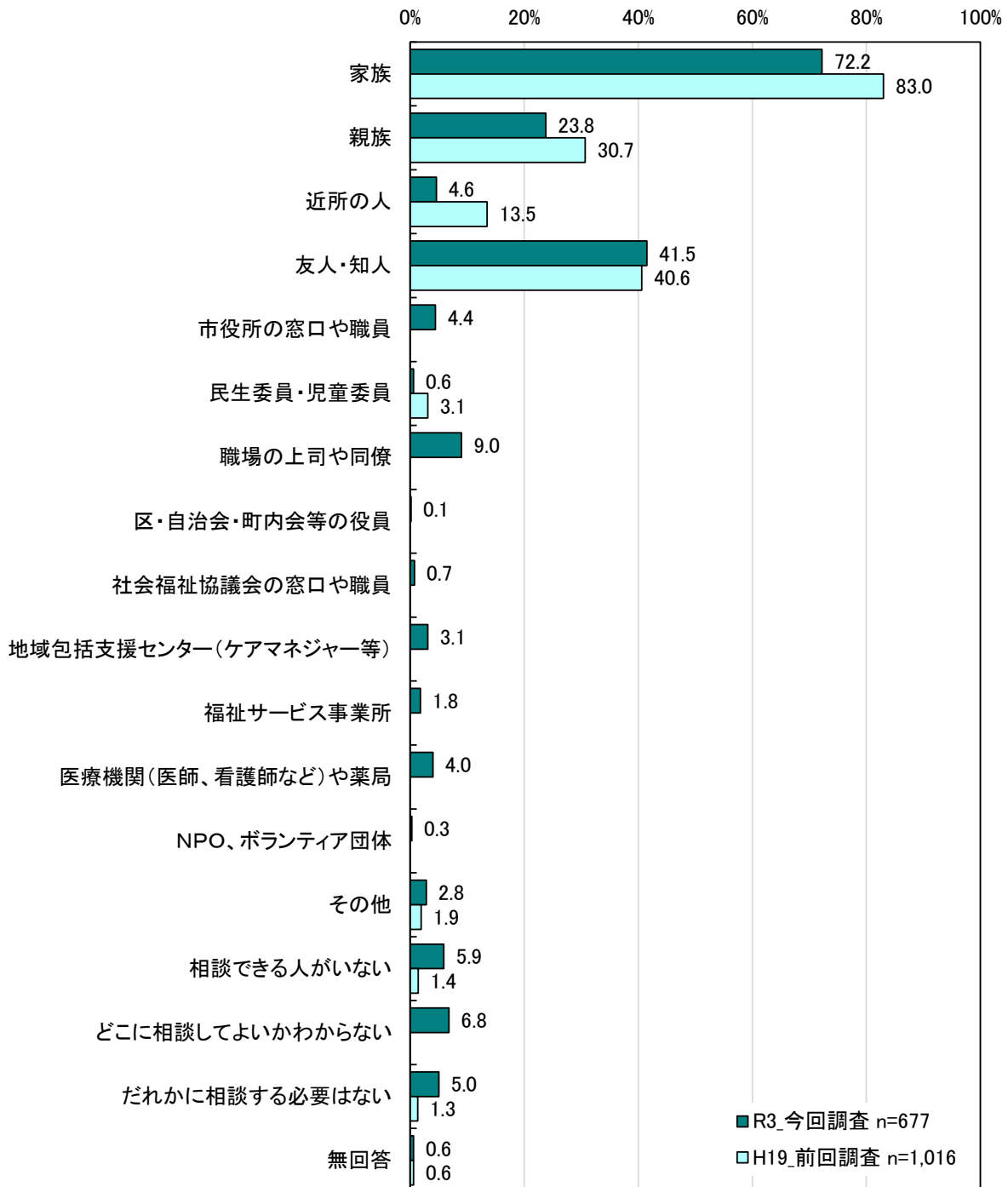
		自分や家族の健康	自分や家族の老後	生きがいに関すること	子育てに関すること	介護の問題	経済的な問題	隣近所との関係	住まいに関すること	地域の治安
単位：%										
年齢別	18・19歳 n=18	27.8	16.7	5.6	5.6	16.7	22.2	5.6	0.0	0.0
	20～29歳 n=83	53.0	47.0	14.5	10.8	19.3	39.8	3.6	9.6	6.0
	30～39歳 n=105	51.4	55.2	15.2	36.2	21.9	45.7	2.9	13.3	8.6
	40～49歳 n=125	56.8	58.4	4.8	22.4	28.8	45.6	7.2	13.6	10.4
	50～59歳 n=136	55.1	60.3	8.1	3.7	27.9	33.1	8.1	17.6	8.1
	60～69歳 n=138	65.9	61.6	8.7	0.7	28.3	29.0	6.5	10.1	5.8
	70歳以上 n=66	77.3	45.5	3.0	1.5	33.3	27.3	1.5	7.6	4.5

		災害時の備えに関すること	人権問題に関すること	その他	悩みや不安はない	無回答
単位：%						
年齢別	18・19歳 n=18	16.7	0.0	11.1	44.4	0.0
	20～29歳 n=83	18.1	1.2	2.4	15.7	1.2
	30～39歳 n=105	20.0	1.9	3.8	4.8	0.0
	40～49歳 n=125	20.8	4.0	2.4	12.0	0.0
	50～59歳 n=136	22.1	1.5	2.9	8.1	0.7
	60～69歳 n=138	21.7	1.4	2.9	5.1	0.0
	70歳以上 n=66	16.7	0.0	3.0	6.1	3.0

問 16 あなたは、悩みや不安について、誰にもしくはどこに相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

悩みや不安の相談先については、今回調査では、「家族」が72.2%で最も高く、次いで「友人・知人」が41.5%、「親族」が23.8%となっています。なお、「相談できる人がいない」が5.9%、「どこに相談してよいかわからない」が6.8%と、一定数の方は相談先がないという状況がうかがえます。

前回調査と比較してみると、「相談できる人がいない」が4.5ポイント増加していることから、相談先がないという方は、増加しているのではないかと考えられます。



※「市役所の窓口や職員」、「職場の上司や同僚」、「区・自治会・町内会等の役員」、「社会福祉協議会の窓口や職員」、「地域包括支援センター(ケアマネジャー等)」、「福祉サービス事業所」、「医療機関(医師、看護師など)や薬局」、「NPO、ボランティア団体」、「どこに相談してよいかわからない」の選択肢は、今回調査より追加しています。

■その他の回答

- 今のところ相談するつもりはない。
- 子どもが通っている学校の先生。
- 具体的な悩みではないので、特に相談はしていない。
- SNS。
- 解決にならないのではない。
- 茨城県女性相談センター。
- 保健所、警察。
- 通っている大学の学生相談室。
- 社長。
- インターネット。
- 商工会。
- 保健センター。
- 学校施設。
- 職場の人達。
- 行政は相談するだけで改善しないジレンマの巢。
- 大学の教員、職員。
- 相談する相手や機関に心あたりはあるが、特にしていない。

■性別

性別にみると、全体的な分布の割合に大きな差はみられないものの、特に回答の割合が上位を占める「家族」、「友人・知人」は、他の項目に比べて差が大きくなっています（「家族」男性 64.4%、女性 78.3%、差 13.9 ポイント 「友人・知人」男性 27.0%、女性 52.1%、差 25.1 ポイント その他は差が 5 ポイント以内）。

		家族	親族	近所の人	友人・知人	市役所の窓口や職員	民生委員・児童委員	職場の上司や同僚	区・自治会・町内会等の役員	社会福祉協議会の窓口や職員
単位：%										
性別	男性 n=281	64.4	21.4	5.0	27.0	5.7	0.4	8.9	0.0	1.1
	女性 n=382	78.3	25.7	4.5	52.1	3.4	0.5	9.4	0.3	0.5
	それ以外 n=2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	答えたくない n=5	20.0	60.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0

		地域包括支援センター(ケアマネジャー等)	福祉サービス事業所	医療機関(医師、看護師など)や薬局	NPO、ボランティア団体	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわからない	だれかに相談する必要はない	無回答
単位：%										
性別	男性 n=281	3.6	2.1	3.6	0.0	1.8	8.2	9.3	7.1	1.4
	女性 n=382	2.6	1.6	4.5	0.5	3.4	4.5	5.0	3.4	0.0
	それ以外 n=2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	答えたくない n=5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0

■年齢別

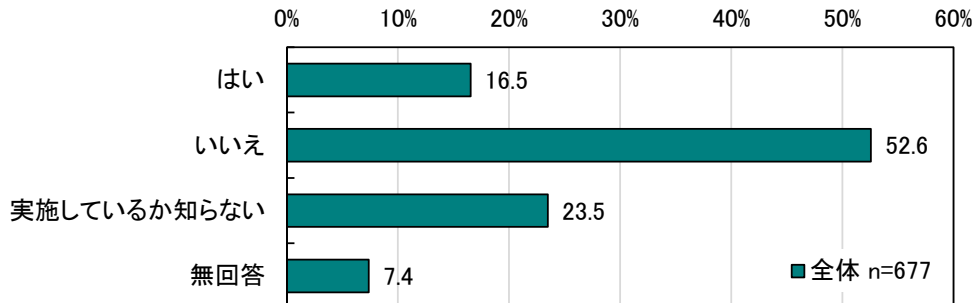
年齢別にみると、「相談できる人がいない」と「どこに相談してよいかわからない」の合計値は、『18・19歳』が22.2%で最も高く、次いで『20～29歳』が16.8%、『40～49歳』が14.4%となっています。年齢が低いほうが、相談先がないと感じている方が多い傾向がみられます。

単位：%		家族	親族	近所の人	友人・知人	市役所の窓口や職員	民生委員・児童委員	職場の上司や同僚	区・自治会・町内会等の役員	社会福祉協議会の窓口や職員
年齢別	18・19歳 n=18	66.7	5.6	0.0	66.7	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0
	20～29歳 n=83	67.5	13.3	2.4	53.0	1.2	1.2	8.4	1.2	0.0
	30～39歳 n=105	74.3	27.6	3.8	47.6	4.8	1.0	11.4	0.0	0.0
	40～49歳 n=125	72.8	26.4	4.0	52.0	4.0	1.6	16.0	0.0	0.8
	50～59歳 n=136	75.0	22.1	6.6	36.8	5.9	0.0	11.8	0.0	0.7
	60～69歳 n=138	71.0	28.3	5.1	29.7	5.8	0.0	3.6	0.0	1.4
	70歳以上 n=66	71.2	27.3	6.1	25.8	4.5	0.0	0.0	0.0	1.5

単位：%		地域包括支援センター(ケアマネジャー等)	福祉サービス事業所	医療機関(医師、看護師など)や薬局	NPO、ボランティア団体	その他	相談できる人がいない	どこに相談してよいかわからない	だれかに相談する必要はない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.1	11.1	11.1	0.0
	20～29歳 n=83	0.0	1.2	3.6	0.0	3.6	4.8	12.0	7.2	1.2
	30～39歳 n=105	1.0	0.0	2.9	1.0	4.8	7.6	6.7	1.9	0.0
	40～49歳 n=125	1.6	1.6	4.8	0.8	0.8	7.2	7.2	5.6	0.0
	50～59歳 n=136	5.9	2.2	2.9	0.0	4.4	7.4	6.6	4.4	0.0
	60～69歳 n=138	5.8	2.2	5.1	0.0	0.7	2.2	4.3	5.1	0.7
	70歳以上 n=66	3.0	4.5	6.1	0.0	1.5	6.1	4.5	6.1	3.0

問 17 あなたは、日頃から地域の防災訓練に参加していますか。(ひとつだけ○)

地域の防災訓練へ参加しているかについては、「はい」が16.5%、「いいえ」が52.6%、「実施しているか知らない」が23.5%となっています。



■ 年齢別

年齢別にみると、「実施しているか知らない」は、『20～29歳』が47.0%で最も高く、次いで『18・19歳』が38.9%、『30～39歳』が32.4%と、年齢が低いほうが、地域の防災訓練を認知していない方が多い傾向がみられます。

単位: %		はい	いいえ	実施しているか知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	11.1	38.9	38.9	11.1
	20～29歳 n=83	0.0	45.8	47.0	7.2
	30～39歳 n=105	7.6	50.5	32.4	9.5
	40～49歳 n=125	25.6	45.6	20.8	8.0
	50～59歳 n=136	14.7	58.1	18.4	8.8
	60～69歳 n=138	25.4	56.5	11.6	6.5
	70歳以上 n=66	21.2	62.1	15.2	1.5

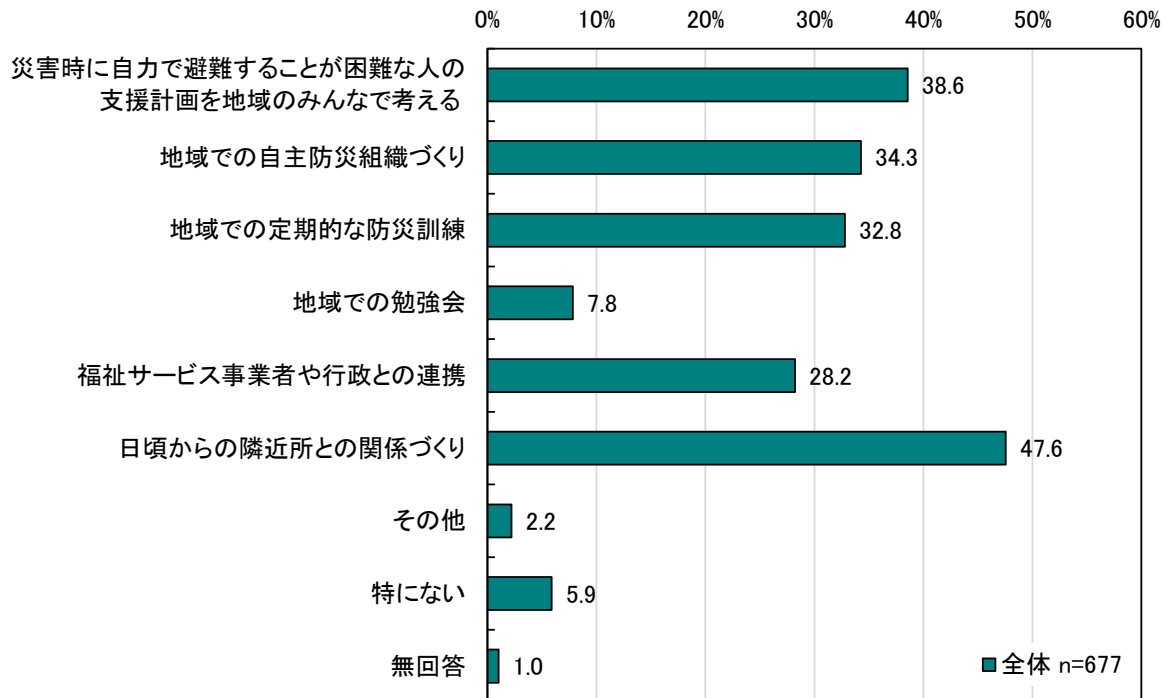
■ 地区別

地区別にみると、「はい」は、『旧北文間小学校区』が32.0%で最も高く、次いで『八原小学校区』が22.6%、『城ノ内小学校区』が19.3%となっています。地区により、地域の防災訓練を認知している割合に差がみられます。

単位: %		はい	いいえ	実施しているか知らない	無回答
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	12.0	56.0	18.0	14.0
	馴染小学校区 n=67	14.9	53.7	28.4	3.0
	八原小学校区 n=53	22.6	39.6	28.3	9.4
	旧長戸小学校区 n=42	16.7	50.0	23.8	9.5
	旧北文間小学校区 n=50	32.0	44.0	18.0	6.0
	川原代小学校区 n=50	14.0	58.0	24.0	4.0
	大宮小学校区 n=52	15.4	50.0	26.9	7.7
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	14.9	53.2	25.5	6.4
	松葉小学校区 n=47	19.1	59.6	12.8	8.5
	長山小学校区 n=54	13.0	59.3	24.1	3.7
	馴染台小学校区 n=49	14.3	59.2	16.3	10.2
	久保台小学校区 n=50	8.0	58.0	28.0	6.0
	城ノ内小学校区 n=57	19.3	47.4	26.3	7.0

問 18 地震や火災などの災害時に住民同士が協力しあえるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

災害時に住民同士が協力しあうために必要だと思うことについては、「日頃からの隣近所との関係づくり」が47.6%で最も高く、次いで「災害時に自力で避難することが困難な人の支援計画を地域のみみんなで考える」が38.6%、「地域での自主防災組織づくり」が34.3%となっています。



■ その他の回答

- ・マニュアル作成。
- ・地域での集会など、参加出来る時間がない。
- ・自治会に加入しない人とも災害時の対応を共有できるような仕組み。
- ・手助けが必要な方のリスト作成。
- ・当地区において、どのような災害が起こりうるか、その場合の公的サービスは何があるか、住民同士はどのような動きをするべきか。
- ・まずは自分のことをできるようにする。
- ・自分の事で精一杯な社会の意識改革が必要。
- ・自治会費を払わない人(家庭)をどうにかしてほしい。
- ・選択肢「福祉サービス事業者や行政との連携」以外は全て行われているので、行政の行動が足りない。
- ・避難困難者がどこに住んでいるか知る。近所でもまったくわからない。
- ・計画しても、現実となったとき無理だと思っている。
- ・わからない。
- ・ハザードマップの定期的な更新、住民による確認。
- ・強力な長をつくるべき。

■性別

性別にみると、男性は女性に比べて「地域での定期的な防災訓練」の割合が高い一方で、女性は男性に比べて「災害時に自力で避難することが困難な人の支援計画を地域のみみんなで考える」、「日頃からの隣近所との関係づくり」の割合が高く、性別により、傾向に若干の差がみられます。

単位：%		災害時に自力で避難することが困難な人の支援計画を地域のみみんなで考える	地域での自主防災組織づくり	地域での定期的な防災訓練	地域での勉強会	福祉サービス事業者や行政との連携	日頃からの隣近所との関係づくり	その他	特にない	無回答
性別	男性 n=281	34.5	34.5	36.3	10.0	27.4	37.4	2.8	7.5	1.1
	女性 n=382	41.9	34.8	29.8	6.3	28.0	55.2	1.8	4.5	1.0
	それ以外 n=2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	答えたくない n=5	20.0	0.0	20.0	0.0	60.0	40.0	0.0	20.0	0.0

■地区別

全体の結果での上位3位を地区別にみると、「日頃からの隣近所との関係づくり」は、『旧長戸小学校区』が61.9%で最も高く、次いで『長山小学校区』が59.3%、『大宮小学校区』が55.8%となっています。

「災害時に自力で避難することが困難な人の支援計画を地域のみみんなで考える」は、『大宮小学校区』が53.8%で最も高く、次いで『松葉小学校区』が46.8%、『川原代小学校区』が46.0%となっています。

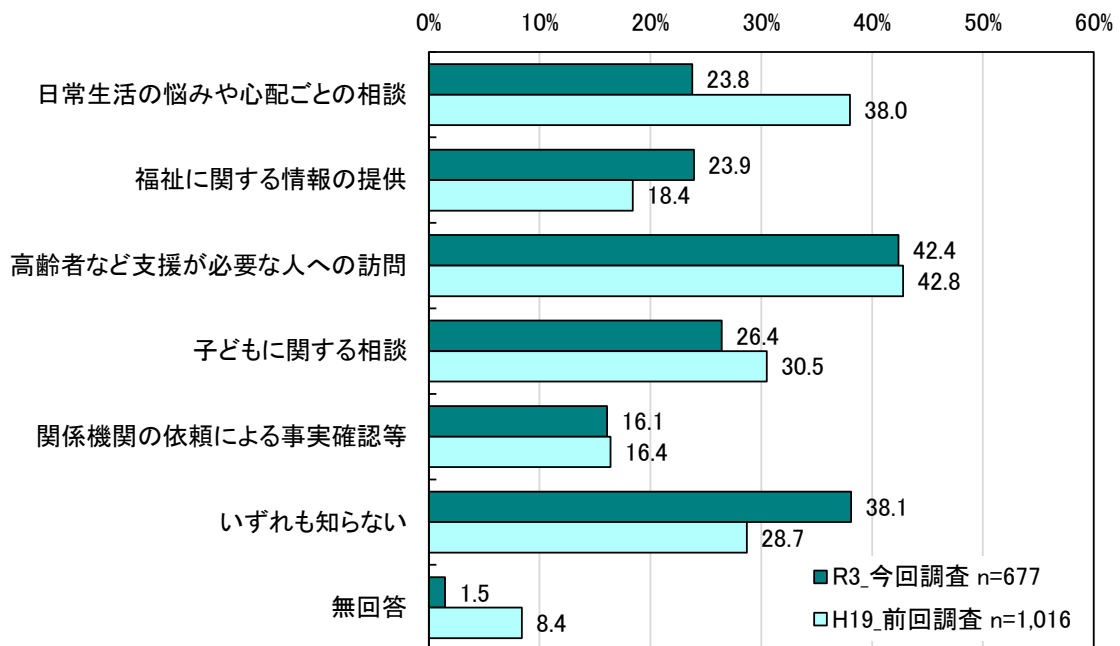
「地域での自主防災組織づくり」は、『龍ヶ崎小学校区』が48.0%で最も高く、次いで『八原小学校区』が43.4%、『旧北文間小学校区』が42.0%となっています。

単位：%		災害時に自力で避難することが困難な人の支援計画を地域のみみんなで考える	地域での自主防災組織づくり	地域での定期的な防災訓練	地域での勉強会	福祉サービス事業者や行政との連携	日頃からの隣近所との関係づくり	その他	特にない	無回答
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	32.0	48.0	24.0	2.0	28.0	44.0	0.0	6.0	0.0
	馴柴小学校区 n=67	41.8	28.4	31.3	13.4	28.4	38.8	1.5	11.9	0.0
	八原小学校区 n=53	39.6	43.4	52.8	9.4	32.1	41.5	0.0	1.9	1.9
	旧長戸小学校区 n=42	40.5	31.0	23.8	7.1	28.6	61.9	2.4	2.4	2.4
	旧北文間小学校区 n=50	42.0	42.0	40.0	12.0	24.0	46.0	2.0	0.0	0.0
	川原代小学校区 n=50	46.0	26.0	30.0	6.0	28.0	48.0	0.0	6.0	0.0
	大宮小学校区 n=52	53.8	28.8	30.8	11.5	30.8	55.8	0.0	1.9	3.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	36.2	27.7	29.8	6.4	23.4	53.2	2.1	4.3	0.0
	松葉小学校区 n=47	46.8	31.9	27.7	6.4	40.4	48.9	6.4	4.3	2.1
	長山小学校区 n=54	27.8	31.5	33.3	11.1	20.4	59.3	3.7	7.4	0.0
	馴馬台小学校区 n=49	24.5	40.8	38.8	4.1	24.5	46.9	4.1	6.1	2.0
	久保台小学校区 n=50	34.0	40.0	42.0	8.0	28.0	44.0	6.0	8.0	2.0
	城内小学校区 n=57	36.8	31.6	19.3	3.5	29.8	38.6	1.8	12.3	0.0

問 19 民生委員・児童委員は、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会を目指して、さまざまな活動を行っています。民生委員・児童委員が行う活動として、ご存知の内容を選んでください。（あてはまるものすべてに○）

民生委員・児童委員の活動で知っている活動については、今回調査では、「高齢者など支援が必要な人への訪問」が42.4%で最も高く、次いで「いずれも知らない」が38.1%、「子どもに関する相談」が26.4%となっています。

前回調査と比較してみると、「いずれも知らない」が9.4ポイント増加していることから、民生委員・児童委員の活動内容を知らない方が増加していると考えられます。また、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」は14.2ポイントと大きく減少していることから、民生委員・児童委員が身近な相談相手と認識している方は、減少傾向にあるのではないかと考えられます。



■ 年齢別

年齢別にみると、「いずれも知らない」は、『20～29歳』が61.4%で最も高く、次いで『18・19歳』が50.0%、『30～39歳』が49.5%と、39歳以下では、約半数以上の方が民生委員・児童委員の活動内容を知らないという状況となっています。

年齢	日常生活の悩みや心配ごとの相談	福祉に関する情報の提供	高齢者など支援が必要な人への訪問	子どもに関する相談	関係機関の依頼による事実確認等	いずれも知らない	無回答
18・19歳 n=18	22.2	11.1	11.1	33.3	0.0	50.0	0.0
20～29歳 n=83	15.7	13.3	18.1	24.1	7.2	61.4	0.0
30～39歳 n=105	19.0	16.2	30.5	27.6	10.5	49.5	1.0
40～49歳 n=125	24.8	16.8	40.8	26.4	15.2	40.0	0.0
50～59歳 n=136	27.2	25.0	45.6	25.0	17.6	35.3	0.0
60～69歳 n=138	26.8	35.5	53.6	25.4	20.3	29.7	2.9
70歳以上 n=66	24.2	39.4	69.7	27.3	28.8	10.6	6.1

■ 地区別

地区別にみると、「いずれも知らない」は、『八原小学校区』が43.4%で最も高く、次いで『馴染小学校区』が43.3%、『大宮小学校区』が42.3%となっています。地区により、民生委員・児童委員の活動内容の認知度は異なる傾向がみられます。

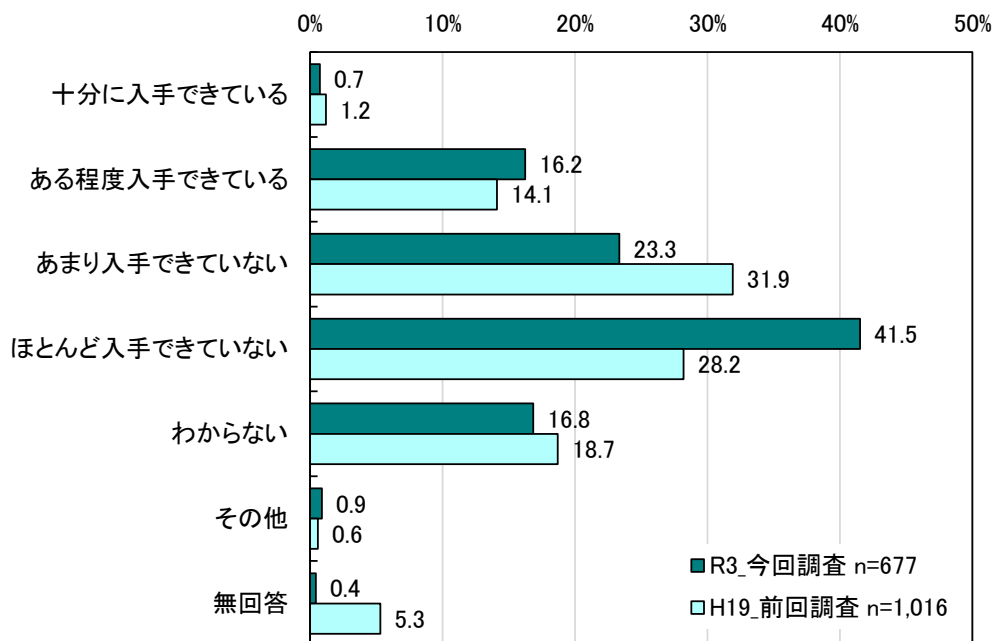
		日常生活の悩みや心配ごとの相談	福祉に関する情報の提供	高齢者など支援が必要な人への訪問	子どもに関する相談	関係機関の依頼による事実確認等	いずれも知らない	無回答
単位：%								
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	26.0	22.0	38.0	26.0	10.0	42.0	0.0
	馴染小学校区 n=67	23.9	16.4	44.8	14.9	9.0	43.3	3.0
	八原小学校区 n=53	20.8	26.4	39.6	35.8	11.3	43.4	1.9
	旧長戸小学校区 n=42	26.2	26.2	47.6	28.6	26.2	28.6	4.8
	旧北文間小学校区 n=50	34.0	28.0	50.0	22.0	16.0	36.0	2.0
	川原代小学校区 n=50	32.0	28.0	40.0	38.0	18.0	34.0	0.0
	大宮小学校区 n=52	17.3	15.4	36.5	26.9	13.5	42.3	3.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	27.7	31.9	34.0	25.5	17.0	34.0	0.0
	松葉小学校区 n=47	12.8	27.7	46.8	25.5	17.0	40.4	0.0
	長山小学校区 n=54	18.5	27.8	46.3	29.6	18.5	35.2	0.0
	馴染台小学校区 n=49	28.6	24.5	55.1	30.6	26.5	30.6	0.0
	久保台小学校区 n=50	20.0	12.0	34.0	18.0	16.0	42.0	2.0
	城ノ内小学校区 n=57	21.1	28.1	36.8	22.8	14.0	38.6	1.8

問 20 あなたは、福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていると感じていますか。
(ひとつだけ○)

福祉サービスに関する情報の入手状況については、今回調査では、「ほとんど入手できていない」が41.5%で最も高く、次いで「あまり入手できていない」が23.3%、「わからない」が16.8%となっています。

前回調査と比較してみると、「ほとんど入手できていない」は13.3ポイントの増加となっています。

また、「あまり入手できていない」と「ほとんど入手できていない」の順位が逆転しています。さらに、前回は「あまり入手できていない」の方が若干高かったですが、今回は「ほとんど入手できていない」が「あまり入手できていない」の2倍近い数字になっています。



■ その他の回答

- ・ 広報誌に掲載されている内容程度。
- ・ 市からの配りもの等での情報。
- ・ 必要ない。
- ・ 積極的に入手していないのでわからない。
- ・ その状態となった時にならなければわからない。
- ・ 入手していない。

■ 年齢別

年齢別にみると、「十分に入手できている」と「ある程度入手できている」の合計値は、年齢が上がるとともに高くなる傾向がみられます。また、「わからない」の割合は、年齢が下がるほど高くなる傾向がみられます。

単位：%		十分に入手できている	ある程度入手できている	あまり入手できていない	ほとんど入手できていない	わからない	その他	無回答	入手できている合計値	入手できていない合計値
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	11.1	27.8	27.8	33.3	0.0	0.0	11.1	55.6
	20～29歳 n=83	1.2	13.3	10.8	50.6	24.1	0.0	0.0	14.5	61.4
	30～39歳 n=105	0.0	15.2	18.1	42.9	23.8	0.0	0.0	15.2	61.0
	40～49歳 n=125	0.8	13.6	21.6	45.6	18.4	0.0	0.0	14.4	67.2
	50～59歳 n=136	0.7	15.4	25.0	44.1	13.2	1.5	0.0	16.1	69.1
	60～69歳 n=138	0.7	20.3	32.6	34.8	8.7	1.4	1.4	21.0	67.4
	70歳以上 n=66	1.5	21.2	27.3	31.8	15.2	1.5	1.5	22.7	59.1

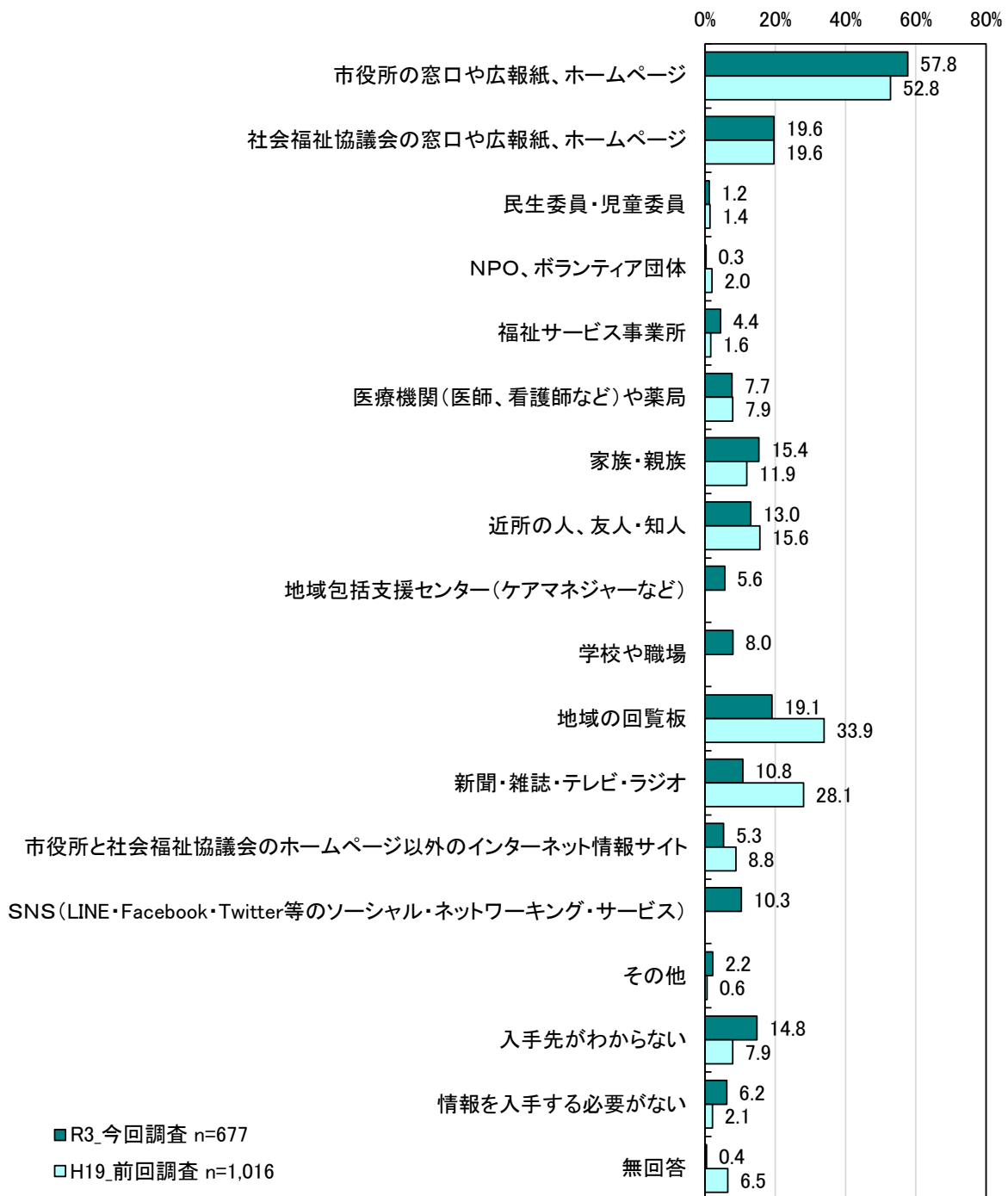
※入手できている合計値：「十分に入手できている」+「ある程度入手できている」

※入手できていない合計値：「あまり入手できていない」+「ほとんど入手できていない」

問 21 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

福祉サービスに関する情報の入手先については、今回調査では、「市役所の窓口や広報紙、ホームページ」が57.8%で最も高く、次いで「社会福祉協議会の窓口や広報紙、ホームページ」が19.6%、「地域の回覧板」が19.1%となっています。

前回調査と比較してみると、「地域の回覧板」が14.8ポイント、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が17.3ポイントの減少となっています。また、「入手先がわからない」は6.9ポイントの増加となっていることから、情報を入手することに困難を感じている方が増加していると考えられます。



※「地域包括支援センター(ケアマネジャーなど)」、「学校や職場」、「SNS(LINE・Facebook・Twitter等のソーシャル・ネットワーキング・サービス)」の選択肢は、今回調査より追加しています。

■その他の回答

- ・来客者。
- ・介護の仕事をしているので知っている。
- ・市からのメール。
- ・りゅうほー
- ・一覧がほしい。
- ・特に入手しようと思っていない。
- ・まだ探していない。
- ・市役所から情報を得たいが、職員の知識不足で役に立たない。

■年齢別

年齢別にみると、年齢が上がるとともに、割合が高まる傾向がみられる項目は、「市役所の窓口や広報紙、ホームページ」、「社会福祉協議会の窓口や広報紙、ホームページ」、「地域の回覧板」などが挙げられます。

一方で、年齢が下がるとともに、割合が高まる傾向がみられる項目は、「学校や職場」、「SNS (LINE・Facebook・Twitter 等のソーシャル・ネットワーキング・サービス)」などとなっています。また、年齢が下がるとともに、「入手先がわからない」、「情報を入手する必要がない」の割合も高くなる傾向がみられます。

単位：%

年齢別	市役所の窓口や広報紙、ホームページ	社会福祉協議会の窓口や広報紙、ホームページ	民生委員・児童委員	NPO、ボランティア団体	福祉サービス事業所	医療機関（医師、看護師など）や薬局	家族・親族	近所の人、友人・知人	地域包括支援センター（ケアマネジャーなど）
18・19歳 n=18	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	5.6	0.0
20～29歳 n=83	41.0	4.8	0.0	1.2	6.0	8.4	18.1	12.0	4.8
30～39歳 n=105	55.2	9.5	0.0	1.0	1.9	7.6	22.9	12.4	1.9
40～49歳 n=125	56.0	16.0	0.8	0.0	1.6	5.6	13.6	14.4	3.2
50～59歳 n=136	61.0	24.3	2.9	0.0	5.9	8.1	10.3	8.1	7.4
60～69歳 n=138	69.6	29.7	0.7	0.0	6.5	10.1	14.5	15.2	10.1
70歳以上 n=66	63.6	37.9	3.0	0.0	6.1	7.6	12.1	21.2	6.1

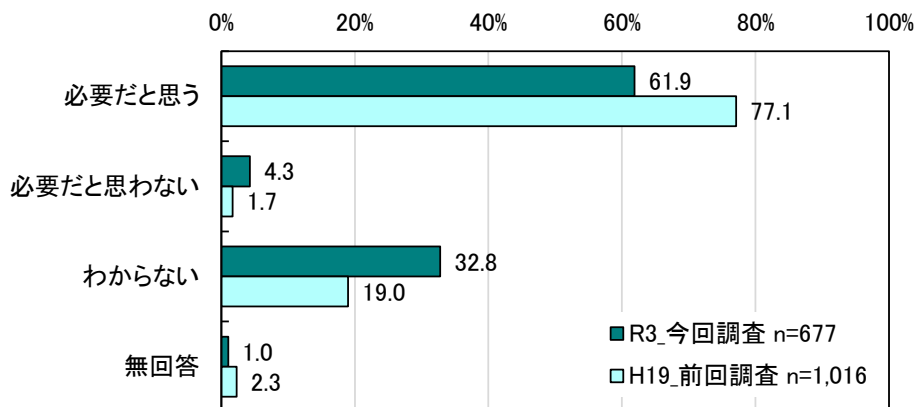
単位：%

年齢別	学校や職場	地域の回覧板	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	市役所と社会福祉協議会のホームページ以外のインターネット情報サイト	SNS (LINE・Facebook・Twitter 等のソーシャル・ネットワーキング・サービス)	その他	入手先がわからない	情報を入手する必要がない	無回答
18・19歳 n=18	27.8	11.1	0.0	0.0	11.1	5.6	33.3	16.7	0.0
20～29歳 n=83	8.4	10.8	10.8	7.2	16.9	0.0	22.9	16.9	0.0
30～39歳 n=105	14.3	15.2	3.8	4.8	17.1	2.9	18.1	4.8	0.0
40～49歳 n=125	12.8	12.8	8.0	5.6	8.0	3.2	20.0	4.0	0.0
50～59歳 n=136	6.6	18.4	10.3	7.4	11.8	3.7	11.0	7.4	0.0
60～69歳 n=138	0.7	24.6	16.7	4.3	6.5	1.4	8.7	2.2	1.4
70歳以上 n=66	0.0	39.4	18.2	3.0	1.5	0.0	4.5	1.5	1.5

問 22 今後、あなたは、地域社会での生活で起こる問題に対して、住民相互の自主的な協力関係が必要だと思いますか。(ひとつだけ○)

地域社会の問題に対して、住民相互の自主的な協力関係が必要だと思うかについては、今回調査では、「必要だと思う」が61.9%で最も高く、次いで「わからない」が32.8%、「必要だと思わない」が4.3%となっています。

前回調査と比較してみると、「必要だと思う」が15.2ポイント減少していて、「わからない」が13.8ポイント増加していることから、住民相互の自主的な協力関係の必要性に対して、必要だと思わない人が増えているのではなく、要否を判断できない人の割合が増加していることがわかります。



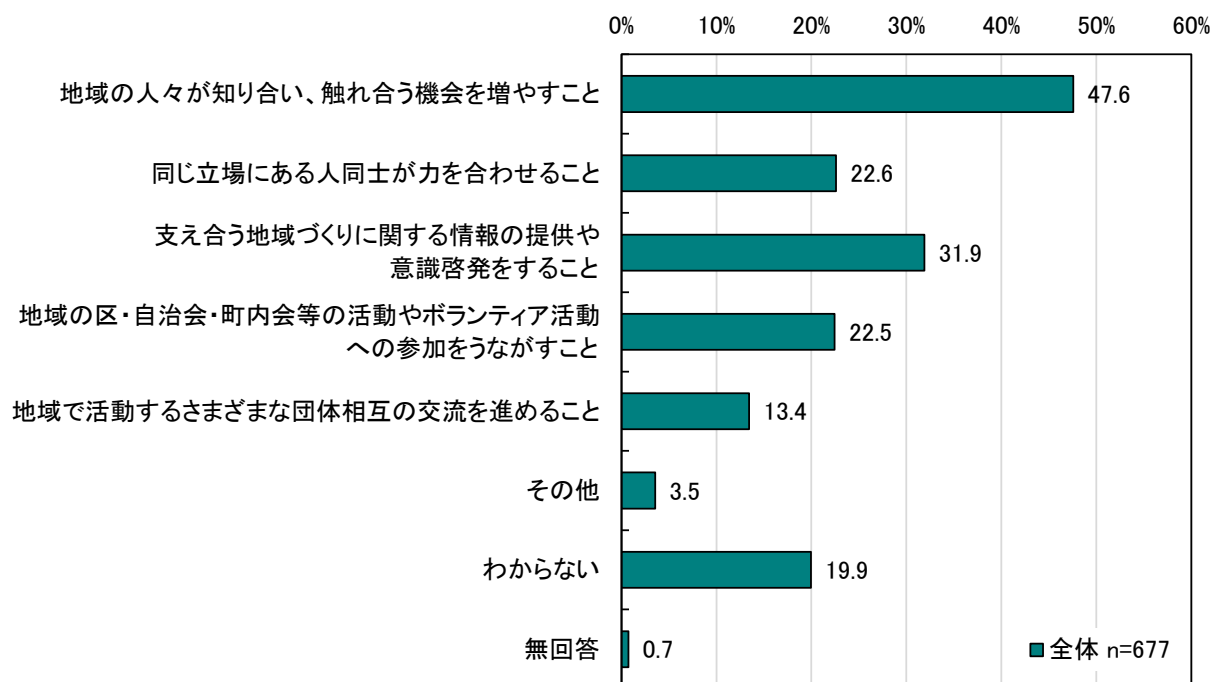
■ 愛着度別

地域への愛着度別にみると、「必要だと思う」は、『とても愛着がある』が73.7%、『ある程度愛着がある』が67.8%でした。逆に『あまり愛着がない』が40.0%、『まったく愛着がない』は20.0%でした。地域への愛着度が高いほど、住民相互の自主的な協力関係が必要だと感じているものとみられます。

単位: %		必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答
愛着度別	とても愛着がある n=114	73.7	2.6	22.8	0.9
	ある程度愛着がある n=407	67.8	1.7	30.0	0.5
	あまり愛着がない n=85	40.0	8.2	49.4	2.4
	まったく愛着がない n=25	20.0	32.0	48.0	0.0
	わからない n=44	45.5	9.1	43.2	2.3

問 23 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、どのようなことを行う必要があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために必要だと思うことについては、「地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと」が47.6%で最も高く、次いで「支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること」が31.9%、「同じ立場にある人同士が力を合わせること」が22.6%となっています。



■ その他の回答

- 地域の人が高齢の方が多く、自分たちの意見が必要ない様に思う。
- 仕事で家にいる時間が少なく、人と接することがほとんどない。
- お互いに自己主張が強いので関わりたくない。
- 参加することがメリットに感じるベネフィットを用意しておくこと。
- 色々な考えの人がいるので難しい。
- まずは挨拶をしない人が多いので、基本的な所から始めないといけないと思います。
- 住民同士の協力は必要だが、過度に親しくはしたくない。
- 地域にあるものを利用し、地域が好きになり、愛着がもてるようにすること。散歩でも、公園で一休みでも、お店やコミュニティセンターの利用などでもよい。
- 仕事や子どものことで忙しい。活動の場を増やしても参加はできません。
- 地域住民が正確かつ共通の情報の共有下にあること。
- 「住民同士がともに支え合う地域づくり」とは、どのような地域なのかは漠然として不明。
- まずは会話とか交流。すべてそれから。
- 考え方の違いが多い住宅地のような気がするので難しい。
- 十分な活動資金が必要。
- 住人同士の仲が良いことでメリットもあるが、ある程度の距離感がある近所づきあいをしたい。また、近所でもあいさつを返さないおじさんとは関わりたくない。ボランティアという名の強制労働（断れない役員等）はやめてほしい。
- 情報共有のやり方と興味やメリットを持たせる。回覧板は不要。
- コロナが流行っているのに、接触はあまりしたくないです。
- まずはあいさつから。
- 無理と考えています。
- 私の住む地域は単身世帯や高齢者世帯が多く、治安もあまり良くないような。支え合う地域づくりができるのかわかりません。
- 地域に属する学校等も含めた団体との意見交換。
- 立場を超えて人々が力を合わせることに。

■居住年数別

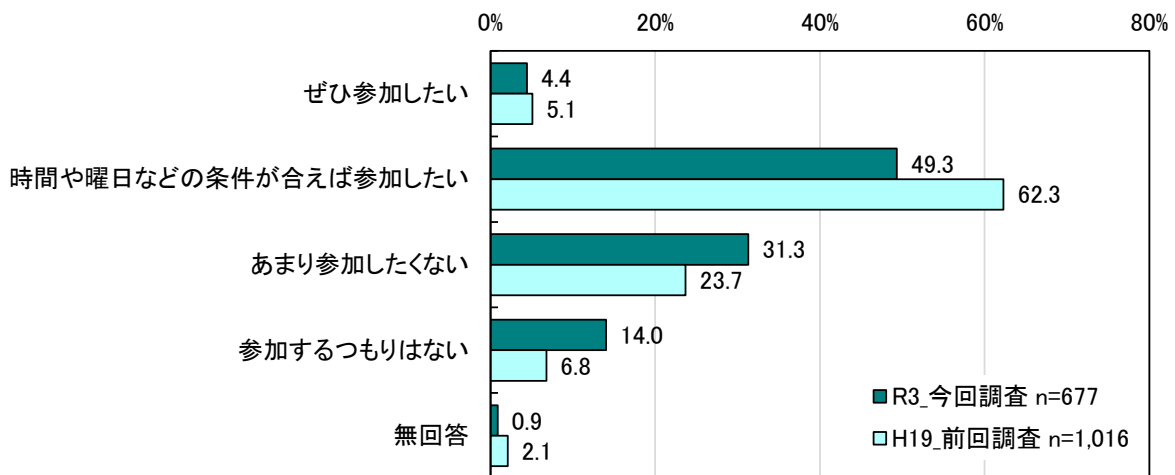
居住年数別にみると、「地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと」と「支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること」は、5年以上の方が5年未満の方に比べて10～15ポイント程度高くなっています。一方で、「同じ立場にある人同士が力を合わせることは、5年未満の方が5年以上の方に比べて15～25ポイント程度高くなっています。また、「地域の区・自治会・町内会等の活動やボランティア活動への参加をうながすこと」は、1年以上40年未満の各区分で約1～2割なのに比べ、40年以上で約3割と、10ポイント程度高い結果となりました。

		地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと	同じ立場にある人同士が力を合わせることは	支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること	地域の区・自治会・町内会等の活動やボランティア活動への参加をうながすこと	地域で活動するさまざまな団体相互の交流を進めること	その他	わからない	無回答
単位：%									
居住年数別	1年未満 n=6	33.3	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	1～5年未満 n=35	37.1	40.0	11.4	8.6	5.7	5.7	25.7	2.9
	5～10年未満 n=41	46.3	24.4	31.7	12.2	4.9	4.9	19.5	0.0
	10～20年未満 n=128	50.0	24.2	28.1	18.8	11.7	6.3	20.3	0.8
	20～30年未満 n=187	46.5	18.2	35.8	23.5	13.9	1.6	21.9	0.5
	30～40年未満 n=127	45.7	21.3	30.7	22.0	15.7	3.9	19.7	0.8
	40～50年未満 n=58	48.3	19.0	25.9	31.0	12.1	3.4	25.9	0.0
	50年以上 n=90	54.4	24.4	43.3	31.1	17.8	1.1	12.2	1.1

問 24 あなたは、地域の支え合いについて、市民同士で話し合う場が開催された場合、参加したいと思えますか。(ひとつだけ○)

市民同士の話し合いへの参加意向については、今回調査では、「時間や曜日などの条件が合えば参加したい」が49.3%で最も高く、次いで「あまり参加したくない」が31.3%、「参加するつもりはない」が14.0%となっています。

前回調査と比較してみると、「時間や曜日などの条件が合えば参加したい」が13.0ポイント減少し、「あまり参加したくない」が7.6ポイント、「参加するつもりはない」が7.2ポイント増加していることから、市民同士で話し合う場への参加に対して、消極的な方が増加していることがうかがえます。



■ 年齢別

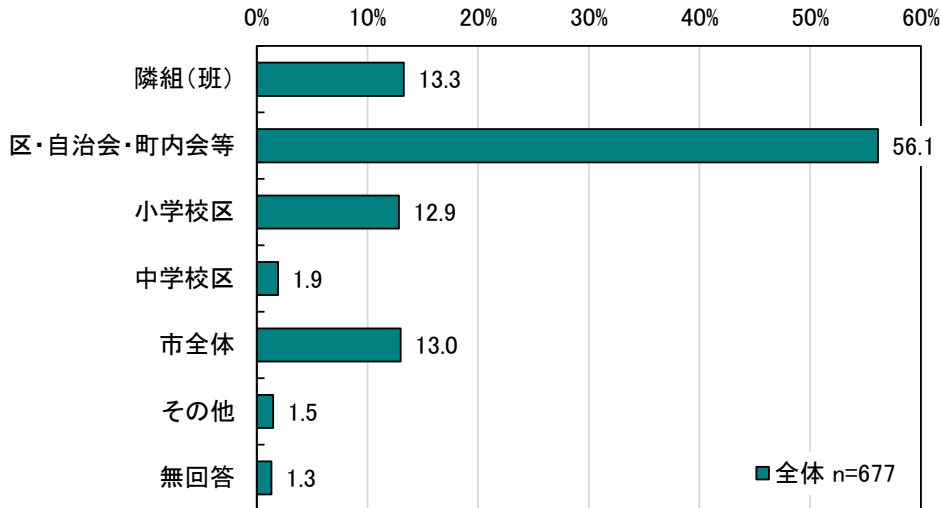
年齢別にみると、年齢が低いほうが、「参加するつもりはない」の割合は高く、市民同士で話し合う場への参加に対して、消極的な方が多い傾向がみられます。なお、『18・19歳』では、「参加するつもりはない」が38.9%となっています。

年齢	ぜひ参加したい	時間や曜日などの条件が合えば参加したい	あまり参加したくない	参加するつもりはない	無回答
18・19歳 n=18	0.0	33.3	27.8	38.9	0.0
20～29歳 n=83	2.4	44.6	25.3	27.7	0.0
30～39歳 n=105	3.8	41.0	32.4	21.9	1.0
40～49歳 n=125	4.0	51.2	32.0	12.0	0.8
50～59歳 n=136	1.5	47.8	38.2	12.5	0.0
60～69歳 n=138	7.2	58.7	26.8	5.1	2.2
70歳以上 n=66	9.1	53.0	33.3	4.5	0.0

単位: %

**問 25 あなたにとって「地域」とは、どういった範囲のことだと思いますか。
あなたの考えに近いものを選んでください。(ひとつだけ○)**

地域の範囲については、「区・自治会・町内会等」が56.1%で最も高く、次いで「隣組(班)」が13.3%、「市全体」が13.0%となっています。



■ その他の回答

- ・近隣市町村。
- ・住んでいる場所。
- ・200m以内。
- ・わからない。
- ・そもそも考えたことなし。
- ・文脈によっていくらか変わる。

■ 年齢別

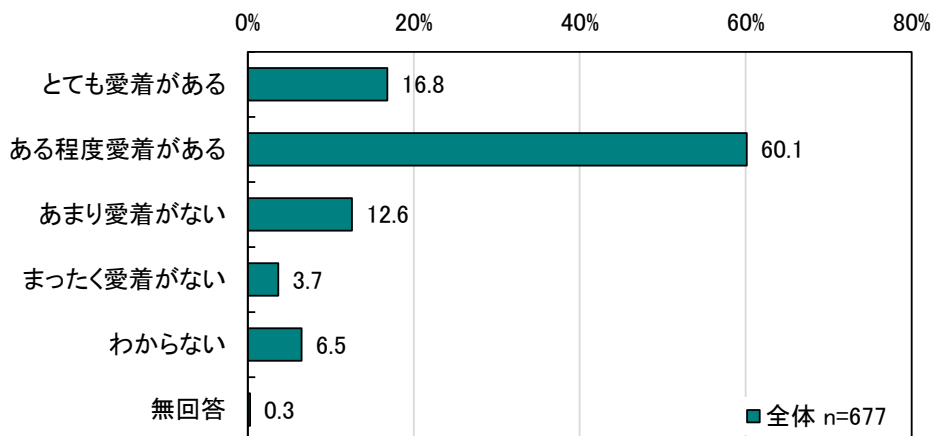
年齢別にみると、年齢が上がるとともに、「区・自治会・町内会等」の割合が高くなる傾向がみられることから、年齢が高いほうが、地域の範囲に対する認識は、狭い範囲で捉えている方が多いと考えられます。

一方で、年齢が下がるとともに、「小学校区」、「中学校区」、「市全体」の割合が高くなる傾向がみられることから、年齢が低いほうが、地域の範囲に対する認識は、広い範囲で捉えている方が多いと考えられます。

単位: %		隣組(班)	区・自治会・町内会等	小学校区	中学校区	市全体	その他	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	16.7	33.3	22.2	5.6	22.2	0.0	0.0
	20～29歳 n=83	18.1	44.6	13.3	4.8	18.1	0.0	1.2
	30～39歳 n=105	9.5	50.5	17.1	1.0	17.1	2.9	1.9
	40～49歳 n=125	13.6	52.0	15.2	2.4	13.6	1.6	1.6
	50～59歳 n=136	16.2	62.5	8.8	1.5	10.3	0.7	0.0
	60～69歳 n=138	9.4	62.3	10.1	1.4	13.0	2.2	1.4
	70歳以上 n=66	13.6	71.2	9.1	0.0	3.0	0.0	3.0

問 26 あなたは、お住まいの地域に愛着をお持ちですか。(ひとつだけ○)

地域への愛着については、「ある程度愛着がある」が 60.1%で最も高く、次いで「とても愛着がある」が 16.8%、「あまり愛着がない」が 12.6%となっています。



■地区別

地区別にみると、「とても愛着がある」と「ある程度愛着がある」の合計値は、『駒馬台小学校区』が 87.7%で最も高く、次いで『大宮小学校区』が 84.6%、『久保台小学校区』が 84.0%となっています。

一方で、「あまり愛着がない」と「まったく愛着がない」の合計値は、『松葉小学校区』が 23.4%で最も高く、次いで『旧長戸小学校区』が 21.5%、『城ノ内小学校区』が 19.3%となっています。

地区により、地域に対する愛着度に異なる傾向がみられます。

単位: %		とても愛着がある	ある程度愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない	わからない	無回答	愛着がある合計値	愛着がない合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	16.0	64.0	8.0	4.0	8.0	0.0	80.0	12.0
	駒柴小学校区 n=67	10.4	64.2	13.4	4.5	7.5	0.0	74.6	17.9
	八原小学校区 n=53	15.1	62.3	7.5	5.7	9.4	0.0	77.4	13.2
	旧長戸小学校区 n=42	23.8	52.4	16.7	4.8	2.4	0.0	76.2	21.5
	旧北文間小学校区 n=50	20.0	54.0	12.0	6.0	8.0	0.0	74.0	18.0
	川原代小学校区 n=50	22.0	58.0	12.0	4.0	4.0	0.0	80.0	16.0
	大宮小学校区 n=52	17.3	67.3	13.5	0.0	0.0	1.9	84.6	13.5
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	19.1	48.9	17.0	2.1	12.8	0.0	68.0	19.1
	松葉小学校区 n=47	12.8	57.4	21.3	2.1	6.4	0.0	70.2	23.4
	長山小学校区 n=54	14.8	59.3	7.4	7.4	11.1	0.0	74.1	14.8
	駒馬台小学校区 n=49	16.3	71.4	6.1	2.0	2.0	2.0	87.7	8.1
	久保台小学校区 n=50	20.0	64.0	14.0	0.0	2.0	0.0	84.0	14.0
城ノ内小学校区 n=57	15.8	56.1	14.0	5.3	8.8	0.0	71.9	19.3	

※愛着がある合計値:「とても愛着がある」+「ある程度愛着がある」

※愛着がない合計値:「あまり愛着がない」+「まったく愛着がない」

■居住年数別

居住年数別にみると、「とても愛着がある」と「ある程度愛着がある」の合計値は、居住年数が長くなるほうが、割合は高くなっています。なお、居住年数が5年を超えてくると、「愛着がある」の割合が7割を超えてくることから、地域に対する愛着が高まっていく分岐点となる居住年数は、『5～10年未満』であることがうかがえます。

単位：%		とても愛着がある	ある程度愛着がある	あまり愛着がない	まったく愛着がない	わからない	無回答	愛着がある合計値	愛着がない合計値
居住年数別	1年未満 n=6	16.7	16.7	0.0	0.0	66.7	0.0	33.4	0.0
	1～5年未満 n=35	8.6	31.4	28.6	5.7	25.7	0.0	40.0	34.3
	5～10年未満 n=41	4.9	65.9	14.6	7.3	7.3	0.0	70.8	21.9
	10～20年未満 n=128	10.2	66.4	10.9	6.3	6.3	0.0	76.6	17.2
	20～30年未満 n=187	17.1	61.0	12.3	4.3	4.8	0.5	78.1	16.6
	30～40年未満 n=127	19.7	60.6	14.2	1.6	3.9	0.0	80.3	15.8
	40～50年未満 n=58	20.7	63.8	10.3	1.7	3.4	0.0	84.5	12.0
50年以上 n=90	27.8	57.8	8.9	1.1	3.3	1.1	85.6	10.0	

※愛着がある合計値：「とても愛着がある」+「ある程度愛着がある」

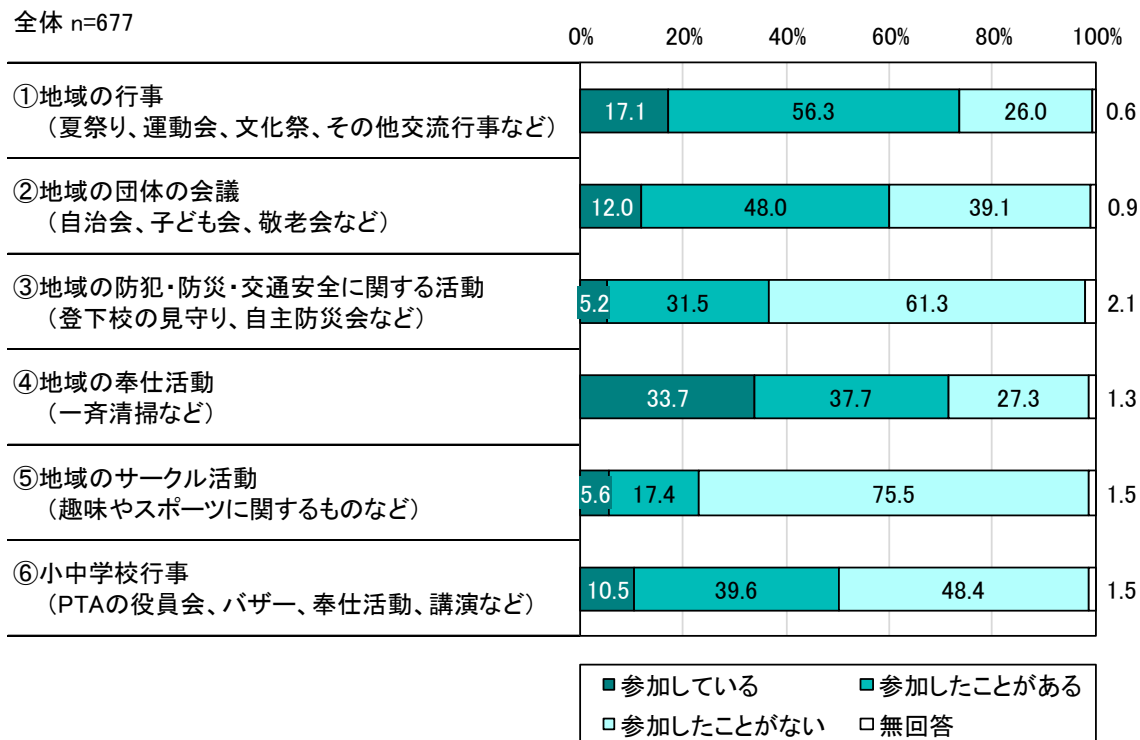
※愛着がない合計値：「あまり愛着がない」+「まったく愛着がない」

3 「地域に関わる活動」について

問 27 あなたは、以下の地域活動にどの程度参加していますか。

※①から⑥それぞれに回答してください。(それぞれひとつだけ○)

地域活動の参加状況について、「参加している」をみると、『④地域の奉仕活動（一斉清掃など）』が33.7%で最も高く、次いで『①地域の行事（夏祭り、運動会、文化祭、その他交流行事など）』が17.1%、『②地域の団体の会議（自治会、子ども会、敬老会など）』が12.0%となっています。



■年齢別_①地域の行事（夏祭り、運動会、文化祭、その他交流行事など）

年齢別にみると、「参加している」と「参加したことがある」の合計値は、『18・19歳』が88.9%で最も高く、次いで『70歳以上』が86.4%、『60～69歳』が79.7%となっています。

単位：%		参加している	参加したことがある	参加したことがない	無回答	参加経験あり合計値
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	88.9	11.1	0.0	88.9
	20～29歳 n=83	8.4	60.2	31.3	0.0	68.6
	30～39歳 n=105	20.0	40.0	40.0	0.0	60.0
	40～49歳 n=125	29.6	40.8	28.8	0.8	70.4
	50～59歳 n=136	7.4	66.2	25.7	0.7	73.6
	60～69歳 n=138	18.8	60.9	19.6	0.7	79.7
	70歳以上 n=66	21.2	65.2	12.1	1.5	86.4

※参加経験あり合計値：「参加している」+「参加したことがある」

■年齢別_②地域の団体の会議（自治会、子ども会、敬老会など）

年齢別にみると、「参加している」と「参加したことがある」の合計値は、『70歳以上』が74.2%で最も高く、次いで『60～69歳』が72.4%、『50～59歳』が68.4%となっています。

単位：%		参加している	参加したことがある	参加したことがない	無回答	参加経験あり合計値
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	55.6	44.4	0.0	55.6
	20～29歳 n=83	0.0	38.6	61.4	0.0	38.6
	30～39歳 n=105	10.5	28.6	61.0	0.0	39.1
	40～49歳 n=125	14.4	45.6	38.4	1.6	60.0
	50～59歳 n=136	8.8	59.6	30.1	1.5	68.4
	60～69歳 n=138	18.8	53.6	26.8	0.7	72.4
	70歳以上 n=66	19.7	54.5	24.2	1.5	74.2

※参加経験あり合計値：「参加している」+「参加したことがある」

■年齢別_③地域の防犯・防災・交通安全に関する活動（登下校の見守り、自主防災会など）

年齢別にみると、「参加している」と「参加したことがある」の合計値は、『50～59歳』が44.1%で最も高く、次いで『40～49歳』が44.0%、『60～69歳』が42.0%となっています。

単位：%		参加している	参加したことがある	参加したことがない	無回答	参加経験あり合計値
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	27.8	72.2	0.0	27.8
	20～29歳 n=83	0.0	14.5	84.3	1.2	14.5
	30～39歳 n=105	9.5	20.0	68.6	1.9	29.5
	40～49歳 n=125	6.4	37.6	53.6	2.4	44.0
	50～59歳 n=136	2.9	41.2	54.4	1.5	44.1
	60～69歳 n=138	6.5	35.5	56.5	1.4	42.0
	70歳以上 n=66	4.5	33.3	56.1	6.1	37.8

※参加経験あり合計値：「参加している」+「参加したことがある」

■ 年齢別_④地域の奉仕活動（一斉清掃など）

年齢別にみると、「参加している」と「参加したことがある」の合計値は、『60～69歳』が91.3%で最も高く、次いで『70歳以上』が89.4%、『50～59歳』が81.6%となっています。

単位：%		参加している	参加したことがある	参加したことがない	無回答	参加経験あり合計値
年齢別	18・19歳 n=18	5.6	55.6	38.9	0.0	61.2
	20～29歳 n=83	8.4	37.3	53.0	1.2	45.7
	30～39歳 n=105	17.1	31.4	51.4	0.0	48.5
	40～49歳 n=125	32.8	32.8	32.8	1.6	65.6
	50～59歳 n=136	39.0	42.6	16.9	1.5	81.6
	60～69歳 n=138	50.7	40.6	7.2	1.4	91.3
	70歳以上 n=66	53.0	36.4	7.6	3.0	89.4

※参加経験あり合計値：「参加している」+「参加したことがある」

■ 年齢別_⑤地域のサークル活動（趣味やスポーツに関するものなど）

年齢別にみると、「参加している」と「参加したことがある」の合計値は、『70歳以上』が37.9%で最も高く、次いで『60～69歳』が34.8%、『50～59歳』が26.5%となっています。

単位：%		参加している	参加したことがある	参加したことがない	無回答	参加経験あり合計値
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	16.7	83.3	0.0	16.7
	20～29歳 n=83	1.2	15.7	83.1	0.0	16.9
	30～39歳 n=105	5.7	6.7	87.6	0.0	12.4
	40～49歳 n=125	4.8	7.2	86.4	1.6	12.0
	50～59歳 n=136	2.2	24.3	72.1	1.5	26.5
	60～69歳 n=138	8.7	26.1	63.0	2.2	34.8
	70歳以上 n=66	15.2	22.7	57.6	4.5	37.9

※参加経験あり合計値：「参加している」+「参加したことがある」

■ 年齢別_⑥小中学校行事（PTAの役員会、バザー、奉仕活動、講演など）

年齢別にみると、「参加している」と「参加したことがある」の合計値は、『40～49歳』が62.4%で最も高く、次いで『60～69歳』が61.6%、『50～59歳』が57.4%となっています。

単位：%		参加している	参加したことがある	参加したことがない	無回答	参加経験あり合計値
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	44.4	55.6	0.0	44.4
	20～29歳 n=83	1.2	25.3	73.5	0.0	26.5
	30～39歳 n=105	20.0	18.1	61.9	0.0	38.1
	40～49歳 n=125	24.0	38.4	35.2	2.4	62.4
	50～59歳 n=136	3.7	53.7	41.9	0.7	57.4
	60～69歳 n=138	8.0	53.6	37.0	1.4	61.6
	70歳以上 n=66	3.0	34.8	56.1	6.1	37.8

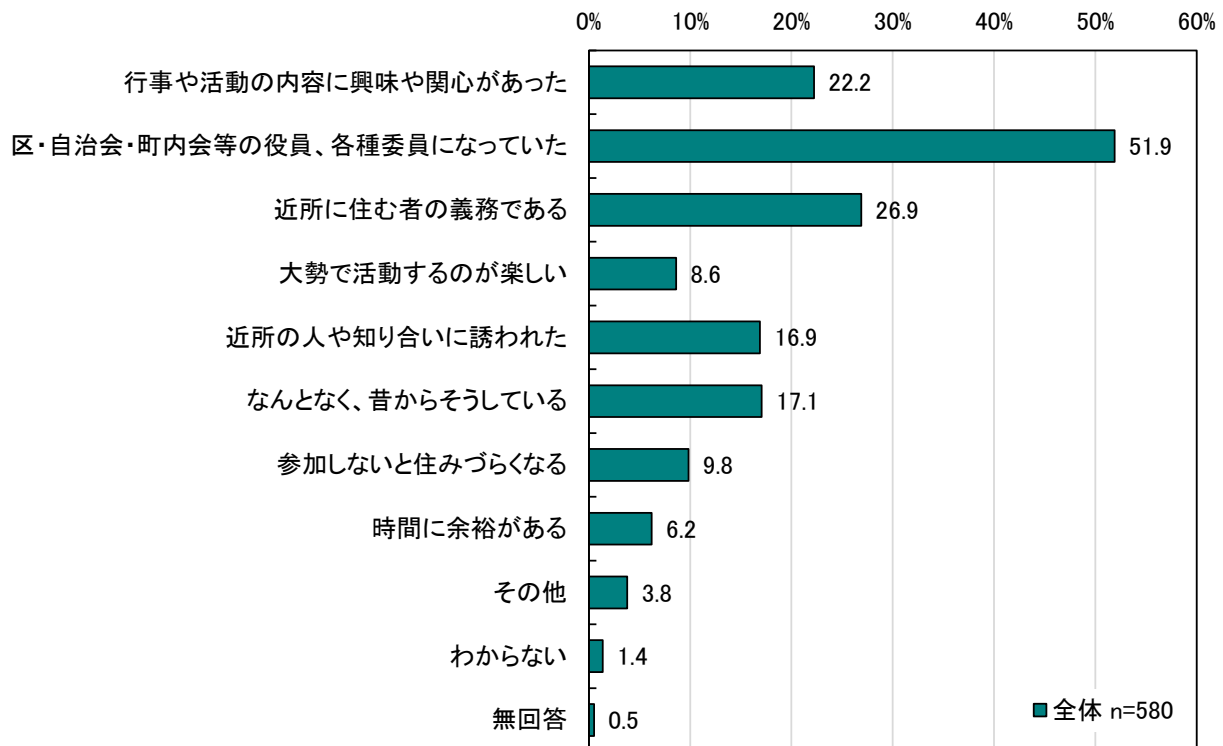
※参加経験あり合計値：「参加している」+「参加したことがある」

問 27 の①から⑥の項目で、1つでも『参加している／参加したことがある』を選んだ人におたずねします。

問 28 地域活動に参加している、あるいは参加したことがある理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

地域活動に参加している（参加したことがある）理由については、「区・自治会・町内会等の役員、各種委員になっていた」が51.9%で最も高く、次いで「近所に住む者の義務である」が26.9%、「行事や活動の内容に興味や関心があった」が22.2%となっています。



■ その他の回答

- ・参加せざるを得ないから。
- ・家族に連れられて。
- ・近所の人と知り合うため。
- ・子どもの学校だったから。
- ・気分による。
- ・子どもに色々な体験をさせたくて。
- ・子どものため。
- ・PTAに強制参加させられたため。
- ・学校からの要請。
- ・頼まれた為。
- ・子どもだったから。
- ・出るとお金をとられるから。
- ・学校、子ども会で。
- ・子どもが小中学生の頃だったので、参加した。
- ・子どもが参加しているから。
- ・その立場にいたことがある。
- ・地域のことを知ったり、地域の方とのコミュニケーション。
- ・小学生の頃。
- ・小中学生時代に何度か。
- ・親が役員だったため、手伝いで。
- ・特に「(問 27 の) ①地域の行事」は、学校の生徒であったため。また、「(同) ②地域の団体の会議」や「(同) ⑥小中学校行事」への参加時は子どもであり、参加の決定権は親が握っていたため。

■ 年齢別

年齢別にみると、年齢が高いほうが、「区・自治会・町内会等の役員、各種委員になっていた」、「近所に住む者の義務である」の割合は高くなる傾向がみられます。また、「参加しないと住みづらくなる」の割合は、30～69歳の年齢において、他の年齢と比べて高い傾向がみられます。

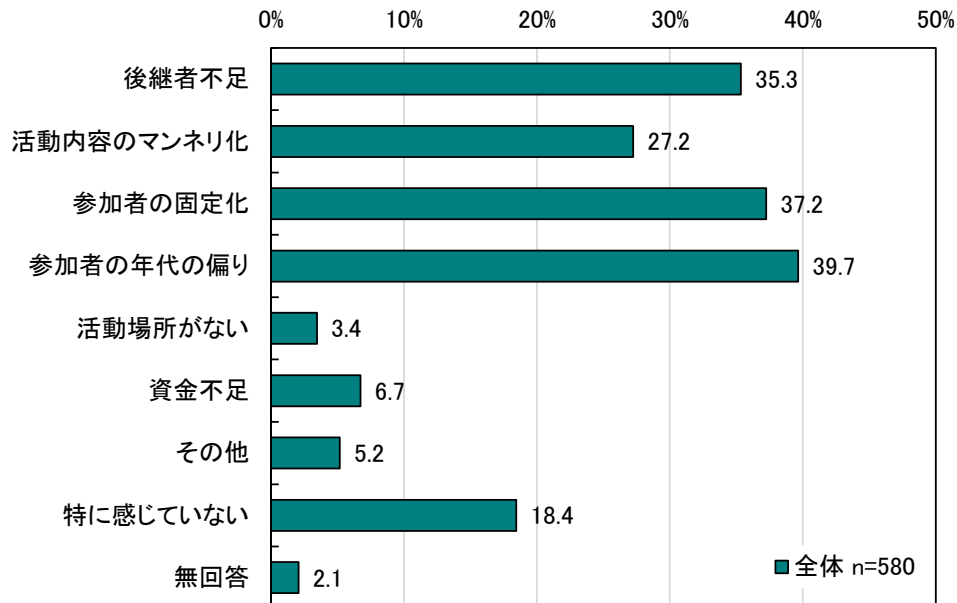
単位：%		行事や活動の内容に興味や関心があった	区・自治会・町内会等の役員、各種委員になっていた	近所に住む者の義務である	大勢で活動するのが楽しい	近所の人や知り合いに誘われた	なんとなく、昔からそうしている	参加しないと住みづらくなる	時間に余裕がある	その他
年齢別	18・19歳 n=16	18.8	0.0	18.8	18.8	18.8	56.3	6.3	6.3	12.5
	20～29歳 n=63	28.6	7.9	12.7	15.9	30.2	36.5	3.2	11.1	4.8
	30～39歳 n=76	22.4	32.9	15.8	6.6	9.2	21.1	19.7	10.5	6.6
	40～49歳 n=105	20.0	51.4	24.8	4.8	19.0	13.3	7.6	1.0	2.9
	50～59歳 n=120	20.0	64.2	28.3	5.0	15.0	5.8	12.5	4.2	5.8
	60～69歳 n=131	21.4	69.5	37.4	8.4	16.0	13.7	10.7	4.6	0.0
	70歳以上 n=63	27.0	73.0	34.9	14.3	15.9	17.5	1.6	12.7	0.0

単位：%		わからない	無回答
年齢別	18・19歳 n=16	0.0	0.0
	20～29歳 n=63	6.3	1.6
	30～39歳 n=76	2.6	0.0
	40～49歳 n=105	1.0	1.9
	50～59歳 n=120	0.8	0.0
	60～69歳 n=131	0.0	0.0
	70歳以上 n=63	0.0	0.0

問 27 の①から⑥の項目で、1つでも『参加している／参加したことがある』を選んだ人におたずねします。

問 29 参加している、あるいは参加したことがある地域活動について、課題だと思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

地域活動の課題だと思うことについては、「参加者の年代の偏り」が39.7%で最も高く、次いで「参加者の固定化」が37.2%、「後継者不足」が35.3%となっています。



■ その他の回答

- ・会の必要性。
- ・タンクトップ禁止、ガラが悪い。
- ・継続するのが難しい。
- ・何もやろうとしない。
- ・コロナで開催できない。
- ・わからない。
- ・非協力的な人がいる。
- ・北文間小学校が廃校になり、子どもがいなくなった(近所にも)。
- ・会場予約が、毎回先着順で大変。
- ・情報がなすすぎる。
- ・特定の人の趣味になっている。
- ・ムダな行事が多い。高齢者の自己満足な行事ばかり。
- ・行事の数が多すぎる。
- ・やること多すぎ。
- ・PTAに選ばれてしぶしぶ出席した。
- ・参加したくない。
- ・参加している人の高齢化。
- ・役員になる事が強制的であること。
- ・企画側の事は存じていない。

■地区別

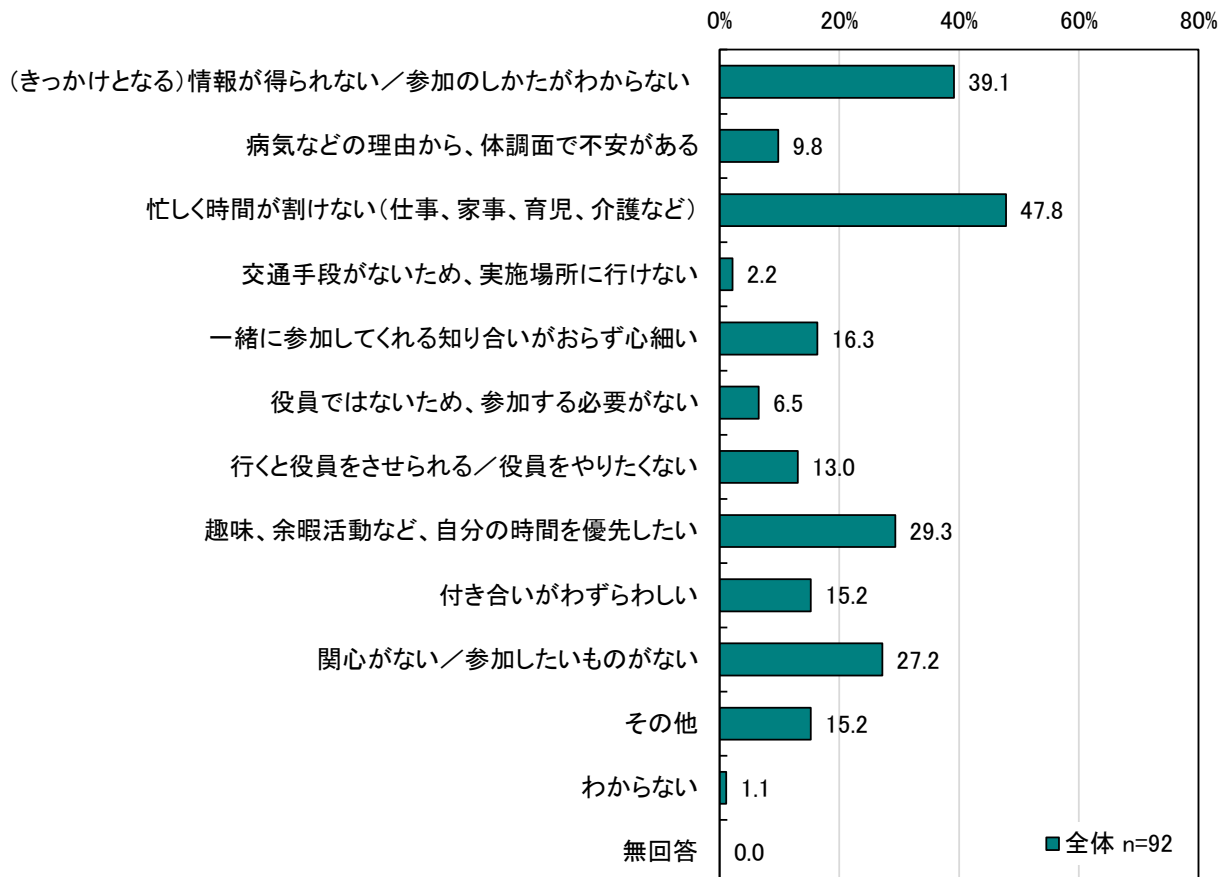
地区別にみると、「後継者不足」、「活動内容のマンネリ化」、「参加者の固定化」、「参加者の年代の偏り」の4つの項目で数値が高い点では共通していますが、その順位や回答割合は、各地区によりさまざまであることがわかります。

		後継者不足	活動内容のマンネリ化	参加者の固定化	参加者の年代の偏り	活動場所がない	資金不足	その他	特に感じていない	無回答
単位：%										
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=43	44.2	16.3	37.2	32.6	0.0	14.0	2.3	23.3	0.0
	馴染小学校区 n=52	25.0	21.2	36.5	32.7	3.8	0.0	1.9	25.0	1.9
	八原小学校区 n=47	29.8	36.2	38.3	38.3	10.6	10.6	6.4	12.8	6.4
	旧長戸小学校区 n=36	47.2	25.0	36.1	58.3	13.9	11.1	0.0	8.3	0.0
	旧北文間小学校区 n=43	41.9	25.6	27.9	46.5	2.3	4.7	9.3	23.3	2.3
	川原代小学校区 n=39	43.6	33.3	33.3	51.3	2.6	5.1	5.1	12.8	0.0
	大宮小学校区 n=45	46.7	24.4	37.8	46.7	0.0	2.2	2.2	17.8	4.4
	龍ヶ崎西小学校区 n=42	42.9	16.7	23.8	35.7	0.0	9.5	7.1	16.7	2.4
	松葉小学校区 n=42	33.3	33.3	45.2	45.2	4.8	4.8	7.1	23.8	0.0
	長山小学校区 n=46	28.3	23.9	28.3	23.9	0.0	2.2	6.5	21.7	2.2
	馴染馬台小学校区 n=45	40.0	26.7	53.3	42.2	2.2	15.6	4.4	15.6	0.0
	久保台小学校区 n=46	23.9	41.3	45.7	37.0	4.3	6.5	6.5	13.0	4.3
	城ノ内小学校区 n=45	20.0	24.4	35.6	28.9	2.2	4.4	8.9	24.4	0.0

問 27 の①から⑥の項目で、全て『参加したことがない』を選んだ人におたずねします。

問 30 地域活動に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動に参加していない理由については、「忙しく時間が割けない(仕事、家事、育児、介護など)」が 47.8%で最も高く、次いで「(きっかけとなる)情報が得られない/参加のしかたがわからない」が 39.1%、「趣味、余暇活動など、自分の時間を優先したい」が 29.3%となっています。



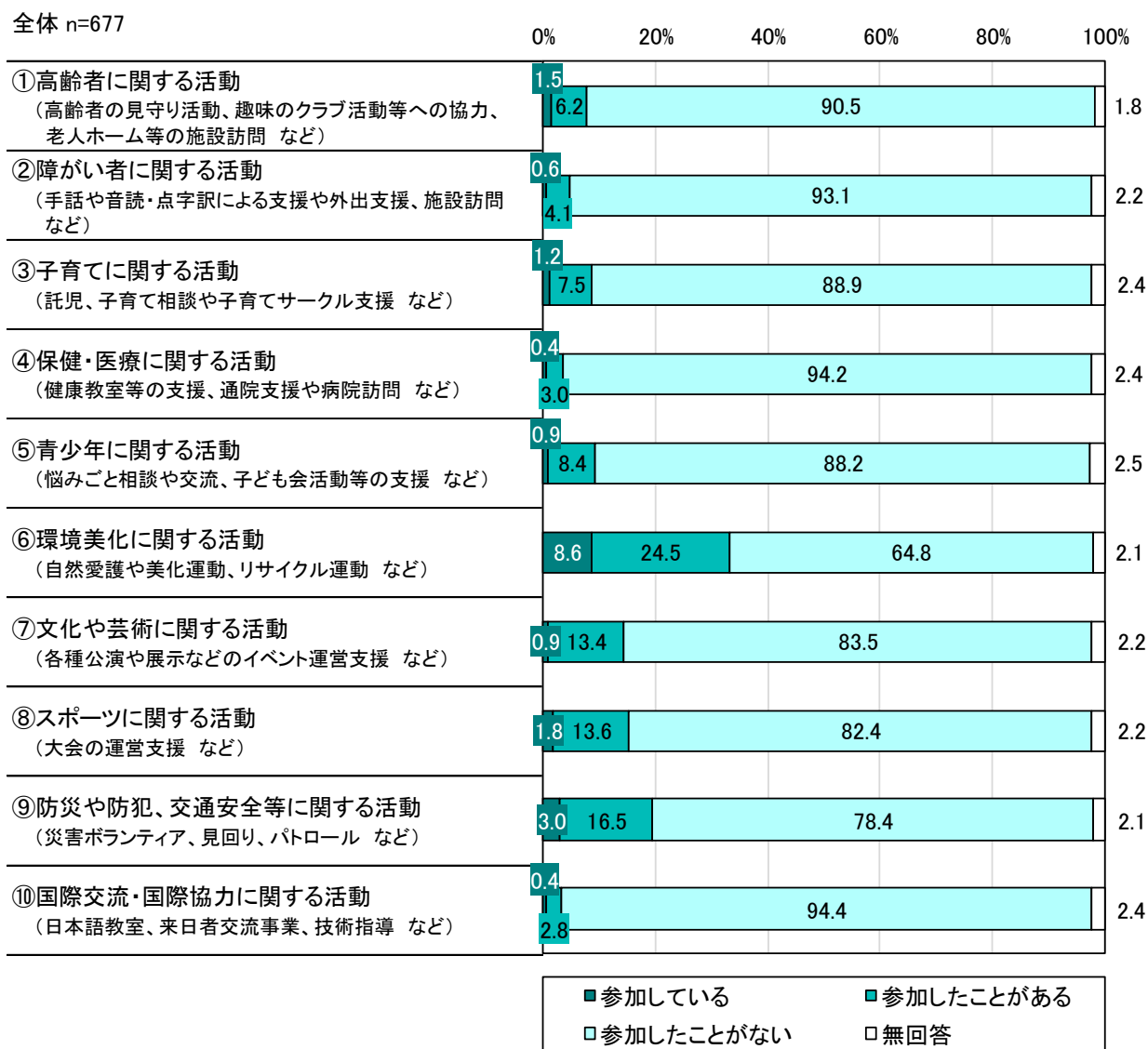
■ その他の回答

- ・地域に迷惑をかけている人物が役員をしている。
- ・アパートに住んでいるので、地域活動の情報が全くわからない。自治会からの声かけも全くない。
- ・人との関わりが面倒。どう見られているか考えすぎて疲れる。
- ・別の家族が参加してくれている。
- ・親が参加するので。
- ・引っ越したばかりで、何もわからないから。
- ・機会がない。
- ・知らない。

問 31 あなたは、以下のボランティア活動にどの程度参加していますか。

※①から⑩それぞれに回答してください。(それぞれひとつだけ○)

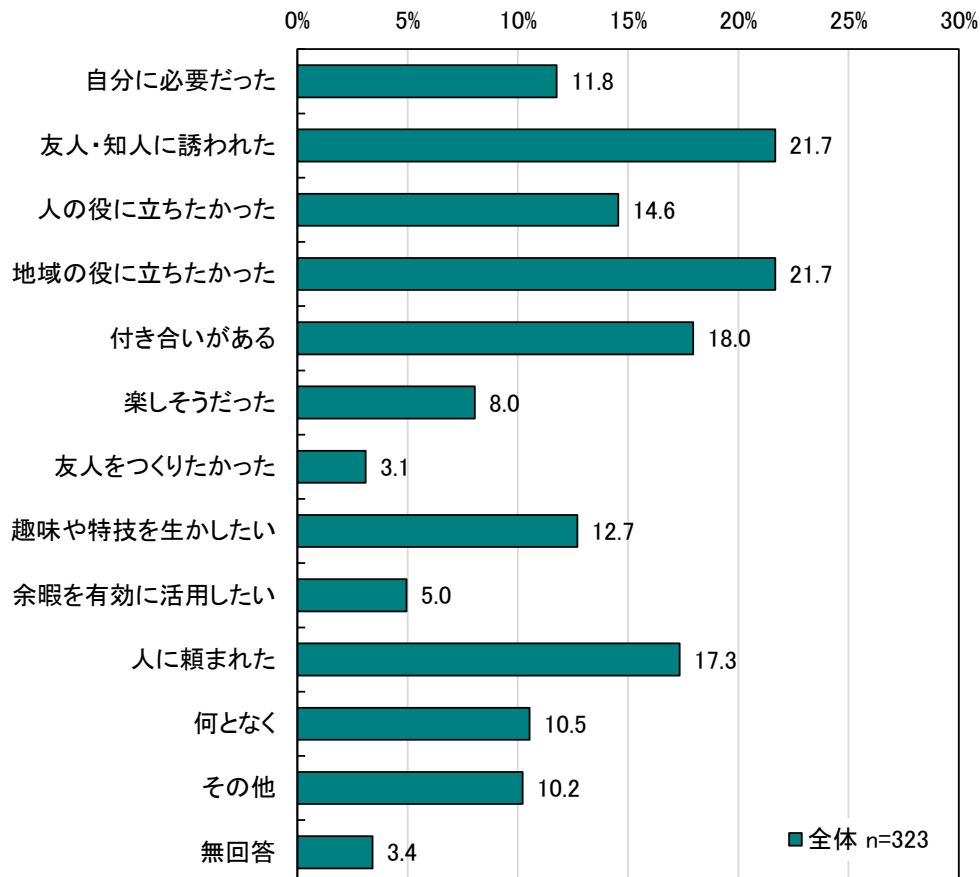
ボランティア活動への参加状況について、「参加している」と「参加したいことがある」の合計値は、『⑥環境美化に関する活動（自然愛護や美化運動、リサイクル運動 など）』が 33.1%で最も高く、次いで『⑨防災や防犯、交通安全等に関する活動（災害ボランティア、見回り、パトロール など）』が 19.5%、『⑧スポーツに関する活動（大会の運営支援 など）』が 15.4%となっています。



問 31 の①から⑩の項目で、1つでも『参加している／参加したことがある』を選んだ人におたずねします。

問 32 ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動に参加したきっかけについては、「友人・知人に誘われた」、「地域の役に立ちたかった」がともに21.7%で最も高く、次いで「付き合いがある」が18.0%、「人に頼まれた」が17.3%となっています。



■ その他の回答

- 自治会活動の延長。
- 役員のため。
- 他にやる人がいなかったため。
- どんな感じなのか気になった。
- 子どもの学校での参加義務。
- 学校の行事。
- 住民の様子を見て。
- 地域で決まっているから。
- 仕事のスキル。
- 当番として参加。
- 子どもがボーイスカウトにいた。
- 住人として当たり前。
- 相談したかったから。
- 「順番だから」と強制的だった。
- スポーツ団体に所属している。
- 所属していた学校やサークルの活動として。

■性別

性別にみると、『男性』では、「地域の役に立ちたかった」が30.6%で最も高く、次いで「付き合いがある」が23.1%、「友人・知人に誘われた」が20.9%となっています。『女性』では、「友人・知人に誘われた」が23.2%で最も高く、次いで「地域の役に立ちたかった」が16.4%、「自分に必要だった」が15.8%となっています。

性別により、ボランティア活動に参加するきっかけには、異なる傾向がみられます。

単位：%		自分に必要だった	友人・知人に誘われた	人の役に立ちたかった	地域の役に立ちたかった	付き合いがある	楽しそうだった	友人をつくりたかった	趣味や特技を生かしたい	余暇を有効に活用したい
性別	男性 n=134	6.0	20.9	15.7	30.6	23.1	6.0	2.2	12.7	6.0
	女性 n=177	15.8	23.2	14.1	16.4	13.0	9.6	4.0	12.4	4.5
	それ以外 n=2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	答えたくない n=4	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0

単位：%		人に頼まれた	何となく	その他	無回答
性別	男性 n=134	19.4	10.4	9.0	3.0
	女性 n=177	14.1	10.7	11.3	4.0
	それ以外 n=2	100.0	0.0	0.0	0.0
	答えたくない n=4	0.0	25.0	25.0	0.0

■年齢別

年齢別にみると、年齢が上がるとともに、「地域の役に立ちたかった」、「趣味や特技を生かしたい」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：%		自分に必要だった	友人・知人に誘われた	人の役に立ちたかった	地域の役に立ちたかった	付き合いがある	楽しそうだった	友人をつくりたかった	趣味や特技を生かしたい	余暇を有効に活用したい
年齢別	18・19歳 n=7	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 n=22	4.5	27.3	13.6	13.6	13.6	9.1	0.0	9.1	0.0
	30～39歳 n=37	16.2	18.9	16.2	10.8	16.2	18.9	10.8	2.7	8.1
	40～49歳 n=65	16.9	21.5	6.2	12.3	20.0	3.1	0.0	9.2	0.0
	50～59歳 n=64	10.9	17.2	18.8	28.1	23.4	4.7	3.1	14.1	6.3
	60～69歳 n=82	13.4	19.5	19.5	29.3	19.5	7.3	4.9	18.3	7.3
	70歳以上 n=41	4.9	31.7	12.2	31.7	9.8	12.2	0.0	19.5	7.3

単位：%		人に頼まれた	何となく	その他	無回答
年齢別	18・19歳 n=7	14.3	28.6	14.3	14.3
	20～29歳 n=22	22.7	13.6	4.5	9.1
	30～39歳 n=37	8.1	21.6	10.8	2.7
	40～49歳 n=65	16.9	12.3	12.3	3.1
	50～59歳 n=64	21.9	3.1	9.4	1.6
	60～69歳 n=82	20.7	9.8	11.0	2.4
	70歳以上 n=41	7.3	7.3	7.3	4.9

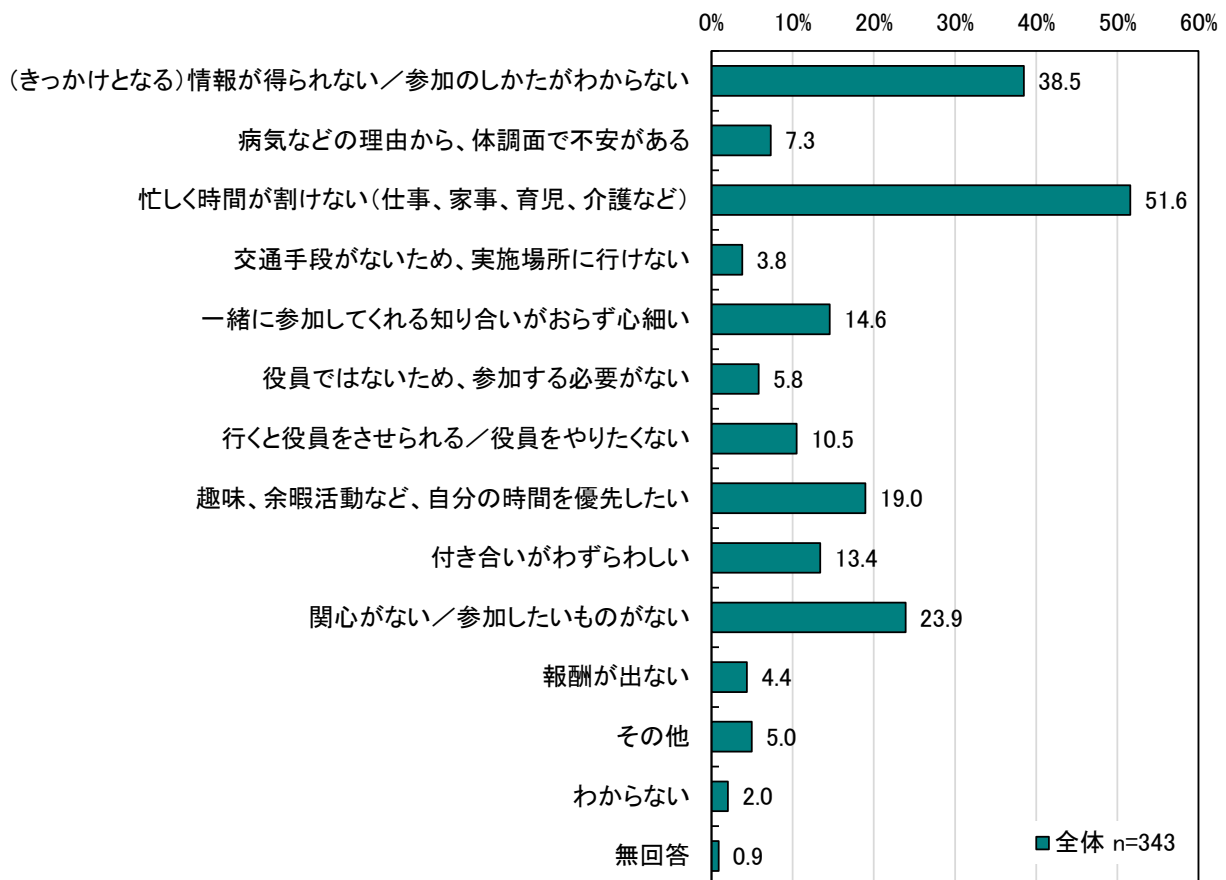
問 31 の①から⑩の項目で、全て『参加したことがない』を選んだ人におたずねします。

問 33 ボランティア活動に参加したことがない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動に参加したことがない理由については、「忙しく時間が割けない(仕事、家事、育児、介護など)」が51.6%で最も高く、次いで「(きっかけとなる)情報が得られない/参加のしかたがわからない」が38.5%、「関心がない/参加したいものがない」が23.9%となっています。

その他の回答では、「参加する機会がない」、「平日休みなので参加できない」、「活動していることを知らない」との意見がみられます。



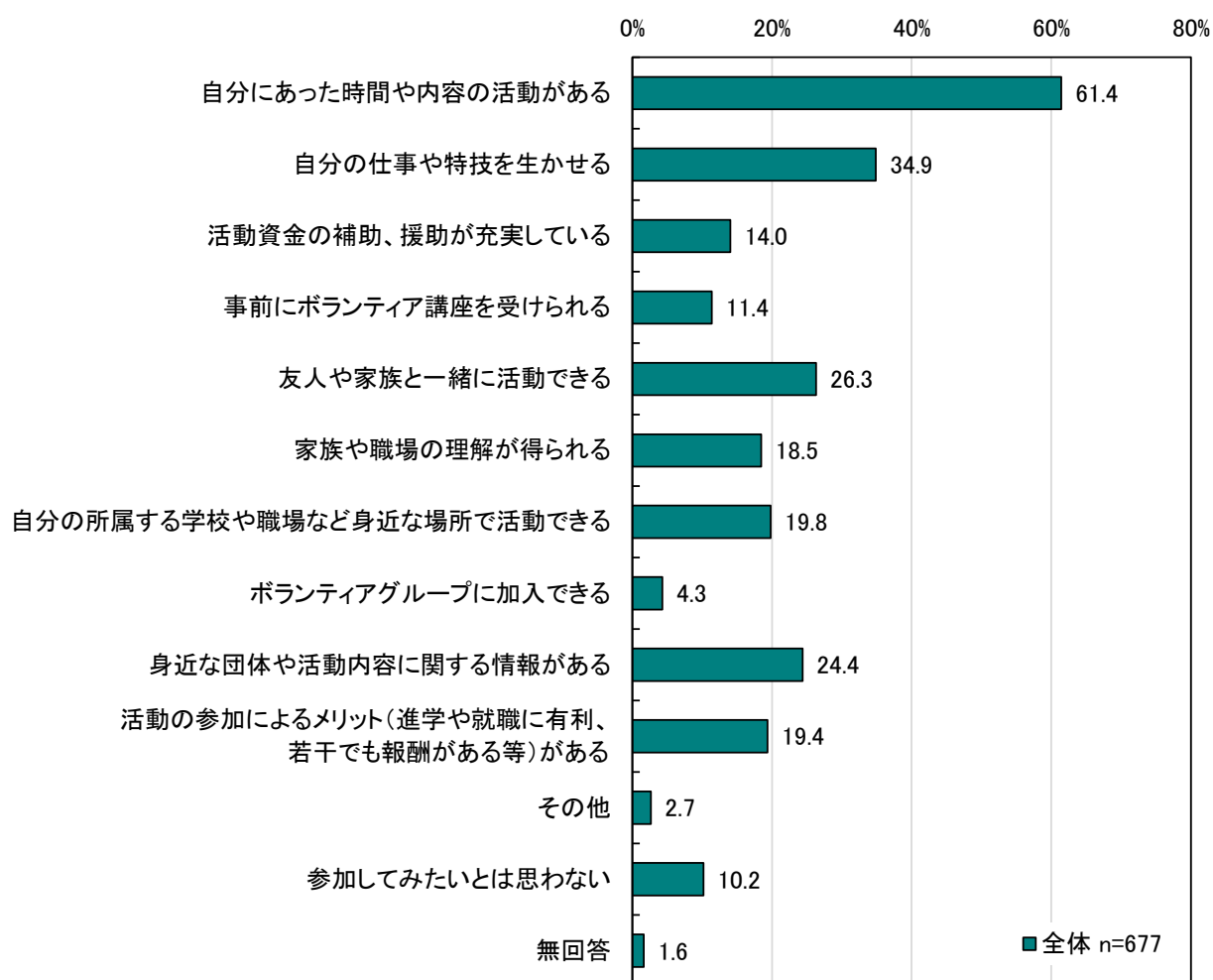
■ その他の回答

- ・アパートなので、地域と関わりがあまりないため。
- ・自分にあつた時間がなかった。
- ・自分以外の家族が参加してくれている。
- ・コロナのせいで人との接触を減らさないといけないため。
- ・20~50歳まで東京でサラリーマン生活をしており、こちらに戻って10年足らずで、参加する機会がなかった。
- ・面倒くさい。孤独だから。
- ・来て間もないため。
- ・機会がない。
- ・そもそも活動の存在を知らない。
- ・休みが平日のみなので、参加が難しい。
- ・PTAと自治会の役員で十分ボランティア活動をしたと思う。

問 34 多くの人が地域活動やボランティア活動に参加しやすくなるためには、どのような条件が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動に参加しやすくなるために必要だと思う条件については、「自分にあった時間や内容の活動がある」が61.4%で最も高く、次いで「自分の仕事や特技を生かせる」が34.9%、「友人や家族と一緒に活動できる」が26.3%となっています。

選択肢の中に「身近な団体や活動内容に関する情報がある」がありますが、その他の回答の中にも情報の多方面への発信や入手のしやすさという意見がありました。情報があることではなく、必要な情報にアクセスしやすいことが重要だという意見は注目すべき意見であると考えます。



■その他の回答

- 好きな時に参加できる自由な環境。
- ボランティア保険。
- 自分が孤独死にならないように過ごすための、転ばぬ先の杖。
- 時間があれば。
- 参加者全てが、ボランティア経験年数や年齢等に関係なく、平等な関係での組織運営をすること。
- みんながやればやる的な。
- いつでも、どこでも、だれでも情報を入手できる環境づくり。
- 短期や単発の活動だと参加できるかもと思います。
- 自分の経験で言うと、何割かは絶対参加しないことを知っている。しかし、その人達に大ケガや大災害があったりして、それをきっかけに参加するようになる。何か切羽詰まると人間は変わる。災害後すぐにアクションを起こすべき。近所の頑固おやじ（地域、近所づきあいゼロ）が、骨折の大ケガをして、近所が助けたことをきっかけに心を開くようになった。この経験からの学びです。
- ボランティアの精神とは本来どういうものか理解度を高め、参加に対して啓発することが大事であると思う。
- インターネットでの交流。
- 自分の事で精一杯な社会の意識改革が必要。
- 日本におけるボランティア精神を国際的にするべき。
- 参加してみたいと思うが、耳が不自由なので話が見えないから。
- 勤労働員の発想を改めなければ、基本最低限の参加とならざるを得ない。
- 多方面に情報が発信され、どの層からでもアクセスが容易な状態である。

■年齢別

年齢別にみると、年齢が上がるとともに、「身近な団体や活動内容に関する情報がある」の割合が高くなる傾向がみられます。

一方で、年齢が下がるとともに、「友人や家族と一緒に活動できる」、「自分の所属する学校や職場など身近な場所で活動できる」、「活動の参加によるメリット（進学や就職に有利、若干でも報酬がある等）」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：%		自分にあつた時間や内容の活動がある	自分の仕事や特技を生かせる	活動資金の補助、援助が充実している	事前にボランティア講座を受けられる	友人や家族と一緒に活動できる	家族や職場の理解が得られる	自分の所属する学校や職場など身近な場所で活動できる	ボランティアグループに加入できる	身近な団体や活動内容に関する情報がある
年齢別	18・19歳 n=18	44.4	38.9	11.1	5.6	50.0	22.2	50.0	5.6	16.7
	20～29歳 n=83	62.7	47.0	16.9	8.4	33.7	24.1	25.3	4.8	16.9
	30～39歳 n=105	56.2	29.5	14.3	5.7	32.4	21.9	27.6	3.8	20.0
	40～49歳 n=125	61.6	28.0	17.6	10.4	27.2	28.8	24.0	1.6	20.8
	50～59歳 n=136	64.0	39.0	15.4	17.6	19.1	14.0	21.3	2.9	27.9
	60～69歳 n=138	68.1	34.8	12.3	15.9	23.2	10.1	7.2	7.2	29.7
	70歳以上 n=66	53.0	31.8	4.5	6.1	21.2	12.1	9.1	4.5	30.3

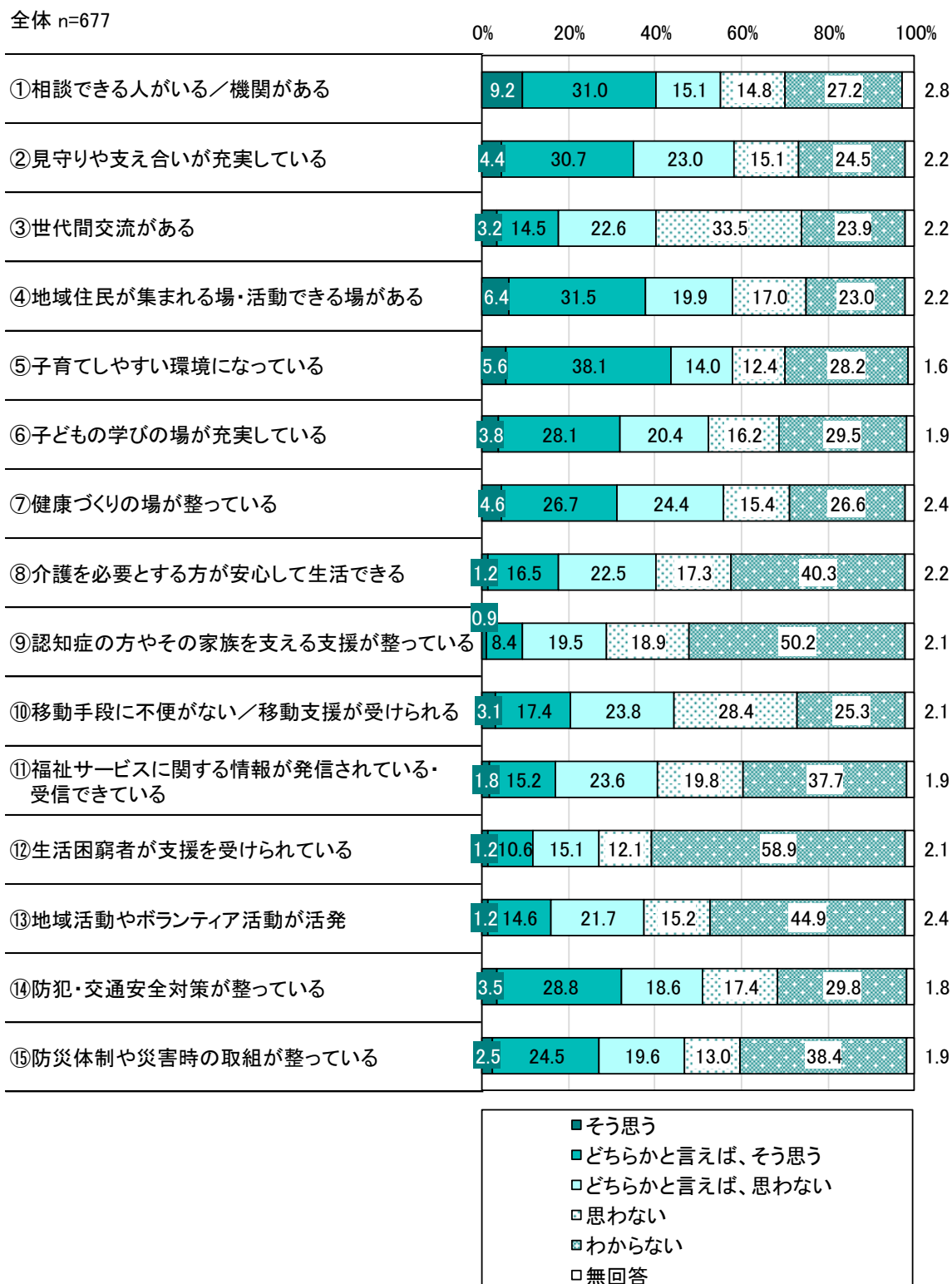
単位：%		活動の参加によるメリット（進学や就職に有利、若干でも報酬がある等）がある	その他	参加してみたいとは思わない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	44.4	5.6	11.1	0.0
	20～29歳 n=83	37.3	0.0	12.0	0.0
	30～39歳 n=105	30.5	3.8	9.5	1.0
	40～49歳 n=125	24.0	4.0	7.2	0.8
	50～59歳 n=136	11.8	2.2	11.0	1.5
	60～69歳 n=138	7.2	2.2	8.0	3.6
	70歳以上 n=66	4.5	1.5	16.7	3.0

4 「地域福祉施策」について

問 35 以下の項目について、あなたがお住まいの地域の現状をどのように感じていますか。

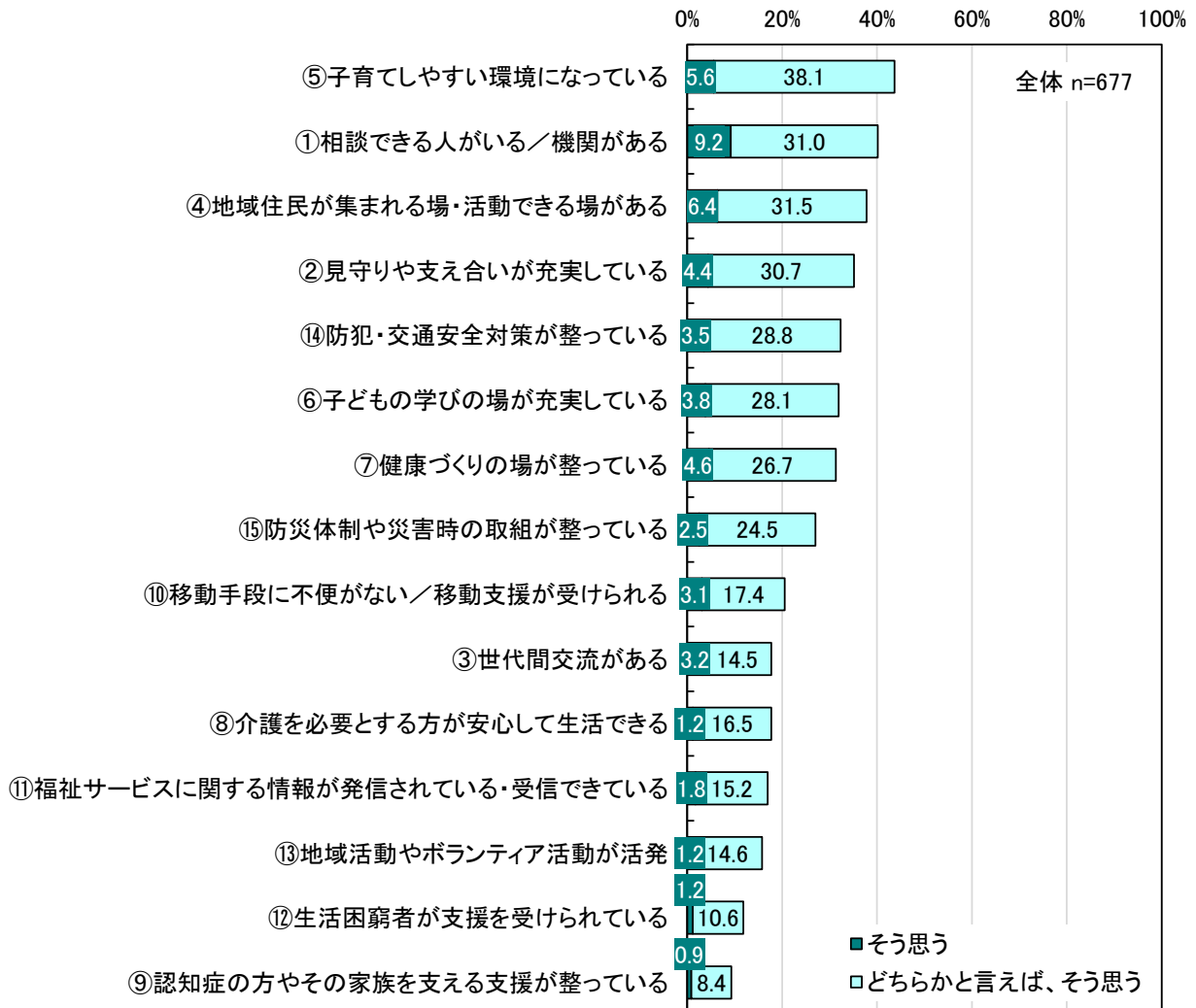
※①から⑮それぞれに回答してください。(それぞれひとつだけ○)

地域の現状について、「そう思う」をみると、最低で0.9%、最高でも9.2%と、全ての項目で10%を下回っています。また、「わからない」が半数を超えたのは、『⑫生活困窮者が支援を受けられている』が58.9%で最も高く、次いで『⑨認知症の方やその家族を支える支援が整っている』が50.2%となっています。



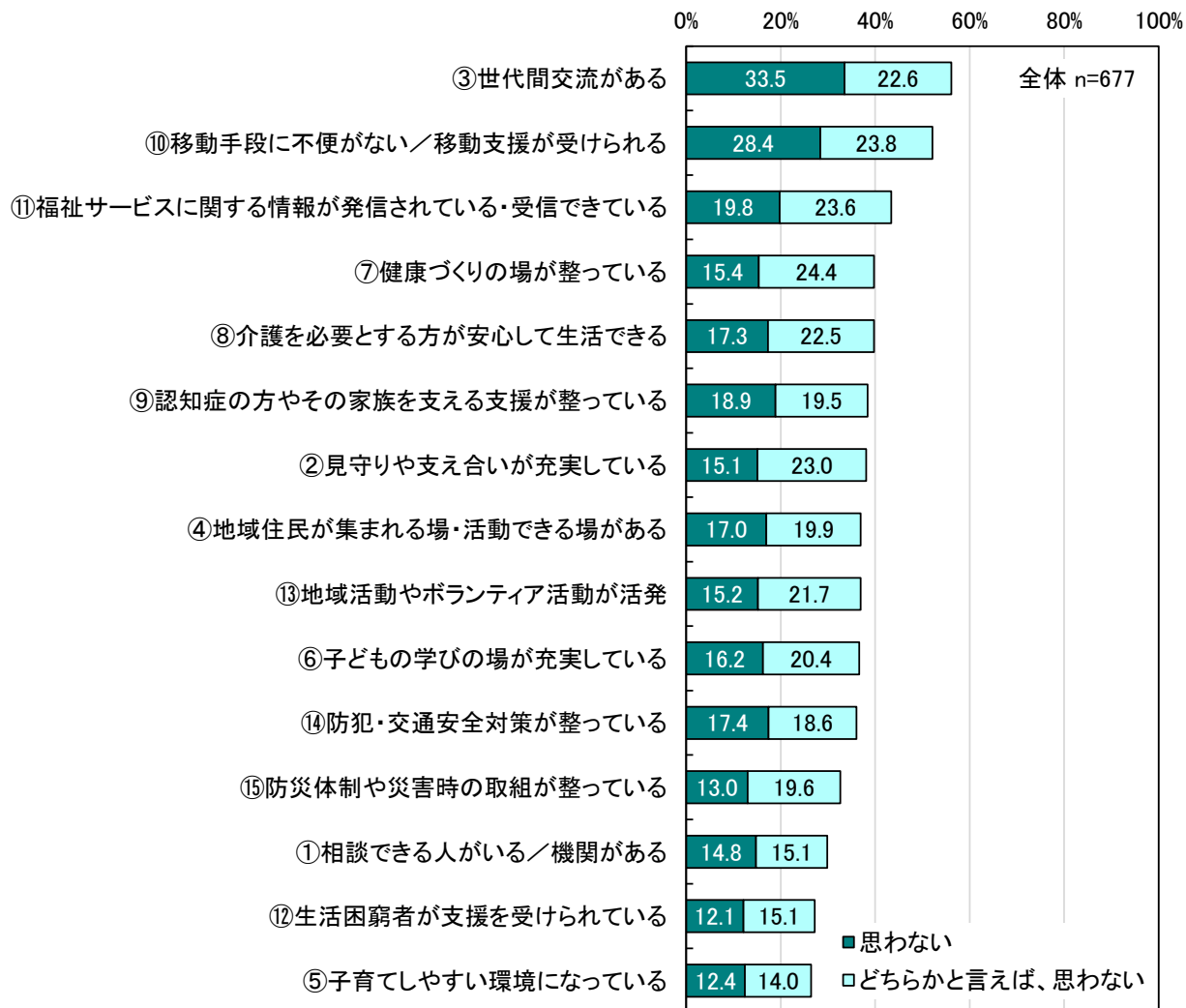
■ 「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」

「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値については、『⑤子育てしやすい環境になっている』が43.7%で最も高く、次いで『①相談できる人がいる／機関がある』が40.2%、『④地域住民が集まれる場・活動できる場がある』が37.9%となっています。



■ 「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」

「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値については、『③世代間交流がある』が56.1%で最も高く、次いで『⑩移動手段に不便がない／移動支援が受けられる』が52.2%、『⑪福祉サービスに関する情報が発信されている・受信できている』が43.4%となっています。



■地区別_①相談できる人がいる／機関がある

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『川原代小学校区』が58.0%で最も高く、次いで『旧長戸小学校区』が52.4%、『龍ヶ崎小学校区』が46.0%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『松葉小学校区』が40.4%で最も高く、次いで『馴馬台小学校区』が36.8%、『大宮小学校区』が34.7%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区 別	龍ヶ崎小学校区 n=50	10.0	36.0	18.0	14.0	22.0	0.0	46.0	32.0
	馴柴小学校区 n=67	4.5	31.3	16.4	14.9	31.3	1.5	35.8	31.3
	八原小学校区 n=53	5.7	22.6	13.2	15.1	39.6	3.8	28.3	28.3
	旧長戸小学校区 n=42	11.9	40.5	9.5	14.3	21.4	2.4	52.4	23.8
	旧北文間小学校区 n=50	8.0	36.0	16.0	12.0	20.0	8.0	44.0	28.0
	川原代小学校区 n=50	20.0	38.0	12.0	6.0	24.0	0.0	58.0	18.0
	大宮小学校区 n=52	9.6	30.8	13.5	21.2	19.2	5.8	40.4	34.7
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	14.9	29.8	10.6	8.5	36.2	0.0	44.7	19.1
	松葉小学校区 n=47	4.3	34.0	21.3	19.1	19.1	2.1	38.3	40.4
	長山小学校区 n=54	7.4	29.6	14.8	13.0	31.5	3.7	37.0	27.8
	馴馬台小学校区 n=49	12.2	30.6	18.4	18.4	16.3	4.1	42.8	36.8
	久保台小学校区 n=50	8.0	26.0	18.0	16.0	30.0	2.0	34.0	34.0
	城ノ内小学校区 n=57	7.0	26.3	10.5	14.0	38.6	3.5	33.3	24.5

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_②見守りや支え合いが充実している

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『馴馬台小学校区』が49.0%で最も高く、次いで『川原代小学校区』が46.0%、『旧長戸小学校区』が45.2%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧北文間小学校区』が52.0%で最も高く、次いで『八原小学校区』が50.9%、『松葉小学校区』が44.7%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区 別	龍ヶ崎小学校区 n=50	4.0	40.0	18.0	16.0	22.0	0.0	44.0	34.0
	馴柴小学校区 n=67	6.0	26.9	19.4	20.9	25.4	1.5	32.9	40.3
	八原小学校区 n=53	0.0	17.0	28.3	22.6	28.3	3.8	17.0	50.9
	旧長戸小学校区 n=42	7.1	38.1	26.2	9.5	16.7	2.4	45.2	35.7
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	20.0	32.0	20.0	20.0	6.0	22.0	52.0
	川原代小学校区 n=50	6.0	40.0	28.0	8.0	18.0	0.0	46.0	36.0
	大宮小学校区 n=52	7.7	34.6	17.3	13.5	19.2	7.7	42.3	30.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	8.5	27.7	23.4	4.3	36.2	0.0	36.2	27.7
	松葉小学校区 n=47	0.0	23.4	38.3	6.4	31.9	0.0	23.4	44.7
	長山小学校区 n=54	1.9	38.9	18.5	9.3	29.6	1.9	40.8	27.8
	馴馬台小学校区 n=49	8.2	40.8	24.5	10.2	12.2	4.1	49.0	34.7
	久保台小学校区 n=50	2.0	34.0	14.0	28.0	22.0	0.0	36.0	42.0
	城ノ内小学校区 n=57	5.3	26.3	14.0	17.5	35.1	1.8	31.6	31.5

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_③世代間交流がある

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『旧長戸小学校区』が28.5%で最も高く、次いで『城ノ内小学校区』が24.6%、『大宮小学校区』が23.1%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『龍ヶ崎小学校区』、『川原代小学校区』がともに62.0%で最も高く、次いで『久保台小学校区』が60.0%、『馴柴小学校区』が59.7%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	12.0	24.0	38.0	24.0	0.0	14.0	62.0
	馴柴小学校区 n=67	3.0	13.4	22.4	37.3	22.4	1.5	16.4	59.7
	八原小学校区 n=53	0.0	17.0	18.9	34.0	26.4	3.8	17.0	52.9
	旧長戸小学校区 n=42	9.5	19.0	23.8	35.7	9.5	2.4	28.5	59.5
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	12.0	20.0	34.0	26.0	6.0	14.0	54.0
	川原代小学校区 n=50	6.0	14.0	34.0	28.0	18.0	0.0	20.0	62.0
	大宮小学校区 n=52	5.8	17.3	25.0	30.8	17.3	3.8	23.1	55.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	4.3	12.8	17.0	27.7	38.3	0.0	17.1	44.7
	松葉小学校区 n=47	2.1	17.0	17.0	42.6	21.3	0.0	19.1	59.6
	長山小学校区 n=54	0.0	13.0	31.5	22.2	27.8	5.6	13.0	53.7
	馴馬台小学校区 n=49	4.1	8.2	34.7	24.5	24.5	4.1	12.3	59.2
	久保台小学校区 n=50	2.0	14.0	16.0	44.0	24.0	0.0	16.0	60.0
	城ノ内小学校区 n=57	3.5	21.1	14.0	29.8	29.8	1.8	24.6	43.8

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_④地域住民が集まれる場・活動できる場がある

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『長山小学校区』が48.2%で最も高く、次いで『馴馬台小学校区』が47.0%、『旧北文間小学校区』、『川原代小学校区』がともに46.0%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『馴柴小学校区』が52.3%で最も高く、次いで『八原小学校区』が47.2%、『大宮小学校区』が44.2%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	4.0	32.0	16.0	18.0	30.0	0.0	36.0	34.0
	馴柴小学校区 n=67	4.5	20.9	25.4	26.9	22.4	0.0	25.4	52.3
	八原小学校区 n=53	3.8	24.5	28.3	18.9	22.6	1.9	28.3	47.2
	旧長戸小学校区 n=42	4.8	35.7	21.4	14.3	21.4	2.4	40.5	35.7
	旧北文間小学校区 n=50	12.0	34.0	22.0	8.0	16.0	8.0	46.0	30.0
	川原代小学校区 n=50	12.0	34.0	14.0	18.0	22.0	0.0	46.0	32.0
	大宮小学校区 n=52	7.7	26.9	28.8	15.4	17.3	3.8	34.6	44.2
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	8.5	21.3	17.0	17.0	36.2	0.0	29.8	34.0
	松葉小学校区 n=47	2.1	40.4	25.5	12.8	17.0	2.1	42.5	38.3
	長山小学校区 n=54	5.6	42.6	13.0	11.1	25.9	1.9	48.2	24.1
	馴馬台小学校区 n=49	8.2	38.8	16.3	18.4	14.3	4.1	47.0	34.7
	久保台小学校区 n=50	4.0	34.0	16.0	22.0	22.0	2.0	38.0	38.0
	城ノ内小学校区 n=57	5.3	31.6	14.0	14.0	31.6	3.5	36.9	28.0

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑤子育てしやすい環境になっている

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『駒馬台小学校区』が63.3%で最も高く、次いで『長山小学校区』が57.4%、『八原小学校区』が56.6%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧長戸小学校区』が52.4%で最も高く、次いで『旧北文間小学校区』が36.0%、『大宮小学校区』が34.6%となっています。

		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
単位：%									
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	6.0	40.0	14.0	6.0	34.0	0.0	46.0	20.0
	駒柴小学校区 n=67	6.0	25.4	14.9	16.4	35.8	1.5	31.4	31.3
	八原小学校区 n=53	5.7	50.9	9.4	7.5	24.5	1.9	56.6	16.9
	旧長戸小学校区 n=42	7.1	26.2	23.8	28.6	11.9	2.4	33.3	52.4
	旧北文間小学校区 n=50	4.0	22.0	10.0	26.0	32.0	6.0	26.0	36.0
	川原代小学校区 n=50	6.0	40.0	16.0	10.0	28.0	0.0	46.0	26.0
	大宮小学校区 n=52	1.9	30.8	15.4	19.2	28.8	3.8	32.7	34.6
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	8.5	31.9	14.9	8.5	36.2	0.0	40.4	23.4
	松葉小学校区 n=47	2.1	46.8	10.6	6.4	34.0	0.0	48.9	17.0
	長山小学校区 n=54	7.4	50.0	5.6	9.3	27.8	0.0	57.4	14.9
	駒馬台小学校区 n=49	4.1	59.2	12.2	6.1	14.3	4.1	63.3	18.3
	久保台小学校区 n=50	4.0	40.0	20.0	4.0	32.0	0.0	44.0	24.0
	城ノ内小学校区 n=57	10.5	35.1	14.0	14.0	24.6	1.8	45.6	28.0

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑥子どもの学びの場が充実している

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『長山小学校区』が50.0%で最も高く、次いで『駒馬台小学校区』が46.9%、『八原小学校区』が39.6%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧長戸小学校区』が59.5%で最も高く、次いで『旧北文間小学校区』が52.0%、『大宮小学校区』が44.3%となっています。

		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
単位：%									
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	32.0	14.0	14.0	36.0	2.0	34.0	28.0
	駒柴小学校区 n=67	3.0	22.4	19.4	17.9	35.8	1.5	25.4	37.3
	八原小学校区 n=53	3.8	35.8	24.5	3.8	30.2	1.9	39.6	28.3
	旧長戸小学校区 n=42	2.4	21.4	26.2	33.3	14.3	2.4	23.8	59.5
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	12.0	18.0	34.0	28.0	6.0	14.0	52.0
	川原代小学校区 n=50	4.0	28.0	24.0	14.0	30.0	0.0	32.0	38.0
	大宮小学校区 n=52	1.9	19.2	21.2	23.1	30.8	3.8	21.1	44.3
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	8.5	25.5	19.1	12.8	34.0	0.0	34.0	31.9
	松葉小学校区 n=47	2.1	29.8	25.5	12.8	29.8	0.0	31.9	38.3
	長山小学校区 n=54	5.6	44.4	11.1	9.3	27.8	1.9	50.0	20.4
	駒馬台小学校区 n=49	2.0	44.9	22.4	12.2	14.3	4.1	46.9	34.6
	久保台小学校区 n=50	4.0	22.0	30.0	10.0	34.0	0.0	26.0	40.0
	城ノ内小学校区 n=57	8.8	26.3	12.3	17.5	33.3	1.8	35.1	29.8

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑦健康づくりの場が整っている

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『八原小学校区』が45.3%で最も高く、次いで『龍ヶ崎小学校区』が40.0%、『長山小学校区』が38.9%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧長戸小学校区』が57.1%で最も高く、次いで『大宮小学校区』が50.0%、『旧北文間小学校区』、『川原代小学校区』がともに44.0%となっています。

単位: %		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	38.0	16.0	12.0	28.0	4.0	40.0	28.0
	馴柴小学校区 n=67	1.5	20.9	23.9	19.4	32.8	1.5	22.4	43.3
	八原小学校区 n=53	11.3	34.0	18.9	13.2	18.9	3.8	45.3	32.1
	旧長戸小学校区 n=42	2.4	21.4	38.1	19.0	16.7	2.4	23.8	57.1
	旧北文間小学校区 n=50	4.0	18.0	26.0	18.0	28.0	6.0	22.0	44.0
	川原代小学校区 n=50	4.0	28.0	28.0	16.0	24.0	0.0	32.0	44.0
	大宮小学校区 n=52	3.8	17.3	28.8	21.2	25.0	3.8	21.1	50.0
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	10.6	17.0	19.1	21.3	31.9	0.0	27.6	40.4
	松葉小学校区 n=47	0.0	36.2	29.8	10.6	21.3	2.1	36.2	40.4
	長山小学校区 n=54	1.9	37.0	16.7	11.1	31.5	1.9	38.9	27.8
	馴馬台小学校区 n=49	6.1	32.7	30.6	4.1	22.4	4.1	38.8	34.7
	久保台小学校区 n=50	0.0	26.0	26.0	14.0	34.0	0.0	26.0	40.0
	城ノ内小学校区 n=57	12.3	21.1	19.3	17.5	28.1	1.8	33.4	36.8

※思う合計値:「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値:「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑧介護を必要とする方が安心して生活できる

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『旧長戸小学校区』が28.6%で最も高く、次いで『城ノ内小学校区』が26.4%、『馴馬台小学校区』が22.5%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『大宮小学校区』が48.1%で最も高く、次いで『旧北文間小学校区』、『川原代小学校区』がともに48.0%、『久保台小学校区』が44.0%となっています。

単位: %		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	0.0	20.0	16.0	18.0	44.0	2.0	20.0	34.0
	馴柴小学校区 n=67	0.0	9.0	13.4	20.9	55.2	1.5	9.0	34.3
	八原小学校区 n=53	1.9	3.8	20.8	17.0	52.8	3.8	5.7	37.8
	旧長戸小学校区 n=42	2.4	26.2	26.2	16.7	26.2	2.4	28.6	42.9
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	10.0	24.0	24.0	34.0	6.0	12.0	48.0
	川原代小学校区 n=50	2.0	20.0	32.0	16.0	28.0	2.0	22.0	48.0
	大宮小学校区 n=52	0.0	15.4	26.9	21.2	32.7	3.8	15.4	48.1
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	0.0	21.3	25.5	14.9	38.3	0.0	21.3	40.4
	松葉小学校区 n=47	0.0	14.9	21.3	17.0	46.8	0.0	14.9	38.3
	長山小学校区 n=54	1.9	20.4	24.1	11.1	40.7	1.9	22.3	35.2
	馴馬台小学校区 n=49	4.1	18.4	20.4	14.3	38.8	4.1	22.5	34.7
	久保台小学校区 n=50	0.0	16.0	28.0	16.0	40.0	0.0	16.0	44.0
	城ノ内小学校区 n=57	1.8	24.6	17.5	12.3	42.1	1.8	26.4	29.8

※思う合計値:「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値:「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑨認知症の方やその家族を支える支援が整っている

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『旧長戸小学校区』が21.4%で最も高く、次いで『龍ヶ崎小学校区』が16.0%、『龍ヶ崎西小学校区』が14.9%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『川原代小学校区』、『大宮小学校区』がともに50.0%で最も高く、次いで『旧北文間小学校区』が44.0%、『八原小学校区』が41.6%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	14.0	14.0	14.0	54.0	2.0	16.0	28.0
	馴柴小学校区 n=67	0.0	6.0	7.5	22.4	62.7	1.5	6.0	29.9
	八原小学校区 n=53	0.0	3.8	20.8	20.8	50.9	3.8	3.8	41.6
	旧長戸小学校区 n=42	2.4	19.0	26.2	11.9	38.1	2.4	21.4	38.1
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	6.0	14.0	30.0	42.0	6.0	8.0	44.0
	川原代小学校区 n=50	0.0	14.0	28.0	22.0	36.0	0.0	14.0	50.0
	大宮小学校区 n=52	0.0	7.7	25.0	25.0	38.5	3.8	7.7	50.0
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	2.1	12.8	17.0	19.1	48.9	0.0	14.9	36.1
	松葉小学校区 n=47	0.0	6.4	17.0	10.6	66.0	0.0	6.4	27.6
	長山小学校区 n=54	0.0	9.3	25.9	13.0	50.0	1.9	9.3	38.9
	馴馬台小学校区 n=49	2.0	8.2	16.3	22.4	46.9	4.1	10.2	38.7
	久保台小学校区 n=50	0.0	8.0	18.0	16.0	58.0	0.0	8.0	34.0
	城ノ内小学校区 n=57	1.8	0.0	26.3	14.0	56.1	1.8	1.8	40.3

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑩移動手段に不便がない／移動支援が受けられる

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『龍ヶ崎西小学校区』が34.0%で最も高く、次いで『馴馬台小学校区』が32.6%、『長山小学校区』が31.5%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧長戸小学校区』が73.8%で最も高く、次いで『大宮小学校区』が61.5%、『川原代小学校区』が60.0%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	4.0	10.0	22.0	26.0	38.0	0.0	14.0	48.0
	馴柴小学校区 n=67	1.5	16.4	22.4	29.9	28.4	1.5	17.9	52.3
	八原小学校区 n=53	1.9	15.1	26.4	26.4	26.4	3.8	17.0	52.8
	旧長戸小学校区 n=42	0.0	9.5	26.2	47.6	14.3	2.4	9.5	73.8
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	12.0	24.0	30.0	24.0	8.0	14.0	54.0
	川原代小学校区 n=50	4.0	14.0	32.0	28.0	22.0	0.0	18.0	60.0
	大宮小学校区 n=52	1.9	9.6	19.2	42.3	23.1	3.8	11.5	61.5
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	8.5	25.5	12.8	21.3	31.9	0.0	34.0	34.1
	松葉小学校区 n=47	0.0	21.3	31.9	14.9	31.9	0.0	21.3	46.8
	長山小学校区 n=54	3.7	27.8	33.3	20.4	13.0	1.9	31.5	53.7
	馴馬台小学校区 n=49	6.1	26.5	28.6	24.5	10.2	4.1	32.6	53.1
	久保台小学校区 n=50	4.0	24.0	22.0	18.0	32.0	0.0	28.0	40.0
	城ノ内小学校区 n=57	3.5	17.5	12.3	35.1	29.8	1.8	21.0	47.4

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑪福祉サービスに関する情報が発信されている・受信できている

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『川原代小学校区』が28.0%で最も高く、次いで『龍ヶ崎小学校区』が26.0%、『長山小学校区』が25.9%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧長戸小学校区』が57.2%で最も高く、次いで『川原代小学校区』が48.0%、『八原小学校区』が47.2%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	4.0	22.0	20.0	18.0	36.0	0.0	26.0	38.0
	馴柴小学校区 n=67	0.0	11.9	23.9	20.9	41.8	1.5	11.9	44.8
	八原小学校区 n=53	0.0	11.3	28.3	18.9	37.7	3.8	11.3	47.2
	旧長戸小学校区 n=42	4.8	7.1	28.6	28.6	28.6	2.4	11.9	57.2
	旧北文間小学校区 n=50	6.0	16.0	18.0	28.0	26.0	6.0	22.0	46.0
	川原代小学校区 n=50	4.0	24.0	30.0	18.0	24.0	0.0	28.0	48.0
	大宮小学校区 n=52	1.9	11.5	21.2	23.1	38.5	3.8	13.4	44.3
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	0.0	10.6	17.0	27.7	44.7	0.0	10.6	44.7
	松葉小学校区 n=47	0.0	14.9	25.5	6.4	53.2	0.0	14.9	31.9
	長山小学校区 n=54	0.0	25.9	22.2	14.8	35.2	1.9	25.9	37.0
	馴馬台小学校区 n=49	2.0	14.3	26.5	20.4	32.7	4.1	16.3	46.9
	久保台小学校区 n=50	0.0	12.0	28.0	14.0	46.0	0.0	12.0	42.0
	城ノ内小学校区 n=57	1.8	15.8	19.3	15.8	45.6	1.8	17.6	35.1

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑫生活困窮者が支援を受けている

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『川原代小学校区』が22.0%で最も高く、次いで『龍ヶ崎小学校区』が20.0%、『馴馬台小学校区』が16.3%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧長戸小学校区』が35.7%で最も高く、次いで『川原代小学校区』が32.0%、『龍ヶ崎西小学校区』が29.8%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	4.0	16.0	8.0	20.0	52.0	0.0	20.0	28.0
	馴柴小学校区 n=67	0.0	7.5	9.0	19.4	62.7	1.5	7.5	28.4
	八原小学校区 n=53	0.0	7.5	15.1	7.5	66.0	3.8	7.5	22.6
	旧長戸小学校区 n=42	0.0	14.3	28.6	7.1	47.6	2.4	14.3	35.7
	旧北文間小学校区 n=50	4.0	10.0	12.0	16.0	52.0	6.0	14.0	28.0
	川原代小学校区 n=50	2.0	20.0	24.0	8.0	46.0	0.0	22.0	32.0
	大宮小学校区 n=52	0.0	11.5	17.3	11.5	55.8	3.8	11.5	28.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	0.0	8.5	12.8	17.0	61.7	0.0	8.5	29.8
	松葉小学校区 n=47	0.0	2.1	12.8	8.5	74.5	2.1	2.1	21.3
	長山小学校区 n=54	0.0	11.1	14.8	9.3	63.0	1.9	11.1	24.1
	馴馬台小学校区 n=49	2.0	14.3	18.4	10.2	51.0	4.1	16.3	28.6
	久保台小学校区 n=50	2.0	8.0	14.0	4.0	72.0	0.0	10.0	18.0
	城ノ内小学校区 n=57	1.8	7.0	14.0	14.0	61.4	1.8	8.8	28.0

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑬地域活動やボランティア活動が活発

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『長山小学校区』が25.9%で最も高く、次いで『龍ヶ崎小学校区』、『川原代小学校区』がともに20.0%、『大宮小学校区』が19.2%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧北文間小学校区』が48.0%で最も高く、次いで『旧長戸小学校区』が45.2%、『駒馬台小学校区』が40.8%となっています。

単位：%		そう思う	どちらか と言えば、 そう思う	どちらか と言えば、 思わない	思わない	わから ない	無回答	思う 合計値	思わ ない 合計値
地 区 別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	18.0	30.0	10.0	40.0	0.0	20.0	40.0
	駒柴小学校区 n=67	1.5	14.9	11.9	20.9	49.3	1.5	16.4	32.8
	八原小学校区 n=53	1.9	9.4	22.6	15.1	49.1	1.9	11.3	37.7
	旧長戸小学校区 n=42	0.0	19.0	23.8	21.4	33.3	2.4	19.0	45.2
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	4.0	30.0	18.0	40.0	6.0	6.0	48.0
	川原代小学校区 n=50	0.0	20.0	20.0	18.0	40.0	2.0	20.0	38.0
	大宮小学校区 n=52	0.0	19.2	19.2	15.4	42.3	3.8	19.2	34.6
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	4.3	12.8	10.6	19.1	51.1	2.1	17.1	29.7
	松葉小学校区 n=47	0.0	12.8	23.4	12.8	51.1	0.0	12.8	36.2
	長山小学校区 n=54	0.0	25.9	18.5	9.3	42.6	3.7	25.9	27.8
	駒馬台小学校区 n=49	0.0	16.3	30.6	10.2	36.7	6.1	16.3	40.8
	久保台小学校区 n=50	0.0	14.0	20.0	14.0	52.0	0.0	14.0	34.0
	城ノ内小学校区 n=57	1.8	7.0	24.6	10.5	54.4	1.8	8.8	35.1

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑭防犯・交通安全対策が整っている

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『長山小学校区』が46.3%で最も高く、次いで『龍ヶ崎小学校区』が42.0%、『城ノ内小学校区』が38.6%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧北文間小学校区』が54.0%で最も高く、次いで『旧長戸小学校区』が45.2%、『駒馬台小学校区』が44.9%となっています。

単位：%		そう思う	どちらか と言えば、 そう思う	どちらか と言えば、 思わない	思わない	わから ない	無回答	思う 合計値	思わ ない 合計値
地 区 別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	40.0	10.0	14.0	34.0	0.0	42.0	24.0
	駒柴小学校区 n=67	6.0	28.4	11.9	23.9	29.9	0.0	34.4	35.8
	八原小学校区 n=53	3.8	20.8	20.8	17.0	34.0	3.8	24.6	37.8
	旧長戸小学校区 n=42	0.0	21.4	23.8	21.4	31.0	2.4	21.4	45.2
	旧北文間小学校区 n=50	4.0	20.0	20.0	34.0	16.0	6.0	24.0	54.0
	川原代小学校区 n=50	6.0	32.0	28.0	12.0	22.0	0.0	38.0	40.0
	大宮小学校区 n=52	5.8	26.9	21.2	9.6	32.7	3.8	32.7	30.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	6.4	14.9	10.6	17.0	51.1	0.0	21.3	27.6
	松葉小学校区 n=47	0.0	29.8	23.4	10.6	36.2	0.0	29.8	34.0
	長山小学校区 n=54	1.9	44.4	14.8	7.4	29.6	1.9	46.3	22.2
	駒馬台小学校区 n=49	0.0	28.6	30.6	14.3	22.4	4.1	28.6	44.9
	久保台小学校区 n=50	2.0	34.0	16.0	20.0	28.0	0.0	36.0	36.0
	城ノ内小学校区 n=57	7.0	31.6	14.0	21.1	24.6	1.8	38.6	35.1

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■地区別_⑮防災体制や災害時の取組が整っている

地区別にみると、「そう思う」と「どちらかと言えば、そう思う」の合計値は、『長山小学校区』が40.7%で最も高く、次いで『駒馬台小学校区』が34.7%、『久保台小学校区』が32.0%となっています。

一方で、「思わない」と「どちらかと言えば、思わない」の合計値は、『旧北文間小学校区』が50.0%で最も高く、次いで『川原代小学校区』が40.0%、『駒馬台小学校区』が34.7%となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	2.0	26.0	18.0	12.0	42.0	0.0	28.0	30.0
	駒柴小学校区 n=67	4.5	19.4	13.4	19.4	43.3	0.0	23.9	32.8
	八原小学校区 n=53	0.0	24.5	18.9	11.3	41.5	3.8	24.5	30.2
	旧長戸小学校区 n=42	2.4	23.8	19.0	9.5	40.5	4.8	26.2	28.5
	旧北文間小学校区 n=50	4.0	20.0	26.0	24.0	20.0	6.0	24.0	50.0
	川原代小学校区 n=50	2.0	22.0	28.0	12.0	36.0	0.0	24.0	40.0
	大宮小学校区 n=52	0.0	19.2	23.1	11.5	42.3	3.8	19.2	34.6
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	6.4	19.1	6.4	23.4	44.7	0.0	25.5	29.8
	松葉小学校区 n=47	2.1	21.3	21.3	8.5	46.8	0.0	23.4	29.8
	長山小学校区 n=54	0.0	40.7	11.1	7.4	38.9	1.9	40.7	18.5
	駒馬台小学校区 n=49	2.0	32.7	32.7	2.0	26.5	4.1	34.7	34.7
	久保台小学校区 n=50	2.0	30.0	24.0	10.0	34.0	0.0	32.0	34.0
	城ノ内小学校区 n=57	5.3	21.1	17.5	10.5	43.9	1.8	26.4	28.0

※思う合計値:「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値:「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■年齢別 (⑤子育てしやすい環境になっている)

⑤「子育てしやすい環境になっている」について、年齢別にみたとき、「そう思う」と回答した割合がほぼ5%を下回る中で、子育て現役世代が多く含まれるとみられる『30~39歳』は14.3%と10ポイント弱高い結果となっています。

単位：%		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	22.2	22.2	0.0	55.6	0.0	22.2	22.2
	20~29歳 n=83	4.8	32.5	10.8	8.4	43.4	0.0	37.3	19.2
	30~39歳 n=105	14.3	41.9	15.2	9.5	19.0	0.0	56.2	24.7
	40~49歳 n=125	4.8	48.0	14.4	12.0	20.8	0.0	52.8	26.4
	50~59歳 n=136	5.1	36.0	14.0	15.4	27.9	1.5	41.1	29.4
	60~69歳 n=138	3.6	39.1	15.2	13.8	25.4	2.9	42.7	29.0
70歳以上 n=66	1.5	25.8	9.1	18.2	37.9	7.6	27.3	27.3	

※思う合計値:「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値:「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

■愛着度別（⑥子どもの学びの場が充実している）

地域への愛着度別にみると、各項目で程度の差はありますが、全体的な傾向として、「そう思う」、「どちらかと言えば、そう思う」は愛着度が高いほど回答の割合が高く、一方で「思わない」は愛着度が低いほど回答の割合が高いと言えます。

たとえば、⑥「子どもの学びの場が充実している」における「そう思う」でみると、『とても愛着がある』、『ある程度愛着がある』、『あまり愛着がない』、『まったく愛着がない』の順に 8.8%、3.4%、1.2%、0.0%でした。「どちらかと言えば、そう思う」でもみてみると、順に 36.0%、30.0%、14.1%、12.0%でした。地域への愛着度が高いほど、現状への満足度が高いことが認められます。

逆に同じ項目を「思わない」でみると、『とても愛着がある』、『ある程度愛着がある』、『あまり愛着がない』、『まったく愛着がない』の順に 14.9%、13.8%、22.4%、40.0%でした。地域への愛着度が低いほど、現状への不満の割合が高いとも言えると考えられます。

ただし、項目によっては愛着度が高い回答者であっても満足度の低い回答をしているものも少なくありません。結果から読み取れることは、あくまで、同じ項目について愛着度が高いほど満足度が高くなっていることに注意する必要があります。

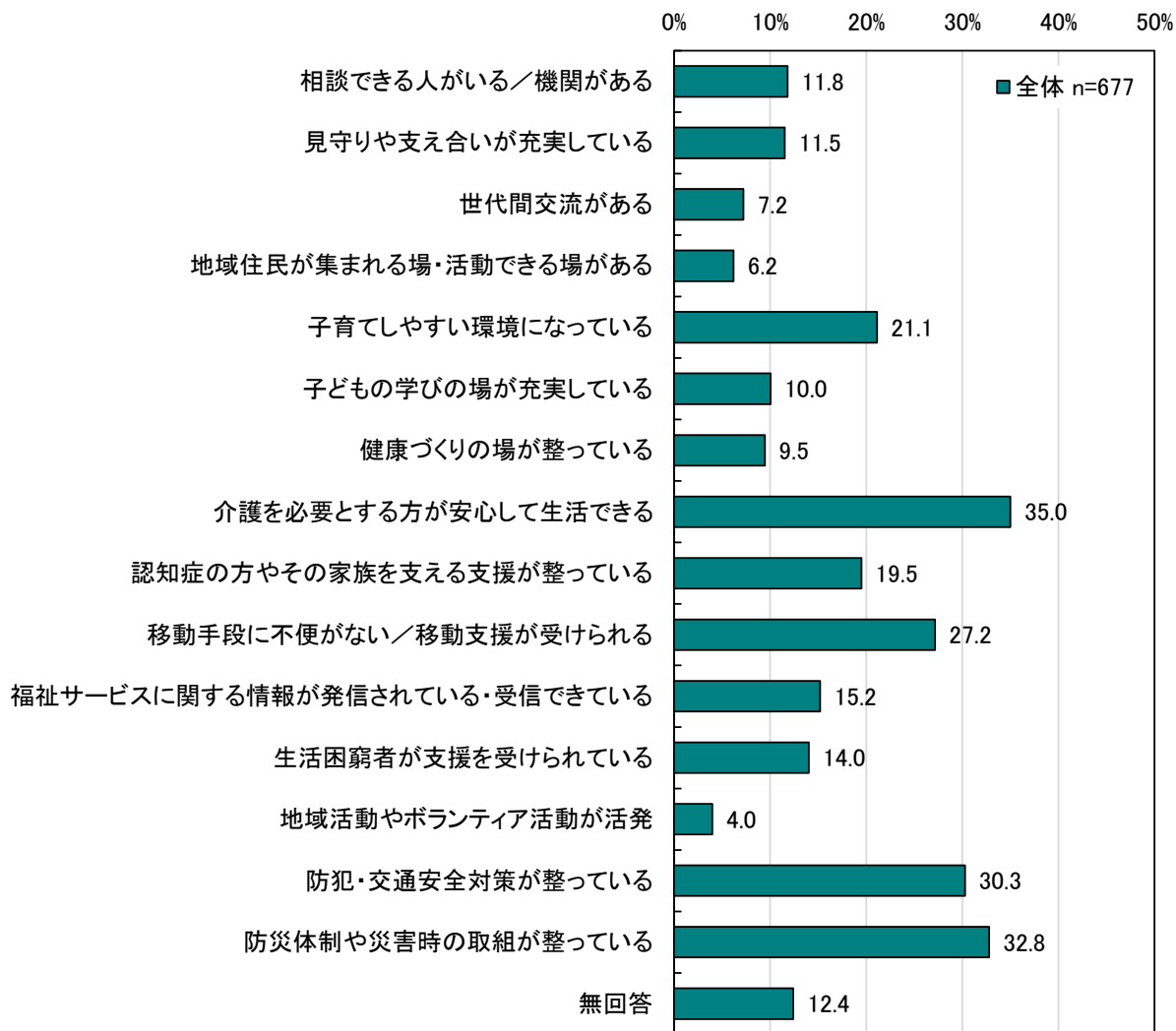
		そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらかと言えば、 思わない	思わない	わからない	無回答	思う 合計値	思わない 合計値
単位：%									
愛着度別	とても愛着がある n=114	8.8	36.0	20.2	14.9	18.4	1.8	44.8	35.1
	ある程度愛着がある n=407	3.4	30.0	20.9	13.8	30.2	1.7	33.4	34.7
	あまり愛着がない n=85	1.2	14.1	25.9	22.4	34.1	2.4	15.3	48.3
	まったく愛着がない n=25	0.0	12.0	20.0	40.0	28.0	0.0	12.0	60.0
	わからない n=44	2.3	25.0	6.8	18.2	45.5	2.3	27.3	25.0

※思う合計値：「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」

※思わない合計値：「どちらかと言えば、思わない」+「思わない」

問 36 問 35 の①から⑮の中から、今後、優先的・重点的に取り組むべきと考える項目を3つまで選び、下表の枠内に項目番号を記入してください。

今後、優先的・重点的に取り組むべきと考える項目については、「介護を必要とする方が安心して生活できる」が35.0%で最も高く、次いで「防災体制や災害時の取組が整っている」が32.8%、「防犯・交通安全対策が整っている」が30.3%となっています。



■年齢別

全体の結果での上位3位を年齢別にみると、「介護を必要とする方が安心して生活できる」は、『70歳以上』が43.9%で最も高く、次いで『60～69歳』が39.1%、『50～59歳』が39.0%となっています。「防災体制や災害時の取組が整っている」は、『30～39歳』が41.9%で最も高く、次いで『40～49歳』が34.4%、『50～59歳』が33.8%となっています。「防犯・交通安全対策が整っている」は、『50～59歳』が36.0%で最も高く、次いで『30～39歳』が34.3%、『40～49歳』が33.6%となっています。

単位：%

年齢別	相談できる人がいる／機関がある	見守りや支え合いが充実している	世代間交流がある	地域住民が集まれる場・活動できる場がある	子育てしやすい環境になっている	子どもの学びの場が充実している	健康づくりの場が整っている	介護を必要とする方が安心して生活できる	認知症の方やその家族を支える支援が整っている
18・19歳 n=18	11.1	5.6	0.0	0.0	27.8	5.6	5.6	11.1	16.7
20～29歳 n=83	14.5	7.2	9.6	9.6	42.2	16.9	7.2	31.3	18.1
30～39歳 n=105	12.4	5.7	1.9	1.9	39.0	21.9	8.6	21.9	13.3
40～49歳 n=125	12.0	11.2	5.6	4.0	18.4	13.6	4.0	38.4	22.4
50～59歳 n=136	13.2	13.2	7.4	5.1	13.2	3.7	10.3	39.0	25.0
60～69歳 n=138	10.9	18.8	14.5	9.4	12.3	3.6	10.9	39.1	17.4
70歳以上 n=66	6.1	7.6	1.5	10.6	6.1	4.5	19.7	43.9	18.2

単位：%

年齢別	移動手段に不便がない／移動支援が受けられる	福祉サービスに関する情報が発信されている・受信できている	生活困窮者が支援を受けられている	地域活動やボランティア活動が活発	防犯・交通安全対策が整っている	防災体制や災害時の取組が整っている	無回答
18・19歳 n=18	44.4	16.7	22.2	5.6	33.3	27.8	16.7
20～29歳 n=83	28.9	12.0	14.5	0.0	24.1	31.3	8.4
30～39歳 n=105	26.7	12.4	14.3	5.7	34.3	41.9	9.5
40～49歳 n=125	30.4	8.8	15.2	4.8	33.6	34.4	12.0
50～59歳 n=136	27.9	15.4	15.4	2.2	36.0	33.8	11.0
60～69歳 n=138	21.7	17.4	14.5	5.8	29.0	26.8	13.8
70歳以上 n=66	24.2	30.3	4.5	4.5	16.7	27.3	22.7

■ 地区別

全体の結果での上位3位を地区別にみると、「介護を必要とする方が安心して生活できる」は、『旧北文間小学校区』、『川原代小学校区』がともに44.0%で最も高く、次いで『馴柴小学校区』が40.3%、『龍ヶ崎小学校区』が40.0%となっています。「防災体制や災害時の取組が整っている」は、『龍ヶ崎小学校区』が40.0%で最も高く、次いで『大宮小学校区』が36.5%、『八原小学校区』が35.8%となっています。「防犯・交通安全対策が整っている」は、『長山小学校区』が37.0%で最も高く、次いで『城ノ内小学校区』が36.8%、『松葉小学校区』が36.2%となっています。

		相談できる人がいる／機関がある	見守りや支え合いが充実している	世代間交流がある	地域住民が集まれる場・活動できる場がある	子育てしやすい環境になっている	子どもの学びの場が充実している	健康づくりの場が整っている	介護を必要とする方が安心して生活できる	認知症の方やその家族を支える支援が整っている
単位：%										
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	16.0	4.0	4.0	2.0	14.0	8.0	4.0	40.0	22.0
	馴柴小学校区 n=67	13.4	14.9	7.5	11.9	14.9	10.4	11.9	40.3	19.4
	八原小学校区 n=53	9.4	17.0	7.5	7.5	30.2	5.7	7.5	35.8	22.6
	旧長戸小学校区 n=42	14.3	7.1	4.8	4.8	16.7	19.0	16.7	31.0	14.3
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	16.0	6.0	4.0	18.0	8.0	6.0	44.0	24.0
	川原代小学校区 n=50	12.0	12.0	8.0	6.0	20.0	12.0	6.0	44.0	32.0
	大宮小学校区 n=52	7.7	7.7	7.7	3.8	32.7	3.8	9.6	28.8	11.5
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	17.0	6.4	4.3	4.3	29.8	12.8	4.3	31.9	14.9
	松葉小学校区 n=47	14.9	8.5	4.3	4.3	14.9	10.6	8.5	29.8	12.8
	長山小学校区 n=54	7.4	9.3	7.4	5.6	20.4	7.4	18.5	33.3	16.7
	馴馬台小学校区 n=49	12.2	14.3	8.2	8.2	20.4	12.2	12.2	30.6	20.4
	久保台小学校区 n=50	14.0	16.0	10.0	6.0	22.0	14.0	14.0	32.0	16.0
	城ノ内小学校区 n=57	14.0	12.3	12.3	10.5	21.1	10.5	3.5	31.6	24.6

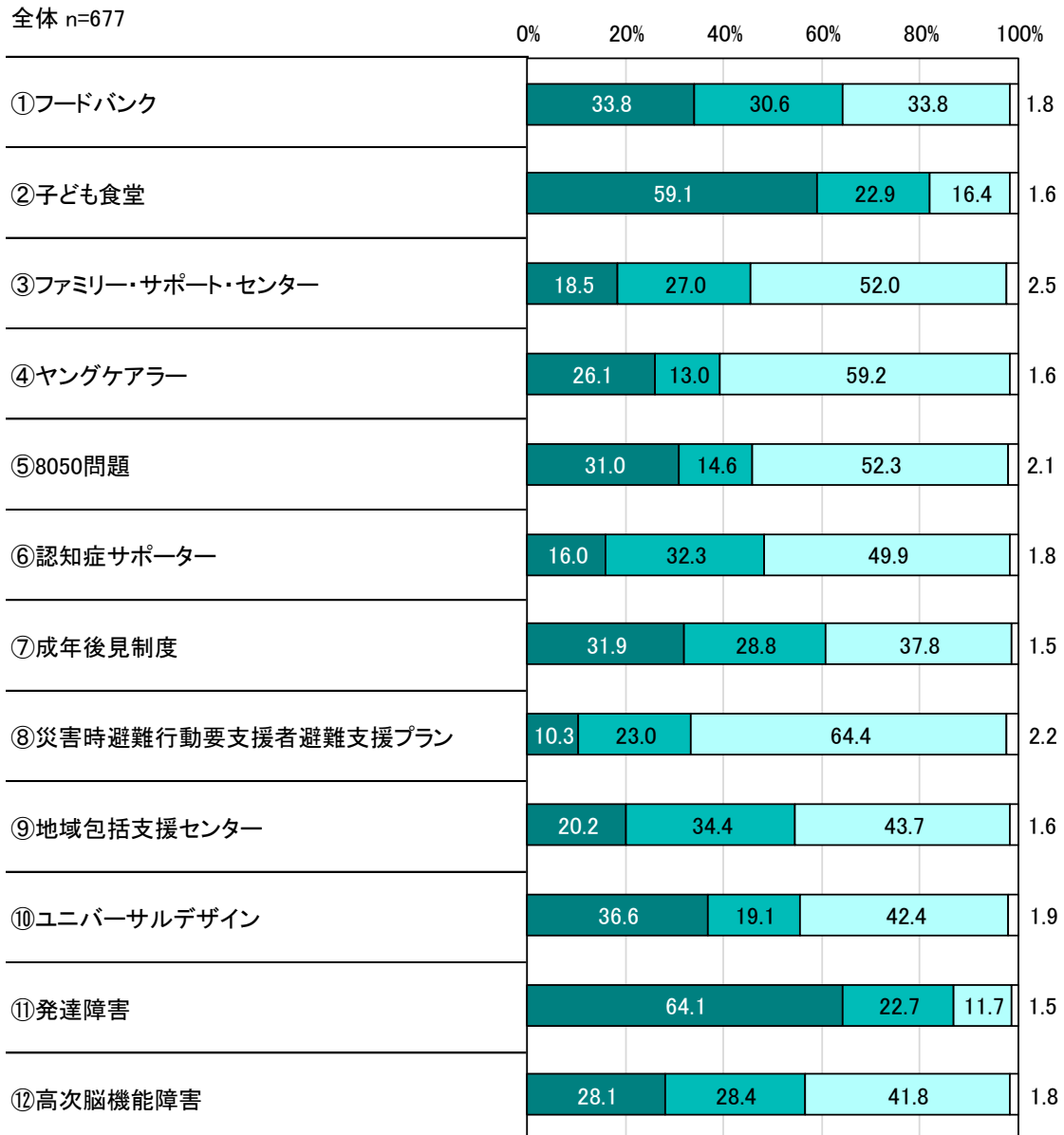
		移動手段に不便がない／移動支援が受けられる	福祉サービスに関する情報が発信されている・受信できている	生活困窮者が支援を受けられている	地域活動やボランティア活動が活発	防犯・交通安全対策が整っている	防災体制や災害時の取組が整っている	無回答
単位：%								
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	32.0	18.0	18.0	4.0	34.0	40.0	12.0
	馴柴小学校区 n=67	17.9	17.9	19.4	3.0	26.9	34.3	10.4
	八原小学校区 n=53	18.9	22.6	9.4	5.7	35.8	35.8	7.5
	旧長戸小学校区 n=42	47.6	4.8	7.1	7.1	23.8	31.0	14.3
	旧北文間小学校区 n=50	28.0	24.0	12.0	0.0	26.0	34.0	14.0
	川原代小学校区 n=50	28.0	16.0	14.0	2.0	22.0	34.0	10.0
	大宮小学校区 n=52	40.4	11.5	11.5	3.8	25.0	36.5	17.3
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	19.1	12.8	21.3	8.5	31.9	31.9	14.9
	松葉小学校区 n=47	25.5	19.1	8.5	0.0	36.2	31.9	14.9
	長山小学校区 n=54	27.8	14.8	18.5	5.6	37.0	22.2	13.0
	馴馬台小学校区 n=49	28.6	12.2	6.1	2.0	18.4	28.6	20.4
	久保台小学校区 n=50	22.0	8.0	22.0	4.0	36.0	32.0	8.0
	城ノ内小学校区 n=57	24.6	14.0	14.0	5.3	36.8	33.3	7.0

問 37 福祉に関する以下の用語について、ご存知ですか。

※①から⑫それぞれに回答してください。(それぞれひとつだけ○)

福祉に関する用語の認知度について、「聞いたことがあり、内容も知っている」をみると、『⑪発達障害』が64.1%で最も高く、次いで『②子ども食堂』が59.1%、『⑩ユニバーサルデザイン』が36.6%となっています。

一方で、「知らない」をみると、『⑧災害時避難行動要支援者避難支援プラン』が64.4%で最も高く、次いで『④ヤングケアラー』が59.2%、『⑤8050問題』が52.3%となっています。



- 聞いたことがあり、内容も知っている
- 聞いたことがあるが、内容は知らない
- 知らない
- 無回答

■年齢別_①フードバンク

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『40～49歳』が40.0%で最も高く、次いで『50～59歳』が38.2%、『30～39歳』が35.2%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	22.2	16.7	61.1	0.0
	20～29歳 n=83	25.3	34.9	39.8	0.0
	30～39歳 n=105	35.2	26.7	37.1	1.0
	40～49歳 n=125	40.0	26.4	33.6	0.0
	50～59歳 n=136	38.2	30.1	30.9	0.7
	60～69歳 n=138	31.2	35.5	29.7	3.6
	70歳以上 n=66	28.8	36.4	27.3	7.6

■年齢別_②子ども食堂

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『30～39歳』が63.8%で最も高く、次いで『40～49歳』が61.6%、『50～59歳』が59.6%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	44.4	38.9	16.7	0.0
	20～29歳 n=83	56.6	14.5	28.9	0.0
	30～39歳 n=105	63.8	21.9	13.3	1.0
	40～49歳 n=125	61.6	19.2	18.4	0.8
	50～59歳 n=136	59.6	25.0	14.7	0.7
	60～69歳 n=138	59.4	25.4	12.3	2.9
	70歳以上 n=66	53.0	28.8	12.1	6.1

■年齢別_③ファミリー・サポート・センター

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『30～39歳』が34.3%で最も高く、次いで『40～49歳』が26.4%、『20～29歳』が22.9%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	22.2	11.1	66.7	0.0
	20～29歳 n=83	22.9	21.7	55.4	0.0
	30～39歳 n=105	34.3	20.0	44.8	1.0
	40～49歳 n=125	26.4	30.4	43.2	0.0
	50～59歳 n=136	14.0	30.9	52.9	2.2
	60～69歳 n=138	2.9	31.2	60.9	5.1
	70歳以上 n=66	12.1	27.3	51.5	9.1

■年齢別_④ヤングケアラー

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『70歳以上』が39.4%で最も高く、次いで『60～69歳』が31.2%、『40～49歳』が27.2%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	5.6	16.7	77.8	0.0
	20～29歳 n=83	20.5	10.8	68.7	0.0
	30～39歳 n=105	20.0	15.2	63.8	1.0
	40～49歳 n=125	27.2	14.4	58.4	0.0
	50～59歳 n=136	24.3	12.5	61.8	1.5
	60～69歳 n=138	31.2	12.3	53.6	2.9
	70歳以上 n=66	39.4	12.1	42.4	6.1

■年齢別_⑤8050問題

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『60～69歳』が34.8%で最も高く、次いで『40～49歳』が34.4%、『70歳以上』が33.3%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	16.7	22.2	61.1	0.0
	20～29歳 n=83	25.3	10.8	63.9	0.0
	30～39歳 n=105	23.8	18.1	57.1	1.0
	40～49歳 n=125	34.4	11.2	53.6	0.8
	50～59歳 n=136	33.1	13.2	52.2	1.5
	60～69歳 n=138	34.8	17.4	44.9	2.9
	70歳以上 n=66	33.3	16.7	40.9	9.1

■年齢別_⑥認知症サポーター

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『20～29歳』が27.7%で最も高く、次いで『30～39歳』が17.1%、『50～59歳』が15.4%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	11.1	11.1	77.8	0.0
	20～29歳 n=83	27.7	16.9	55.4	0.0
	30～39歳 n=105	17.1	26.7	55.2	1.0
	40～49歳 n=125	12.0	33.6	53.6	0.8
	50～59歳 n=136	15.4	39.0	44.1	1.5
	60～69歳 n=138	14.5	37.0	45.7	2.9
	70歳以上 n=66	12.1	42.4	39.4	6.1

■ 年齢別__⑦成年後見制度

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『70歳以上』が42.4%で最も高く、次いで『60～69歳』が38.4%、『50～59歳』が31.6%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	5.6	16.7	77.8	0.0
	20～29歳 n=83	25.3	16.9	57.8	0.0
	30～39歳 n=105	30.5	26.7	41.9	1.0
	40～49歳 n=125	28.8	32.0	39.2	0.0
	50～59歳 n=136	31.6	35.3	32.4	0.7
	60～69歳 n=138	38.4	32.6	26.1	2.9
	70歳以上 n=66	42.4	24.2	27.3	6.1

■ 年齢別__⑧災害時避難行動要支援者避難支援プラン

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『70歳以上』が16.7%で最も高く、次いで『60～69歳』が15.2%、『20～29歳』が10.8%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	0.0	0.0	100.0	0.0
	20～29歳 n=83	10.8	12.0	77.1	0.0
	30～39歳 n=105	6.7	20.0	72.4	1.0
	40～49歳 n=125	10.4	21.6	67.2	0.8
	50～59歳 n=136	5.9	31.6	61.0	1.5
	60～69歳 n=138	15.2	27.5	52.9	4.3
	70歳以上 n=66	16.7	25.8	50.0	7.6

■ 年齢別__⑨地域包括支援センター

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『30～39歳』が23.8%で最も高く、次いで『50～59歳』が22.8%、『70歳以上』が22.7%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	5.6	11.1	83.3	0.0
	20～29歳 n=83	21.7	28.9	49.4	0.0
	30～39歳 n=105	23.8	34.3	41.9	0.0
	40～49歳 n=125	12.8	36.0	50.4	0.8
	50～59歳 n=136	22.8	37.5	39.0	0.7
	60～69歳 n=138	21.0	37.0	38.4	3.6
	70歳以上 n=66	22.7	34.8	36.4	6.1

■年齢別_⑩ユニバーサルデザイン

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『18・19歳』が66.7%で最も高く、次いで『20～29歳』が63.9%、『30～39歳』が39.0%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	66.7	16.7	16.7	0.0
	20～29歳 n=83	63.9	12.0	22.9	1.2
	30～39歳 n=105	39.0	24.8	35.2	1.0
	40～49歳 n=125	34.4	20.8	44.8	0.0
	50～59歳 n=136	36.0	20.6	42.6	0.7
	60～69歳 n=138	28.3	18.1	50.0	3.6
	70歳以上 n=66	13.6	13.6	65.2	7.6

■年齢別_⑪発達障害

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『18・19歳』が77.8%で最も高く、次いで『20～29歳』が73.5%、『30～39歳』が67.6%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	77.8	5.6	16.7	0.0
	20～29歳 n=83	73.5	16.9	9.6	0.0
	30～39歳 n=105	67.6	21.9	9.5	1.0
	40～49歳 n=125	62.4	23.2	14.4	0.0
	50～59歳 n=136	65.4	23.5	10.3	0.7
	60～69歳 n=138	61.6	23.9	11.6	2.9
	70歳以上 n=66	48.5	31.8	13.6	6.1

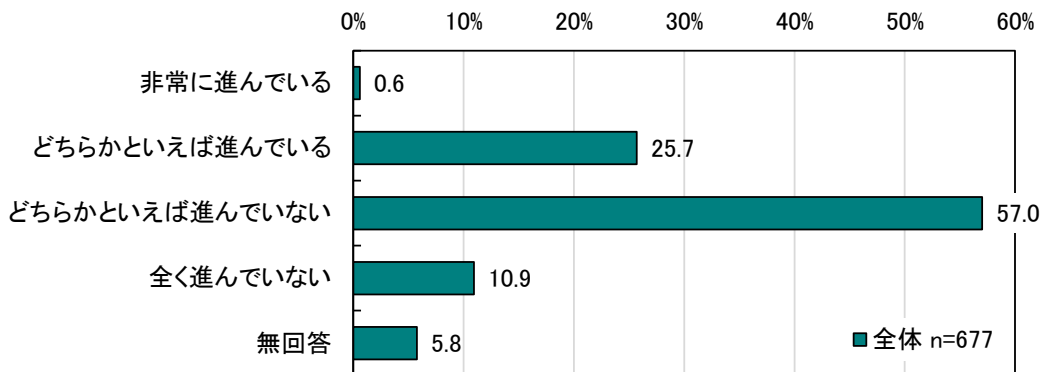
■年齢別_⑫高次脳機能障害

年齢別にみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、『30～39歳』が35.2%で最も高く、次いで『50～59歳』が33.8%、『20～29歳』が31.3%となっています。

単位：%		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
年齢別	18・19歳 n=18	11.1	11.1	77.8	0.0
	20～29歳 n=83	31.3	25.3	42.2	1.2
	30～39歳 n=105	35.2	23.8	40.0	1.0
	40～49歳 n=125	28.8	29.6	41.6	0.0
	50～59歳 n=136	33.8	32.4	32.4	1.5
	60～69歳 n=138	18.8	36.2	42.0	2.9
	70歳以上 n=66	22.7	19.7	51.5	6.1

問 38 あなたは、龍ケ崎市の地域福祉に関する市民と行政の連携・協働について、どのように感じていますか。(ひとつだけ○)

龍ケ崎市の地域福祉に関する市民と行政の連携・協働については、「どちらかといえば進んでいない」が 57.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば進んでいる」が 25.7%、「全く進んでいない」が 10.9%となっています。



■ 年齢別

年齢別にみると、「非常に進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」の合計値は、『30～39 歳』が 29.5%で最も高く、次いで『70 歳以上』が 28.8%、『18・19 歳』が 27.8%となっています。

一方で、「全く進んでいない」と「どちらかといえば進んでいない」の合計値は、『40～49 歳』が 71.2%で最も高く、次いで『20～29 歳』が 71.1%、『50～59 歳』が 69.8%となっています。

年齢別	単位: %	非常に進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	全く進んでいない	無回答	合計値	
							進んでいる	進んでいない
18・19歳 n=18		0.0	27.8	61.1	5.6	5.6	27.8	66.7
20～29歳 n=83		0.0	27.7	62.7	8.4	1.2	27.7	71.1
30～39歳 n=105		1.9	27.6	52.4	14.3	3.8	29.5	66.7
40～49歳 n=125		0.8	24.0	62.4	8.8	4.0	24.8	71.2
50～59歳 n=136		0.7	22.8	55.1	14.7	6.6	23.5	69.8
60～69歳 n=138		0.0	26.1	55.1	10.9	8.0	26.1	66.0
70歳以上 n=66		0.0	28.8	54.5	6.1	10.6	28.8	60.6

※進んでいる合計値:「非常に進んでいる」+「どちらかといえば進んでいる」

※進んでいない合計値:「どちらかといえば進んでいない」+「全く進んでいない」

■地区別

地区別にみると、「非常に進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」の合計値は、『長山小学校区』が38.9%で最も高く、次いで『龍ヶ崎小学校区』が36.0%、『旧長戸小学校区』、『駒馬台小学校区』がともに28.6%となっています。

一方で、「全く進んでいない」と「どちらかといえば進んでいない」の合計値は、『龍ヶ崎西小学校区』が74.4%で最も高く、次いで『久保台小学校区』が74.0%、『大宮小学校区』が71.1%となっています。

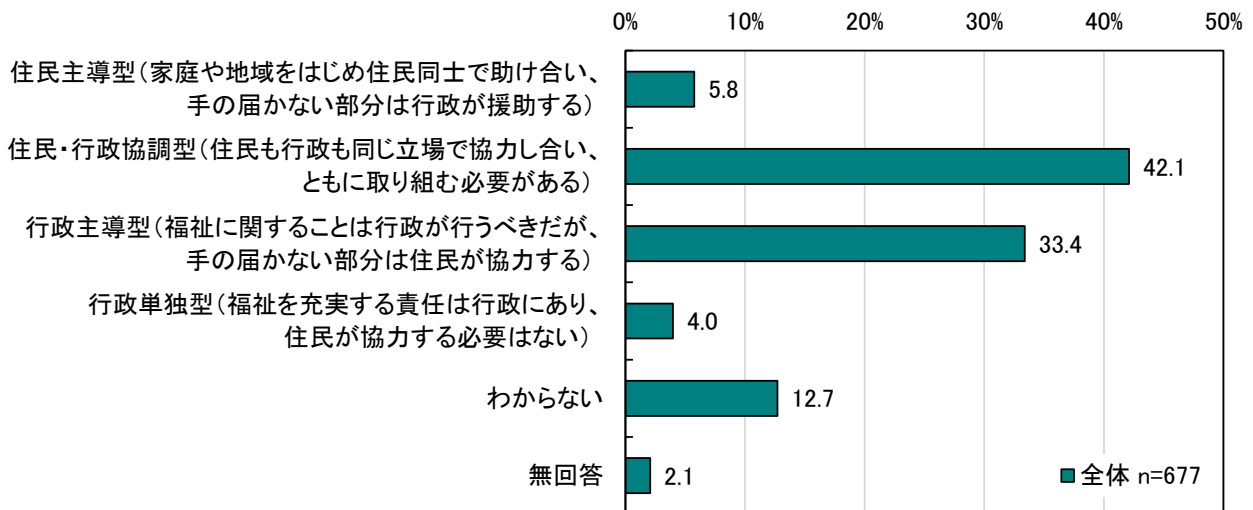
		非常に進 んでいる	どちらか といえ ば進 んでいる	どちらか といえ ば進 んでい ない	全く進 んで いない	無回答	進んで いる 合計 値	進んで いない 合計 値
単位：%								
地 区 別	龍ヶ崎小学校区 n=50	0.0	36.0	58.0	6.0	0.0	36.0	64.0
	駒柴小学校区 n=67	1.5	22.4	49.3	19.4	7.5	23.9	68.7
	八原小学校区 n=53	0.0	18.9	54.7	15.1	11.3	18.9	69.8
	旧長戸小学校区 n=42	0.0	28.6	57.1	7.1	7.1	28.6	64.2
	旧北文間小学校区 n=50	2.0	24.0	54.0	6.0	14.0	26.0	60.0
	川原代小学校区 n=50	0.0	24.0	68.0	2.0	6.0	24.0	70.0
	大宮小学校区 n=52	0.0	19.2	59.6	11.5	9.6	19.2	71.1
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	4.3	19.1	57.4	17.0	2.1	23.4	74.4
	松葉小学校区 n=47	0.0	25.5	59.6	6.4	8.5	25.5	66.0
	長山小学校区 n=54	0.0	38.9	46.3	13.0	1.9	38.9	59.3
	駒馬台小学校区 n=49	0.0	28.6	57.1	10.2	4.1	28.6	67.3
	久保台小学校区 n=50	0.0	24.0	64.0	10.0	2.0	24.0	74.0
	城ノ内小学校区 n=57	0.0	28.1	57.9	12.3	1.8	28.1	70.2

※進んでいる合計値：「非常に進んでいる」+「どちらかといえば進んでいる」

※進んでいない合計値：「どちらかといえば進んでいない」+「全く進んでいない」

問 39 地域での福祉活動を充実させていくうえで、市民と行政との関係はどのようなかたちが望ましいと思いますか。(ひとつだけ○)

地域での福祉活動を充実させていくうえで、望ましいと思う市民と行政との関係については、「住民・行政協調型（住民も行政も同じ立場で協力し合い、ともに取り組む必要がある）」が 42.1%で最も高く、次いで「行政主導型（福祉に関することは行政が行うべきだが、手の届かない部分は住民が協力する）」が 33.4%、「わからない」が 12.7%となっています。



■ 年齢別

年齢別にみると、「住民・行政協調型（住民も行政も同じ立場で協力し合い、ともに取り組む必要がある）」は、『18・19歳』が 50.0%で最も高く、次いで『20～29歳』が 47.0%、『40～49歳』が 44.8%となっています。

年齢別	住民主導型(家庭や地域をはじめ住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助する)	住民・行政協調型(住民も行政も同じ立場で協力し合い、ともに取り組む必要がある)	行政主導型(福祉に関することは行政が行うべきだが、手の届かない部分は住民が協力する)	行政単独型(福祉を充実する責任は行政にあり、住民が協力する必要はない)	わからない	無回答
18・19歳 n=18	0.0	50.0	16.7	5.6	27.8	0.0
20～29歳 n=83	4.8	47.0	24.1	3.6	20.5	0.0
30～39歳 n=105	10.5	37.1	33.3	3.8	14.3	1.0
40～49歳 n=125	3.2	44.8	32.8	5.6	12.8	0.8
50～59歳 n=136	4.4	41.9	35.3	5.9	11.8	0.7
60～69歳 n=138	4.3	42.0	39.9	0.7	8.7	4.3
70歳以上 n=66	10.6	36.4	34.8	3.0	7.6	7.6

単位: %

■地区別

地区別にみると、「住民・行政協調型（住民も行政も同じ立場で協力し合い、ともに取り組む必要がある）」は、『龍ヶ崎西小学校区』が48.9%で最も高く、次いで『長山小学校区』が48.1%、『久保台小学校区』が48.0%となっています。

単位：%		住民主導型(家庭や地域をはじめ住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助する)	住民・行政協調型(住民も行政も同じ立場で協力し合い、ともに取り組む必要がある)	行政主導型(福祉に関することは行政が行うべきだが、手の届かない部分は住民が協力する)	行政単独型(福祉を充実する責任は行政にあり、住民が協力する必要はない)	わからない	無回答
地区別	龍ヶ崎小学校区 n=50	6.0	38.0	34.0	4.0	18.0	0.0
	馴柴小学校区 n=67	4.5	47.8	34.3	0.0	11.9	1.5
	八原小学校区 n=53	3.8	41.5	35.8	1.9	11.3	5.7
	旧長戸小学校区 n=42	16.7	35.7	23.8	7.1	11.9	4.8
	旧北文間小学校区 n=50	6.0	42.0	36.0	4.0	6.0	6.0
	川原代小学校区 n=50	8.0	42.0	28.0	6.0	14.0	2.0
	大宮小学校区 n=52	3.8	40.4	34.6	1.9	15.4	3.8
	龍ヶ崎西小学校区 n=47	8.5	48.9	25.5	2.1	14.9	0.0
	松葉小学校区 n=47	2.1	44.7	42.6	6.4	4.3	0.0
	長山小学校区 n=54	5.6	48.1	25.9	5.6	13.0	1.9
	馴馬台小学校区 n=49	2.0	40.8	32.7	8.2	14.3	2.0
	久保台小学校区 n=50	2.0	48.0	40.0	0.0	10.0	0.0
	城ノ内小学校区 n=57	7.0	26.3	42.1	5.3	19.3	0.0

問 40 龍ヶ崎市の地域福祉について、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

龍ヶ崎市の地域福祉に対する意見や要望については、調査回答数 677 票のうち 153 票の意見が寄せられました。

寄せられた意見は、「高齢者福祉について」、「障がい者福祉について」、「子育て全般について」、「健康について」、「安全・安心について」、「公共交通・移動手段について」、「地域コミュニティについて」、「行政全般について」、「その他」の9項目に分類・整理し、主な意見は下記のとおりです。

1. 高齢者福祉について

- 一人暮らしの高齢者等の買い物困難者が多いように感じる。移動スーパーが増えたら、もっと生活しやすい地域になると思う。
- 充実した生活が送れる高齢者施設が増えていくと良いと思う。
- 介護が必要になった時には、すぐに対応してほしい。
- 介護する人を支える支援などがあれば、より安心して暮らすことができると思う。
- 友人に聞かなければ介護保険サービスの事すら知らなかった。もっと介護保険制度のことを知ってもらうようにした方が良いと思う。
- 今年の3月より介護を受ける立場になった。10年前、母が同じ様に介護を受けたが、その時に比べれば充実させていると思う。
- 子どもがいない夫婦だが、高齢者となった時に誰に相談すれば良いのか、将来のことを考えると不安。
- これからますます、高齢化社会になります。自分では誰にも迷惑をかけないように、健康づくりには気をつけているが、介護が必要になった時に住み慣れた所で安心して暮らせるような地域づくりを望んでいる。
- 93歳の母が福祉サービスを受けている。担当者の質が高く、食事の配達、入浴サービス等、母が幸せに感じる支援を受けている。市の心温まる対応、ケアマネジャーの働きぶりに深く感謝している。

2. 障がい者福祉について

- 障がい者でも働ける環境がほしい。目に見える障がいだけではなく、発達障がい者に対しても医療費や交通費、年金など、もう少し優しい制度になれば少し生きやすくなると思う。
- 内部障がいの方が安心して出掛けられる支援や、バリアフリーの施設を増やしてほしい。
- 発達障がいの孫がいるが、もっと積極的に、子どもと親へ、将来に希望が持てる支援をしてほしい。
- 本人は、知的障がい者で、アンケートの内容を理解できないため、母親が代筆した。私（母親）との2人暮らしで、20年以上この地で暮らしているが、もし私が息子の面倒を見られなくなった時、連絡する術は本人にはない。

3. 子育て全般について

- 子育てしやすいまち日本一と言っているが、特にそう思える所がない。子どもたちが安心して遊べる場所、施設を充実させてほしい。
- さんさん館をいつでも利用できるよう、また保護者2名+子どもで行けるようにしてほしい。
- 未就学の子どもが2人いるが、親子で体験できる何かがたくさんあると良いなと思う。コロナ禍により、下の子どもは子育て支援センターなどは、全然利用できていない。同い年ぐらいの子どもたちとふれあえたらと思う。
- 小学校のトイレを洋式にしてほしい。
- 牛久市の上町ふれあい保育園のように、小学校内に保育園を設置し、子育て中の親の世代間交流がしやすい環境はとも良いと思う。
- 守谷市のような児童館をたつ子山以外にもつくってほしい。平日の午後に開いている4歳以上の居場所がない。
- こども新生活応援事業地域商品券が子どもたちの名前が届き、とても子どもたちは喜んでた。障がいや介護がもっと理解される地域になってもらいたい。

4. 健康について

- コロナ禍で生活は厳しいと思うが、健康づくりは大切だと思う。
- 今の私には、少しでも健康でありながら生きるのみ。子どもの世話にはなれない。食事をしっかりととり、よく寝て、眠れぬ夜はラジオでもかけて頭の体操。

5. 安全・安心について

- 防犯、交通安全として市内の街灯を増やしてほしい。
- 歩行者用の道路が狭い。段差がある。一人で買い物に行きたくても、道がこわい。
- 雑草が伸びていることにより、見通しが悪く、事故になりそうな所が多々ある。
- バイクの音がうるさい。
- 自主防災会を運営していくにあたり、防災の想定が不透明。行政主導で各地区の想定プラン（避難する人数など）を作成してもらった上で、備蓄品や防災訓練を行ったほうがスムーズだと思う。
- 防災無線がわかりにくい。
- 近所の耳の不自由な方から、災害時の避難行動の声かけをしてほしいとの声が上がリ、その時は班長をしていたので引き受けたが、年度初めに、確認の連絡もなく「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」が送られてくるのが10年程続いた。正直、この10年あまりに荷が重かった。一度、避難の声かけをする事があったが、自宅にはおらず、電話にも応答はなく、結局本人は入院していて、なんかむなしかった。
- 雇用や最低限の生活を、安心して送ることのできる仕組みづくりが必要なのではと感じている。

6. 公共交通・移動手段について

- 自家用車しか移動手段がない。
- コミュニティバスの本数が少なすぎて困る。
- 駅までのバスの本数が少ない。特に土日祝日の増便をしてほしい。
- バス、龍ヶ崎鉄道の本数が少ない。学生や高齢者にとっては少し不便だと思う。
- 高齢者の人が無理なく外出できる制度を考えてほしい。
- コミュニティバスに人が乗っているのを見たことがない。バスをなくし、介護タクシーを充実させる等、考えたほうが良いのでは。

7. 地域コミュニティについて

- アパートに住んでいる人は、町内会との関わり、近隣との交流がなく、寂しく思う事がある。
- 以前から住んでいる方々の高齢化、新しく転入してきた若年層の方など、交流を進めていくには大きな垣根があり、その垣根を取り除いていくことが大切かと推察する。
- 忙しくて余裕がない人が増えている中で、誰かを頼り、支え合うのは難しいと思うのが正直な気持ち。
- 私は大学卒業後、職場以外の人とのコミュニティが減ってしまったので、地域の中にも、災害時などに助け合えるコミュニティがあると良いと思うが、地域コミュニティは高齢者中心のイメージが強く、若者世代の立場から見ると、やや参入しにくい印象がある。
- 現在、運動会やソフトボール大会等、住民が一堂に会するものが無いと思う。数年に一回程度でも、市が音頭を取って、住民同士が交流する機会を考えても良いのではと思う。
- 個人情報の規制を無くし、誰もが深く知り合える人間関係をつくれるようにすべき。
- コロナ禍で、行事や人とのつながりがなくなり、情報を得る手段も少なくなった。平常な生活に戻れば、また少しは変わるかも知れないが、この期間が長くなれば、人とのつながりは本当に薄れてしまいそうである。
- コロナ禍で、高齢者や子どもだけでなく、不安を抱える人が集う場所が減ったように思う。
- 地域での支え合いは重要だが、入り込みすぎると問題が発生することもあり、逆に心労を抱える事になるかもしれない。信頼関係が大事だと思う。

8. 行政全般について

- PCやスマホも無いので、「ホームページ」「LINE」「アプリ」と言われてもわからない。
- 情報をもっと得たい。広報紙等で知り得るようにしてもらいたい。
- 空き家対策に力を入れてほしい。
- コミュニティセンターの活用が一部のの人々に偏っているように感じる。
- 市内で具体的にどんな活動を、どんな方たちが行っているのか、どんなことに困っているのかを知る機会が少ない。わからないから参加しづらい。もっと気軽に出来ることがあれば、手を貸したいと思う人は多いと思う。
- 地域のサービスは、情報を持っている一部の方のみが恩恵を受けている印象。広く伝わるように発信してほしい。
- 働く人が多くなった今も、土日は窓口が開かないので何かと不便。使いたいサービスも、まず面倒な手続きがあり、後回しになりがち。本当に利用したい人には使いづらいのではないかなと思う。
- 龍ヶ崎市は若い人が減り、高齢者が増えている状況で、今までの地域福祉の考えでは、若い人に負担がかかると思う。特に家庭を持っている年代だとなかなかボランティアも難しい。市がもっと積極的に動き、主役となって足りない部分を市民に頼る方向にシフトしてはどうか。
- 地区にはいろんな特技や専門的な知識、技能を持っている人が沢山いると思う。そのような人材を把握して、地区のために活動してもらうか、活動できる場所を提供するか等、アイデア一つで地区の活性化につながると思う。

9. その他

- インターネットを利用したアンケートの推進。郵便代の節約。
- 地域福祉について、まだまだ知らない事が多くあり、改めて考えさせられる機会になった。
- ボランティアのハードルを低くして、元気が余っているシニアの活力を生かす場を設けてほしい。
- 民生委員の仕事が詳しくわからない。面識がなく、どう相談して良いのかわからない。
- 私は現在大学生であり、大学の学務や教員、授業から地域に関する情報を得ている。その情報の中で、茨城県の一部の市町村では、大学生の意見を取り入れる機会をつくる参画プロジェクトなど、学生が行政に関わるプロジェクトがある。龍ヶ崎市には流通経済大学の他に、複数の高校や小中学校があるため、学生が地域福祉や行政に対して、討論、意見交換できる企画があれば、より多岐にわたる視点や市民の意見を集めることができると思う。
- 町内会等では高齢者が多いため、高齢者福祉問題が優先となり、現役世代はうんざりしている。このままではニュータウンはオールドタウンとなり、若い世代には魅力のないまちとなっていく。

Ⅲ 調査のまとめ

1 回答者の属性について

性別について（問1）は、男性より女性の回答が多く、少数ではあるものの、「それ以外」、「答えたくない」との回答もありました。

年齢について（問2）は、18～29歳が15.0%、30～59歳が54.1%、60歳以上が30.1%の構成となっています。

居住地区について（問5）は、概ね均等に回答が得られています。また、居住年数（問6）では、「20～30年未満」が27.6%で最も高く、次いで「10～20年未満」が18.9%、「30～40年未満」が18.8%となっています。なお、30年以上の居住年数を地区別にみると、『大宮小学校区』が69.3%で最も高く、次いで『旧長戸小学校区』が64.4%、『旧北文間小学校区』が60.0%となっています。

2 あなたと「地域との関わり」について

近所付き合いについて（問8）は、前回調査に比べて、「会えばあいさつをするくらい」が18.4ポイント、「ほとんどもしくは全く付き合いはない」が3.7ポイント増加する一方で、「お互いに訪問し合う」が9.6ポイント、「立ち話をするくらい」が10.1ポイントの減少となっています。また、近所での困っている家庭への手助けについて（問9・問10）も、「ごみ出し」、「買い物の手伝い」などの項目は、前回調査に比べて大きく減少しています。以前に比べて、「自分のライフスタイルを崩さない範囲で、相手のプライバシーに配慮しつつ、できることをやってあげたいが、何をしたら良いのかわからない」というような考えが広がっているものと思われます。また、コロナ禍において、人と人との接触機会の減少等により、地域コミュニティの希薄化、隣近所の協力関係や地域力の弱体化が進行していると考えられます。今後は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況や、コロナと共存する可能性などを踏まえた、新たな地域コミュニティの在り方を検討していく必要があります。

自分が不自由になったときにしてほしい支援について（問11）は、困っている家庭にしてあげられる手助け（問10）の分布とそれほど変わりませんが、買い物や外出の手伝いなどの項目で支援してほしいと思う割合が高く出ています。この結果から「周辺の支援はしてあげられるが、してほしいのは直接的な支援」との考えがうかがえます。

自分や家族に介護が必要になった時の考え方について、家族に対して（問13）は、自宅で家族が中心となって介護をしたいと考えているものの、自分について（問14）は、福祉施設への入所や自宅で主に福祉サービスを受けたいという結果になりました。問14のその他の回答に「家族に迷惑をかけたくない」、「長生きしたくない」が目立ちましたが、このような迷惑をかけまいとする家族への遠慮の気持ちを反映した結果にもみえます。

日常生活における悩みや不安について（問15）は、「自分や家族の健康」、「自分や家族の老後」では5割を超え、他の項目に比べても高い割合を示しています。また、相談先について（問16）は、前回調査と同様に、「家族」、「親族」、「友人・知人」が上位に挙げられています。現在、分野ごとに多様な相談窓口の充実が図られてきている状況であることから、実際に相談したいときに、適切な相談窓口へとつながるよう、情報提供の充実、相談窓口の周知も重要な取組であると考えられます。

地域の防災訓練への参加について（問17）は、参加しているのは16.5%に留まっています。また、実施していることを知らない割合は、年齢が低くなるほど高くなる傾向がみられます。なお、同様の傾向がみられる設問として、民生委員・児童委員の活動内容について（問19）、いずれも知らないと答える割合は、年齢が低くなるほど高くなる傾向がみられることから、年代に応じた情報発信の検討も必要であると考えられます。

情報の入手について（問 20）は、「ほとんど入手できていない」が 41.5%と高く、必要な情報を得られていないと感じている人の割合が、前回調査より増えていることがわかります。現在は情報社会にあって、行政が持っている多くの情報の中から必要な情報を見つけ出せない人が多いと考えられます。適切な情報を必要な人に届きやすくするための改善は避けられない課題です。

住民同士の地域づくりを推進するための方策について（問 23）は、知り合っけて付き合うことの必要性を示す回答が多くみられました。また、その他の回答には様々な意見が多数寄せられ、さまざまな課題もみえました。その中に、「参加することにより得られるメリットを設ける」というようなものがありました。逆に「一部の参加者の声が大きく、やらされている感覚を解消してほしい」というような意見もあります。ともすると上下関係が生じてしまうので、地域住民が対等な関係で付き合える場になるよう調整することが重要とされます。

地域の範囲について（問 25）は、狭い範囲となる「隣組（班）」、「区・自治会・町内会等」で約 7 割を占めています。なお、年齢が低いほうが、「小学校区」、「中学校区」、「市全体」の割合が高く、広い範囲で地域を捉えている方が多い傾向がみられます。これは、年代により地域や社会と関わる範囲が異なることが影響しているとも考えられます。

地域への愛着について（問 26）は、「とても愛着がある」、「ある程度愛着がある」で 76.9%を占めることから、比較的、愛着を持ち生活している方は多いと考えられます。また、居住年数別にみると、居住年数が 5 年を超えると、愛着がある合計値（「とても愛着がある」、「ある程度愛着がある」の合計値の割合）が 7 割を超えることから、地域への愛着が高まる分岐点は、5～10 年の間であると考えられます。

3 「地域に関わる活動」について

地域活動への参加状況について（問 27）は、「参加している」をみると、『地域の奉仕活動（一斉清掃など）』が 33.7%で最も高く、次いで『地域の行事（夏祭り、運動会、文化祭、その他交流行事など）』が 17.1%、『地域の団体の会議（自治会、子ども会、敬老会など）』が 12.0%となっています。また、『地域の奉仕活動（一斉清掃など）』は、年齢が高くなるほど、参加している割合は高くなり、60 歳以上では 5 割を超えています。

地域活動への参加理由について（問 28）は、「区・自治会・町内会等の役員、各種委員になっていた」が半数を超え、他の項目に比べても高い割合を示していることから、避けられずしかたなく参加している人が多いことがうかがえます。

地域活動における課題について（問 29）は、「参加者の年代の偏り」が 39.7%で最も高く、次いで「参加者の固定化」が 37.2%、「後継者不足」が 35.3%となっています。地区によって各項目に対する割合は異なりますが、どの地区もこれら上位 3 位の項目に「活動内容のマンネリ化」を加えた 4 項目が上位を占めていることから、課題解決にはこれを踏まえて検討事項を精査し、各地区の実情に合わせて取組を検討していく必要があります。

ボランティア活動への参加状況について（問 31）は、「参加している」の割合は低いものとなっています。その中で、参加している割合が比較的高いのが『環境美化に関する活動』です。参加のきっかけ（問 32）は、「地域の役に立ちたかった」を除けば、「友人・知人に誘われた」、「付き合いがある」、「人に頼まれた」などという受動的な理由が上位を占めています。現在のコロナ禍では、地域コミュニティと同様に、人と人との接触機会の削減等により、誘い合いながらボランティア活動に参加することは難しい状況にあることから、コロナ禍において、どのような取組により参加が促進されるのか、また活動の活性化を図っていけるのか、検討していく必要があります。

4 「地域福祉施策」について

地域の現状について(問 35)、肯定的に捉えられている項目は、「子育てしやすい環境になっている」、「相談できる人がいる／機関がある」、「地域住民が集まれる場・活動できる場がある」が上位3位に挙げられています。子育て環境では、教育・保育に関する施設や内容が充実したことにより、子育て世代からの一定の評価が得られていることは、集計結果からもうかがい知れます。また、相談機関においては、高齢者の分野では地域包括支援センター、子育ての分野では子育て支援センターなど、各分野での相談機関を整備し充実を図ってきたことにより、こちらも一定の評価を得られているものと考えられます。

一方で、否定的に捉えられている項目は、「世代間交流がある」、「移動手段に不便がない／移動支援が受けられる」、「福祉サービスに関する情報が発信されている・受診できている」が上位3位に挙げられています。世代間交流では、以前より住まわれている中高年層の住民と、引っ越してきた若い世代の住民との交流が促進されていないことなども影響しているのではないかと考えられます。また、移動手段においては、自家用車しか移動手段がないことや、コミュニティバスの運行に関する意見も寄せられている(問 40_6)ことから、満足度を向上させるよう手段を講じる必要があると考えられます。

今後、優先的・重点的に取り組むべきと考える項目について(問 36)は、「介護を必要とする方が安心して生活できる」が35.0%で最も高く、次いで「防災体制や災害時の取組が整っている」が32.8%、「防犯・交通安全対策が整っている」が30.3%となっています。また、年齢別にみると、取り組むべきと考える項目は、例えば、「子育てしやすい環境になっている」では20～39歳で割合が高く出るなど、関係する年齢で割合が高くなります。地域づくりにおいては、住民のニーズや、世代が求めている取組などを把握し、優先順位を検討しながら取り組んでいく必要があります。

福祉に関する用語の認知度について(問 37)は、『子ども食堂』、『発達障害』それぞれ59.1%、64.1%と6割前後の方が内容まで知っているという状況です。一方で、『認知症サポーター』で16.0%、『災害時避難行動要支援者避難支援プラン』で10.3%の方が内容まで知っているという状況です。比較的、新しい用語で、メディアでも取り上げられる機会が多かった『フードバンク』、『ヤングケアラー』は、それぞれ33.8%、26.1%と約3割の方が内容まで知っている状況であり、以前からの取組であるもののあまりメディアに登場しない『認知症サポーター』、『災害時避難行動要支援者避難支援プラン』よりも認知されています。住民が福祉に関する様々な取組を認知することにより、地域における各種活動との関わり方にも影響を与えられられることから、社会の問題、地域の問題を、住民が知る機会、触れる機会が必要であると考えられます。

地域福祉を推進する上での市民と行政の連携・協働について(問 38)は、進んでいると回答した方が約3割、進んでいないと回答した方が約7割となっています。有意義な方策を考える上でのヒントを求めて様々なクロス集計を行いました。有意差はみられませんでした。今後、連携・協働を進めるにあたっては、現状と課題を見据えながら、さらに検討を深めていく必要があります。

地域福祉を推進する上での市民と行政の関係について(問 39)は、住民・行政協調型が約4割、行政主導型が約3割となっています。地域福祉に関する全てを行政で賄いきれない現状に理解を示す人がいる一方で、「福祉は行政だけがやるもの」という考え方も根強いことがわかります。

全体を通して、地域への愛着度が高い人ほど、地域福祉の現状に対する満足度や貢献意欲が高い傾向がみられました。——その地域が住みよいと愛着が増す、地域での居住状況が満足なら参画意欲が高まる——地域への愛着度や地域福祉活動への参画意欲を醸成し、促進するための施策を行うことが重要であると考えられます。

IV 資料編（使用した調査票）

龍ヶ崎市地域福祉に関するアンケート ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から当市福祉行政にご理解ご協力くださり厚くお礼申し上げます。

このたび、平成28年度に策定した「龍ヶ崎市第2期地域福祉計画」の見直しを行うこととなりました。このアンケート調査は、これまでの取り組みを検証し、成果を把握するとともに、今後策定する次期計画の参考のため実施するものです。

この調査は、龍ヶ崎市にお住まいの18歳以上の方から2,000人を無作為に抽出し、調査票をお送りしています。ご回答いただいた内容は、統計的に処理し、計画策定以外の目的で使用することはありません。つきましては、本アンケート調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見をお聞かせくださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

令和3年6月

龍ヶ崎市長 中山 一生

<ご記入にあたってのお願い>

- ・ 質問には、あて名のご本人がご回答ください。ご本人の記入が困難な場合は、ご家族の方などがご本人の考えをお聞きの上、代理でご記入ください。
- ・ ご記入は、黒のボールペン、または濃い鉛筆でお願いします。
- ・ O印は、番号を囲むようにつけてください。
質問によって、(ひとつだけO) (3つまでにO)
のように、ことわり書きがあります。説明に従ってご回答ください。
- ・ お答えで「その他」を選んだときは、() 内にその内容を具体的に記入してください。
- ・ 設問によっては、ご回答いただく方が限られる場合があります。注意書きや矢印に従ってご回答ください。特に注意書きのない場合は次の設問へお進みください。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、
7月2日（金）までにお近くの郵便ポストに投函してください。

（お名前やご住所の記入は不要です）

この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

龍ヶ崎市役所 福祉部 社会福祉課 社会福祉推進グループ

〒301-8611 茨城県龍ヶ崎市 3710 番地

電 話：0297-64-1111（代表） F A X：0297-64-7008

1. あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別をお答えください。（ひとつだけ○）

- | | | | |
|-------|-------|---------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. それ以外 | 4. 答えたくない |
|-------|-------|---------|-----------|

問2 あなたの年齢をお答えください。（ひとつだけ○）

※令和3年6月1日現在でお答えください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|
| 1. 18・19歳 | 3. 30～39歳 | 5. 50～59歳 | 7. 70歳以上 |
| 2. 20～29歳 | 4. 40～49歳 | 6. 60～69歳 | |

問3 あなたの就労状況（職業）は次のどれに当てはまりますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 正社員 | 5. 学生 |
| 2. 契約社員・派遣社員 | 6. 年金生活者 |
| 3. パート・アルバイト等 | 7. 無職（専業主婦・夫を含む） |
| 4. 自営業 | 8. その他 |

問4 あなたの家族構成（同居人）について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|------------|--------------------|-----------------|
| 1. 未就学児 | 4. 配偶者（内縁関係の場合を含む） | 7. 1～6以外の同居人 |
| 2. 小学生・中学生 | 5. 65～74歳の同居人 | 8. ひとり世帯（同居人なし） |
| 3. 高校生・大学生 | 6. 75歳以上の同居人 | |

問5 あなたがお住まいの地区（小学校区）はどこですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|-------------|----------------|---------------|
| 1. 龍ヶ崎小学校区 | 6. 川原代小学校区 | 10. 長山小学校区 |
| 2. 馴染小学校区 | 7. 大宮小学校区 | 11. 馴染台小学校区 |
| 3. 八原小学校区 | 8. 龍ヶ崎西小学校区 | 12. 久保台小学校区 |
| 4. 旧長戸小学校区 | （旧北文間小学校区を除く。） | 13. 城ノ内小学校区 |
| 5. 旧北文間小学校区 | 9. 松葉小学校区 | （旧長戸小学校区を除く。） |

※お住まいの小学校区がわからない場合には、地区名か町名をお書きください。⇒（_____）

問6 龍ヶ崎市に、あなたは何年住んでいますか。（ひとつだけ○）

- | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 3. 5～10年未満 | 5. 20～30年未満 | 7. 40～50年未満 |
| 2. 1～5年未満 | 4. 10～20年未満 | 6. 30～40年未満 | 8. 50年以上 |

問7 あなたのお住まいの形態は次のどれですか。（ひとつだけ○）

- | |
|-------------------------------|
| 1. 持ち家（一戸建て） |
| 2. 持ち家（マンションなどの集合住宅） |
| 3. 民間の賃貸住宅（一戸建て） |
| 4. 民間の賃貸住宅（アパート・マンションなどの集合住宅） |
| 5. 公営住宅 |
| 6. 社宅（アパートの借り上げ住宅も含む）・公務員住宅 |
| 7. その他 |

2. あなたと「地域との関わり」についておたずねします。

問8 あなたは、近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 困ったときに相談し助け合う | 4. 会えばあいさつをするくらい |
| 2. お互いに訪問し合う | 5. ほとんどもしくは全く付き合いはない |
| 3. 立ち話をするくらい | |

問9 隣近所に住んでいる、何らかの支援を必要としている方（ひとり暮らしの高齢者・介護をしている家族、子育て中の家族等）への支援（日常生活上の手助け・お手伝い）について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（ひとつだけ○）

- | |
|----------------------------------|
| 1. 近所に住む者として、できる範囲で支援したい |
| 2. 支援をしたいが、何をすればいいのかわからない |
| 3. 支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない |
| 4. 支援は市役所などがやる仕事なので、近所の者がしなくてもよい |
| 5. 余計なお世話になってしまうので、支援はしない |
| 6. その他 |
| 7. わからない |

問10 隣近所に、介護や、子育てで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 見守りや安否確認の声かけ | 7. 通院などの外出の手伝い |
| 2. 話し相手 | 8. 短時間の子どもの預かり |
| 3. 買い物の手伝い | 9. 災害時の手助け |
| 4. ごみ出し | 10. 悩み事の相談相手 |
| 5. 家事、庭木の手入れなどの手伝い | 11. その他 |
| 6. 食事の配食 | 12. 特にない |

問11 あなたは、日常生活が不自由になったとき、地域でどのような支援をしてほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 見守りや安否確認の声かけ | 7. 通院などの外出の手伝い |
| 2. 話し相手 | 8. 短時間の子どもの預かり |
| 3. 買い物の手伝い | 9. 災害時の手助け |
| 4. ごみ出し | 10. 悩み事の相談相手 |
| 5. 家事、庭木の手入れなどの手伝い | 11. その他 |
| 6. 食事の配食 | 12. 特にない |

問12 あなたやあなたの家族に福祉サービスが必要になったとき、福祉サービスの利用について、あなたはどのようにしたいとお考えですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|---------------|-----------------|----------|
| 1. 利用したい | 3. できるだけ利用したくない | 5. わからない |
| 2. できるだけ利用したい | 4. 利用したくない | |

※福祉サービスとは、介護、看護、家事などの生活支援、生活能力向上や就業のための訓練などを指します。福祉サービスは大きく3つに分けられ、自宅で受けられるもの、施設に通所して受けられるもの、施設に入所して受けられるものがあります。

問 13 もし、あなたの家族のどなたかに介護が必要になった場合、あなたはどのようにしたいとお考えですか。（ひとつだけ○）

1. 家族だけで介護をする
2. 家族が中心となって介護をするが、足りないところは福祉サービスを利用する
3. 積極的に福祉サービスを利用して在宅で介護をする
4. 福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所してもらい、福祉サービスを利用する
5. その他
6. わからない

問 14 あなたは、将来、介護が必要になったとき、どのように暮らしたいとお考えですか。（ひとつだけ○）

1. 現在の自宅で、主に家族の介護を受けて暮らしたい
2. 現在の自宅で、主に福祉サービスを利用して暮らしたい
3. 子どもや親せきの家に転居して、そこで暮らしたい
4. 福祉施設（老人ホーム、グループホームなど）に入所したい
5. その他
6. わからない

問 15 あなた、あるいはあなたの家族は現在、日々の生活において、主にどのような悩みや不安を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 自分や家族の健康 | 8. 住まいに関すること |
| 2. 自分や家族の老後 | 9. 地域の治安 |
| 3. 生きがいに関すること | 10. 災害時の備えに関すること |
| 4. 子育てに関すること | 11. 人権問題に関すること |
| 5. 介護の問題 | 12. その他 |
| 6. 経済的な問題 | 13. 悩みや不安はない |
| 7. 隣近所との関係 | |

問 16 あなたは、悩みや不安について、誰にもしくはどこに相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 家族 | 10. 地域包括支援センター（ケアマネジャー等） |
| 2. 親族 | 11. 福祉サービス事業所 |
| 3. 近所の人 | 12. 医療機関（医師、看護師など）や薬局 |
| 4. 友人・知人 | 13. NPO、ボランティア団体 |
| 5. 市役所の窓口や職員 | 14. その他 |
| 6. 民生委員・児童委員 | 15. 相談できる人がいない |
| 7. 職場の上司や同僚 | 16. どこに相談してよいかわからない |
| 8. 区・自治会・町内会等の役員 | 17. だれかに相談する必要はない |
| 9. 社会福祉協議会の窓口や職員 | |

問 17 あなたは、日頃から地域の防災訓練に参加していますか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|-------|--------|----------------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. 実施しているか知らない |
|-------|--------|----------------|

問 18 地震や火災などの災害時に住民同士が協力しあえるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

1. 災害時に自力で避難することが困難な人の支援計画を地域のみinnで考える
2. 地域での自主防災組織づくり
3. 地域での定期的な防災訓練
4. 地域での勉強会
5. 福祉サービス事業者や行政との連携
6. 日頃からの隣近所との関係づくり
7. その他
8. 特にない

問 19 民生委員・児童委員は、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会を目指して、さまざまな活動を行っています。民生委員・児童委員が行う活動として、ご存知の内容を選んでください。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 日常生活の悩みや心配ごとの相談 | 4. 子どもに関する相談 |
| 2. 福祉に関する情報の提供 | 5. 関係機関の依頼による事実確認等 |
| 3. 高齢者など支援が必要な人への訪問 | 6. いずれも知らない |

問 20 あなたは、福祉サービスに関する情報をどの程度入手できていると感じていますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 十分に入手できている | 4. ほとんど入手できていない |
| 2. ある程度入手できている | 5. わからない |
| 3. あまり入手できていない | 6. その他 |

問 21 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 市役所の窓口や広報紙、ホームページ
2. 社会福祉協議会の窓口や広報紙、ホームページ
3. 民生委員・児童委員
4. NPO、ボランティア団体
5. 福祉サービス事業所
6. 医療機関（医師、看護師など）や薬局
7. 家族・親族
8. 近所の人、友人・知人
9. 地域包括支援センター（ケアマネジャーなど）
10. 学校や職場
11. 地域の回覧板
12. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ
13. 市役所と社会福祉協議会のホームページ以外のインターネット情報サイト
14. SNS（LINE・Facebook・Twitter等のソーシャル・ネットワーキング・サービス）
15. その他
16. 入手先がわからない
17. 情報を入手する必要がない

問 22 今後、あなたは、地域社会での生活で起こる問題に対して、住民相互の自主的な協力関係が必要だと思いますか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|-----------|-------------|----------|
| 1. 必要だと思う | 2. 必要だと思わない | 3. わからない |
|-----------|-------------|----------|

問 23 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、どのようなことを行う必要があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-----------------------------------------|
| 1. 地域の人々が知り合い、触れ合う機会を増やすこと |
| 2. 同じ立場にある人同士が力を合わせる |
| 3. 支え合う地域づくりに関する情報の提供や意識啓発をすること |
| 4. 地域の区・自治会・町内会等の活動やボランティア活動への参加をうながすこと |
| 5. 地域で活動するさまざまな団体相互の交流を進めること |
| 6. その他 |
| 7. わからない |

問 24 あなたは、地域の支え合いについて、市民同士で話し合う場が開催された場合、参加したいと思いますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. ぜひ参加したい | 3. あまり参加したくない |
| 2. 時間や曜日などの条件が合えば参加したい | 4. 参加するつもりはない |

問 25 あなたにとって「地域」とは、どういった範囲のことだと思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。（ひとつだけ○）

- | | | |
|---------------|---------|--------|
| 1. 隣組（班） | 3. 小学校区 | 5. 市全体 |
| 2. 区・自治会・町内会等 | 4. 中学校区 | 6. その他 |

問 26 あなたは、お住まいの地域に愛着をお持ちですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| 1. とても愛着がある | 3. あまり愛着がない | 5. わからない |
| 2. ある程度愛着がある | 4. まったく愛着がない | |

3. 「地域に関わる活動」についておたずねします。

問 27 あなたは、以下の地域活動にどの程度参加していますか。

※①から⑥それぞれに回答してください。（それぞれひとつだけ○）

	参加している	参加したことがある	参加したことがない
①地域の行事（夏祭り、運動会、文化祭、その他交流行事など）	1	2	3
②地域の団体の会議（自治会、子ども会、敬老会など）	1	2	3
③地域の防犯・防災・交通安全に関する活動（登下校の見守り、自主防災会など）	1	2	3
④地域の奉仕活動（一斉清掃など）	1	2	3
⑤地域のサークル活動（趣味やスポーツに関するものなど）	1	2	3
⑥小中学校行事（PTAの役員会、バザー、奉仕活動、講演など）	1	2	3

➡ ①から⑥の項目で、1つでも『参加している/参加したことがある』を選んだ人 ⇒ 問 28・29 へ
 ➡ ①から⑥の項目で、全て『参加したことがない』を選んだ人 ⇒ 問 30 へ

問 27 の①から⑥の項目で、1つでも『参加している/参加したことがある』を選んだ人におたずねします。

問 28 地域活動に参加している、あるいは参加したことがある理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 行事や活動の内容に興味や関心があった	6. なんとなく、昔からそうしている
2. 区・自治会・町内会等の役員、各種委員になっていた	7. 参加しないと住みづらくなる
3. 近所に住む者の義務である	8. 時間に余裕がある
4. 大勢で活動するのが楽しい	9. その他
5. 近所の人や知り合いに誘われた	10. わからない

⇒回答後、問 29 へお進みください。

問 27 の①から⑥の項目で、1つでも『参加している/参加したことがある』を選んだ人におたずねします。

問 29 参加している、あるいは参加したことがある地域活動について、課題だと思えることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 後継者不足	4. 参加者の年代の偏り	7. その他
2. 活動内容のマンネリ化	5. 活動場所がない	8. 特に感じていない
3. 参加者の固定化	6. 資金不足	

⇒回答後、問 31 へお進みください。

問 27 の①から⑥の項目で、全て『参加したことがない』を選んだ人におたずねします。

問 30 地域活動に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1.（きっかけとなる）情報が得られない／参加のしかたがわからない
2. 病気などの理由から、体調面で不安がある
3. 忙しく時間が割けない（仕事、家事、育児、介護など）
4. 交通手段がないため、実施場所に行けない
5. 一緒に参加してくれる知り合いがおらず心細い
6. 役員ではないため、参加する必要がない
7. 行くと役員をさせられる／役員をやりたくない
8. 趣味、余暇活動など、自分の時間を優先したい
9. 付き合いがわずらわしい
10. 関心がない／参加したいものがない
11. その他
12. わからない

⇒回答後、問 31 へお進みください。

すべての人におたずねします。

問 31 あなたは、以下のボランティア活動にどの程度参加していますか。

※①から⑩それぞれに回答してください。（それぞれひとつだけ○）

	参加している	参加したことがある	参加したことがない
①高齢者に関する活動 （高齢者の見守り活動、趣味のクラブ活動等への協力、老人ホーム等の施設訪問 など）	1	2	3
②障がい者に関する活動 （手話や音読・点字訳による支援や外出支援、施設訪問 など）	1	2	3
③子育てに関する活動 （託児、子育て相談や子育てサークル支援 など）	1	2	3
④保健・医療に関する活動 （健康教室等の支援、通院支援や病院訪問 など）	1	2	3
⑤青少年に関する活動 （悩みごと相談や交流、子ども会活動等の支援 など）	1	2	3
⑥環境美化に関する活動 （自然愛護や美化運動、リサイクル運動 など）	1	2	3
⑦文化や芸術に関する活動 （各種公演や展示などのイベント運営支援 など）	1	2	3
⑧スポーツに関する活動 （大会の運営支援 など）	1	2	3
⑨防災や防犯、交通安全等に関する活動 （災害ボランティア、見回り、パトロール など）	1	2	3
⑩国際交流・国際協力に関する活動 （日本語教室、来日者交流事業、技術指導 など）	1	2	3

- ➡ ①から⑩の項目で、1つでも『参加している／参加したことがある』を選んだ人 ⇒ 問 32 へ
 ➡ ①から⑩の項目で、全て『参加したことがない』を選んだ人 ⇒ 問 33 へ

問 31 の①から⑩の項目で、1つでも『参加している／参加したことがある』を選んだ人におたずねします。

問 32 ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 自分に必要だった | 7. 友人をつくりたかった |
| 2. 友人・知人に誘われた | 8. 趣味や特技を生かしたい |
| 3. 人の役に立ちたかった | 9. 余暇を有効に活用したい |
| 4. 地域の役に立ちたかった | 10. 人に頼まれた |
| 5. 付き合いがある | 11. 何となく |
| 6. 楽しそうだった | 12. その他 |

⇒回答後、問 34 へお進みください。

問 31 の①から⑩の項目で、全て『参加したことがない』を選んだ人におたずねします。

問 33 ボランティア活動に参加したことがない理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | |
|------------------------------------|
| 1. (きっかけとなる) 情報が得られない／参加のしかたがわからない |
| 2. 病気などの理由から、体調面で不安がある |
| 3. 忙しく時間が割けない(仕事、家事、育児、介護など) |
| 4. 交通手段がないため、実施場所に行けない |
| 5. 一緒に参加してくれる知り合いがおらず心細い |
| 6. 役員ではないため、参加する必要がない |
| 7. 行くと役員をさせられる／役員をやりたくない |
| 8. 趣味、余暇活動など、自分の時間を優先したい |
| 9. 付き合いがわずらわしい |
| 10. 関心がない／参加したいものがない |
| 11. 報酬が出ない |
| 12. その他 |
| 13. わからない |

⇒回答後、問 34 へお進みください。

すべての人におたずねします。

問 34 多くの人が地域活動やボランティア活動に参加しやすくなるためには、どのような条件が必要だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|------------------------------------------|
| 1. 自分にあつた時間や内容の活動がある |
| 2. 自分の仕事や特技を生かせる |
| 3. 活動資金の補助、援助が充実している |
| 4. 事前にボランティア講座を受けられる |
| 5. 友人や家族と一緒に活動できる |
| 6. 家族や職場の理解が得られる |
| 7. 自分の所属する学校や職場など身近な場所で活動できる |
| 8. ボランティアグループに加入できる |
| 9. 身近な団体や活動内容に関する情報がある |
| 10. 活動の参加によるメリット(進学や就職に有利、若干でも報酬がある等)がある |
| 11. その他 |
| 12. 参加してみたいとは思わない |

4. 「地域福祉施策」についておたずねします。

問 35 以下の項目について、あなたがお住まいの地域の現状をどのように感じていますか。
 ※①から⑮それぞれに回答してください。（それぞれひとつだけ○）

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらかと言えば、思わない	思わない	わからない
①相談できる人がいる／機関がある	1	2	3	4	5
②見守りや支え合いが充実している	1	2	3	4	5
③世代間交流がある	1	2	3	4	5
④地域住民が集まれる場・活動できる場がある	1	2	3	4	5
⑤子育てしやすい環境になっている	1	2	3	4	5
⑥子どもの学びの場が充実している	1	2	3	4	5
⑦健康づくりの場が整っている	1	2	3	4	5
⑧介護を必要とする方が安心して生活できる	1	2	3	4	5
⑨認知症の方やその家族を支える支援が整っている	1	2	3	4	5
⑩移動手段に不便がない／移動支援が受けられる	1	2	3	4	5
⑪福祉サービスに関する情報が発信されている・受信できている	1	2	3	4	5
⑫生活困窮者が支援を受けられている	1	2	3	4	5
⑬地域活動やボランティア活動が活発	1	2	3	4	5
⑭防犯・交通安全対策が整っている	1	2	3	4	5
⑮防災体制や災害時の取組が整っている	1	2	3	4	5

問 36 問 35 の①から⑮の中から、今後、優先的・重点的に取り組むべきと考える項目を3つまで選び、下表の枠内に項目番号を記入してください。

--	--	--

問 37 福祉に関する以下の用語について、ご存知ですか。

※①から⑫それぞれに回答してください。（それぞれひとつだけ○）

	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことがあるが、 内容は知らない	知らない
①フードバンク	1	2	3
②子ども食堂	1	2	3
③ファミリー・サポート・センター	1	2	3
④ヤングケアラー	1	2	3
⑤8050 問題	1	2	3
⑥認知症サポーター	1	2	3
⑦成年後見制度	1	2	3
⑧災害時避難行動要支援者避難支援プラン	1	2	3
⑨地域包括支援センター	1	2	3
⑩ユニバーサルデザイン	1	2	3
⑪発達障害	1	2	3
⑫高次脳機能障害	1	2	3

問 38 あなたは、龍ヶ崎市の地域福祉に関する市民と行政の連携・協働について、どのように感じていますか。（ひとつだけ○）

1. 非常に進んでいる	3. どちらかといえば進んでいない
2. どちらかといえば進んでいる	4. 全く進んでいない

問 39 地域での福祉活動を充実させていくうえで、市民と行政との関係はどのようなかたちが望ましいと思いますか。（ひとつだけ○）

1. 住民主導型（家庭や地域をはじめ住民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が援助する）
2. 住民・行政協調型（住民も行政も同じ立場で協力し合い、ともに取り組む必要がある）
3. 行政主導型（福祉に関することは行政が行うべきだが、手の届かない部分は住民が協力する）
4. 行政単独型（福祉を充実する責任は行政にあり、住民が協力する必要はない）
5. わからない

問 40 龍ヶ崎市の地域福祉について、ご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

お忙しいところ、ご協力をいただきありがとうございました。
記入漏れがないか、もう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、
7月2日（金）までにお近くの郵便ポストに投函してください。

【参考】

地域福祉とは

地域福祉とは、子どもから高齢者、障がいのある人もない人も「住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らすことができるよう、地域住民が主役となって進める地域づくりの取り組み」のことをいいます。「福祉」というと、高齢者福祉や障がい者福祉、児童福祉など特定の人のためのものというイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。しかし、誰でも病気になったり、子育てに悩んだり、日頃の生活の中で、何らかの手助けが必要となる場合があります。

また、特定の施設に入所するのではなく、住み慣れた場所で、顔見知りの仲間たちに囲まれて、変わることなく生活したいと多くの方が望んでいます。健康づくりのお手伝い、家事援助、話し相手、安否確認といった手助けを地域でお互いに行っていくことが求められています。



龍ヶ崎市では、

人と人との関わりが希薄化している中、「人のやさしさ」「人とのふれあい」「人と人とのささえあい」の大切さを理解し、「地域に活力を与え、住民みんなでまちを育てていく」ことを理念として、地域福祉を推進しています。

その実現に向け、計画策定の参考とするため、
また、地域のことや生活の課題などを知るために、
このアンケート調査を行いました。



ご協力ありがとうございました。

龍ヶ崎市
地域福祉に関するアンケート調査
【結果報告書】

令和3年10月

発行：龍ヶ崎市
調査実施：龍ヶ崎市福祉部社会福祉課

〒301-8611 茨城県龍ヶ崎市 3710 番地
TEL：0297-64-1111 FAX：0297-64-7008